

# 貝 谷 遺 跡

志津見ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書 16

国土交通省中国地方整備局  
島根県教育委員会

2002年3月

# 貝 谷 遺 跡

志津見ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書 16

国土交通省中国地方整備局  
島根県教育委員会

2002年3月

# 序

当事務所では、いわゆる斐伊川・神戸川治水計画3点セットの一翼を担う事業として、神戸川の上流に平成22年度完成を目指に志津見ダムの建設事業を進めています。このダムにより、頓原町大字角井・志津見・八神にわたり面積約2.3km<sup>2</sup>もの貯水池ができることとなります。ダムによる水没予定地内には多くの遺跡の存在が予想されたことから、ダム建設に先立ち、島根県教育委員会をはじめ関係各位の御協力を頂き、これら遺跡についての調査を計画的に実施してきております。

当報告書は、このうち貝谷遺跡の調査結果をとりまとめさせていただいたものです。当遺跡からは、縄文時代の集落跡、古墳時代の堅穴住居跡などを確認することができ、当時の人々の営みを知る上で貴重な資料が得られたのではないかと思います。

当遺跡の場所は、増水時には水没する地点に当たり、ダム完成後は立ち入りが不可能となります。そのような意味からも、ダム事業を契機として得られたこの貴重な資料をできるだけ正確かつ詳細に記録し後世に残すことが、せめてもの我々の務めでもあり、この報告書はその成果とも言えるものです。

最後になりましたが、当遺跡の調査並びに報告書のとりまとめに關係された皆様に深く感謝申し上げます。

平成14年3月

国土交通省中国地方整備局  
斐伊川・神戸川総合開発工事事務所

所長 田中 靖

# 序

島根県教育委員会では建設省中国地方建設局（現国土交通省中国地方整備局）の委託を受けて、平成元年度から志津見ダム建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施しており、このたび報告書第16集を刊行する運びとなりました。

本報告書は、平成11・12年度に実施した頓原町の貝谷遺跡での発掘調査の記録です。今回の調査では、縄文時代の竪穴式住居跡などが確認され、この地域の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができました。本報告書が地域の歴史を解明していく糸口となり、郷土の歴史と文化財に対する理解や関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本書を刊行するにあたり御指導、御協力いただきました地元の方々をはじめ国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所、頓原町教育委員会ならびに関係の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

島根県教育委員会

教育長 山崎悠雄

# 例　　言

1 本書は、島根県教育委員会が建設省中国地方建設局（現国土交通省中国地方整備局）より委託を受けて平成11・12（1999・2000）年度に実施した、志津見ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2 本書に掲載した遺跡と地番は下記の通りである。

貝谷遺跡　島根県飯石郡頴原町大字志津見24-3他所在

3 平成11・12年度の現地調査と13年度の報告書作成作業は、下記の組織で実施した。

平成11・12年度

事務局　埋蔵文化財調査センター　宍道正年（所長）、秋山　実（総務課長・平成11年度）、内田　融（総務課長・平成12年度）、松本岩雄（調査課長）、今岡宏（総務係長）

調査員　埋蔵文化財調査センター　神柱靖彦（主事）、倉橋浩（教諭兼文化財保護主事・平成11年度）、野津弘（教諭兼文化財保護主事・平成12年度）、积龍爾（教諭兼主事・平成12年度）、舟木千晴（臨時職員・平成11年度）  
〔遺物整理〕　金森千勢子、和出初子

調査指導（50音順、敬称略）

田中義昭（島根県文化財保護審議委員）

平成13年度

事務局　埋蔵文化財調査センター　宍道正年（所長）、内田融（総務課長）、川原和人（調査課長）、今岡宏（総務係長）

調査員　神柱靖彦（主事）、野津弘（教諭兼文化財保護主事）

4 発掘作業（発掘作業員雇用・重機借り上げ・発掘用具調達等）については建設省（現国土交通省）・社団法人中国建設弘済会・島根県教育委員会の二者協定に基づき、島根県教育委員会から社団法人中国建設弘済会へ委託して実施した。

社団法人中国建設弘済会

〔現場担当〕　金山浩司（平成11年度）春木崇志（平成11年度）人野紀昭（平成12年度）

〔事務担当〕　米井山紀（平成11年度）藤原愛子（平成11・12年度）

5 現地調査及び資料整理に際しては、以下の方々から有意義な御指導・ご助言・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表す。

小笠原善範（八戸市博物館）、小林和彦（八戸市郷土文学館）、高橋謙（ノートルダム清心女子大学教授）田中義昭（島根県文化財保護審議委員）、稻野祐介（北上市立埋蔵文化財センター）、山田康弘（島根大学助教授）

6 挿図中の方位は測量法による軸方位を示し、レベル高は海拔高を示す。

7 第2図は、建設省国土地理院発行のものを使用した。また、遺跡空中写真撮影・基準点作成に際しては、別途業者に委託した。

8 本書に掲載した写真のうち、図版25-2は広江耕史が撮影した、その他の写真は各調査員で撮影した。

- 9 本書に掲載した実測図は各調査員の他、坂根健悦（平成12年度調査補助員）石川真由美、泉美子、加藤往子、広田和子、難波夏枝（以上内業作業員）が作成し、内業作業員が墨書きした。
- 10 本書の執筆は付編自然科学的分析結果を除き各調査員が分担してを行い、その文責を日々に記した。また自然科学的分析結果については株式会社古環境研究所調査に執筆を依頼した。
- 11 本書の編集は、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て神柱靖彦が行った。
- 12 本書掲載の出土遺物及び実測図、写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33）で保管している。

# 目 次

第1章 位置と環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査に至る経緯と調査の経過	
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査の経過	5
第3章 貝谷遺跡の調査	
第1節 概要	7
第2節 第1黒色土層の調査	7
1 遺構	7
2 遺物	14
第3節 第2黒色土層の調査	17
1 遺構	17
2 遺物	32
第4節 まとめ	62
付録	
自然科学的分析	
I 貝谷遺跡における放射性炭素年代測定	64
II 貝谷遺跡における植物珪酸体分析	65
III 貝谷遺跡における花粉分析	68
出土遺物観察表	70

## 挿 図 目 次

第1図	貝谷遺跡と周辺の遺跡 (S=1/50000)	3
第2図	貝谷遺跡周辺地形図 (S=1/2000)	6
第3図	第1ハイカ層上面遺構配置図 (S=1/800)	8
第4図	1号竪穴住居跡実測図 (S=1/60)	9
第5図	1号竪穴住居跡出土遺物実測図 (S=1/3)	10
第6図	上坑群1・2遺構配置図 (S=1/100)	11
第7図	土坑群2遺構実測図1 (S=1/20)	12
第8図	土坑群2遺構実測図2 (S=1/20)	13
第9図	上坑群3遺構実測図 (S=1/30)	14
第10図	出土弥生土器実測図 (S=1/3)	15
第11図	第1黒色土層出土繩文土器実測図 (S=1/3)	16
第12図	第2黒色土層遺構配置図 (S=1/300)	17
第13図	2号竪穴住居跡実測図 (S=1/60)	18
第14図	2号竪穴住居跡出土土器実測図1 (S=1/3)	19
第15図	2号竪穴住居跡出土土器実測図2 (S=1/2・1/3)	20
第16図	2号竪穴住居跡周辺の遺構 (S=1/120)	21
第17図	第2黒色土層検出焼土面実測図1 (S=1/20)	22
第18図	第2黒色土層検出焼土面実測図2 (S=1/30)	23
第19図	3号竪穴住居跡実測図 (S=1/40)	24
第20図	3号竪穴住居跡出土土器実測図 (S=1/3)	25
第21図	3号竪穴住居跡周辺の遺構 (S=1/80)	26
第22図	第2黒色土層検出土坑実測図1 (S=1/40)	27
第23図	第2黒色土層検出土坑実測図2 (S=1/40)	28
第24図	S K-0 5周辺検出遺構実測図 (S=1/60)	29
第25図	S K-0 1周辺検出遺構実測図 (S=1/120)	30
第26図	集石遺構実測図 (S=1/60)	32
第27図	第2黒色土層出土繩文土器実測図1 (S=1/3)	33
第28図	第2黒色土層出土繩文土器実測図2 (S=1/3)	35
第29図	第2黒色土層出土繩文土器実測図3 (S=1/3)	36
第30図	第2黒色土層出土繩文土器実測図4 (S=1/3)	37
第31図	第2黒色土層出土繩文土器実測図5 (S=1/3)	38
第32図	第2黒色土層出土繩文土器実測図6 (S=1/3)	39
第33図	第2黒色土層出土繩文土器実測図7 (S=1/3)	40
第34図	第2黒色土層出土繩文土器実測図8 (S=1/3)	41
第35図	第2黒色土層出土繩文土器実測図9 (S=1/3)	42

第36図 第2黒色土層出土縄文土器実測図10 (S=1/3) .....	43
第37図 第2黒色土層出土縄文土器実測図11 (S=1/3) .....	44
第38図 第2黒色土層出土縄文土器実測図12 (S=1/3) .....	46
第39図 第2黒色土層出土縄文土器実測図13 (S=1/3) .....	48
第40図 第2黒色土層出土縄文土器実測図14 (S=1/3) .....	49
第41図 第2黒色土層出土縄文土器実測図15 (S=1/3) .....	50
第42図 第2黒色土層出土縄文土器実測図16 (S=1/3) .....	52
第43図 第2黒色土層出土縄文土器実測図17 (S=1/3) .....	53
第44図 第2黒色土層出土縄文土器実測図18 (S=1/3) .....	54
第45図 第2黒色土層出土縄文土器実測図19 (S=1/3) .....	55
第46図 第2黒色土層出土縄文土器実測図20 (S=1/3) .....	56
第47図 第2黒色土層出土縄文土器実測図21 (S=1/3) .....	57
第48図 第2黒色土層出土縄文土器実測図22 (S=1/3) .....	58
第49図 第2黒色土層出土石器実測図1 (S=1/3) .....	59
第50図 第2黒色土層出土石器実測図2 (S=1/3) .....	60

# 図版目次

図版 1 - 1	貝谷遺跡遠景 西から
2	1号竪穴住居跡検出状況
図版 2 - 1	1号竪穴住居跡完掘状況
2	SK-1 3 完掘状況
図版 3 - 1	SK-1 4 完掘状況
2	SK-1 5 完掘状況
図版 4 - 1	SK-1 6 完掘状況
2	SK-1 7 完掘状況
図版 5 - 1	SK-1 8 完掘状況
2	SK-1 9 完掘状況
図版 6 - 1	2号竪穴住居跡完掘状況
2	1号焼土面検出状況
図版 7 - 1	3号焼上面検出状況
2	11号焼土面検出状況
図版 8 - 1	3号竪穴住居跡検出状況
2	3号竪穴住居跡完掘状況
図版 9 1・2	異形石製品検出状況
図版10-1	SK-0 4 断面
2	SK-0 4 完掘状況
図版11-1	SK-1 0 完掘状況
2	4号焼土面検出状況
図版12-1	SK-0 5 調査状況
2	SK-0 5 完掘状況
図版13-1	SK-0 3 完掘状況
2	10号焼上面検出状況
図版14-1	10号焼土面断面
2	SK-1 3 検出状況
図版15-1	SK-0 1 断面
2	SK-0 1 完掘状況
図版16-1	SK-0 2 検出状況
2	SK-0 2 完掘状況
図版17-1	SK-0 6 完掘状況
2	SK-0 8 完掘状況
図版18-1	SK-1 2 完掘状況
2	2号焼上面断面

- 图版19-1 7号烧土面检出状况  
2 8号烧土面检出状况
- 图版20-1 集石遣構檢出狀況  
2 貝谷遺跡調查風景
- 图版21 1号竖穴住居跡出土土器  
图版22-1 1号竖穴住居跡出土土器  
2·3 第1黑色土層出土弦纹土器
- 图版23-1·2 第1黑色土層出土繩文土器  
3 2号竖穴住居跡出土繩文土器
- 图版24 2号竖穴住居跡出土繩文土器
- 图版25-1·2 3号竖穴住居跡出土繩文土器  
3 3号竖穴住居跡出土異形石製品
- 图版26 第2黑色土層出土繩文土器  
图版27 第2黑色土層出土繩文土器  
图版28 第2黑色土層出土繩文土器  
图版29 第2黑色土層出土繩文土器  
图版30 第2黑色土層出土繩文土器  
图版31 第2黑色土層出土繩文土器  
图版32 第2黑色土層出土繩文土器  
图版33 第2黑色土層出土繩文土器  
图版34 第2黑色土層出土繩文土器  
图版35 第2黑色土層出土繩文土器  
图版36 第2黑色土層出土繩文土器  
图版37 第2黑色土層出土繩文土器  
图版38 第2黑色土層出土繩文土器  
图版39 第2黑色土層出土繩文土器  
图版40 第2黑色土層出土繩文土器  
图版41 第2黑色土層出土繩文土器  
图版42 第2黑色土層出土繩文土器  
图版43-1·2 第2黑色土層出土繩文土器  
3 貝谷遺跡出土石器
- 图版44 貝谷遺跡出土石器  
图版45 貝谷遺跡出土石器  
图版46 貝谷遺跡出土石器  
图版47 貝谷遺跡出土石器



# 第1章 位置と環境

## 第1節 地理的環境

島根県と広島県の県境、中国山地の赤名峠の西方に位置する女亀山（標高830m）に源を発する神戸川は、頤原川、伊佐川、波多川等の支川を合流しながら、優美な姿で知られる一瓶山（標高1126m）の東麓を北流し、赤米町・頤原町・佐田町・山雲市・人社町の1市4町を経て、日本海に注いでいる。貝谷遺跡はその神戸川の中流域に位置しており、島根県飯石郡頤原町大字志津見24-3番地外に所在する。志津見地域は現在では頤原町に属しているが、1888（明治21）年の町村制施行では飯石郡志々村とされていたところで、1957（昭和32）年に旧頤原町と合併して頤原町に編入され現在に至っている。<sup>(1)</sup>

貝谷遺跡は、神戸川の右岸の谷に伸びる丘陵上の平坦地に立地し、板屋III遺跡<sup>(2)</sup>からは約1km下流に位置している。

多くの遺跡が存在するこの神戸川流域は、西側約5kmにそびえる二瓶山（標高1126m）の影響を強く受けている。また、付近の地形は起伏量200~400mの中起伏山地が連なっており、その間に神戸川が縫うように流れることで砂礫段丘や谷底氾濫原が形成され、周辺の遺跡は山間に開けたこうした砂礫段丘や谷底氾濫原など僅かな平坦地を中心として展開しており、これが当地域の遺跡立地条件の大きな特色となっている。二瓶山は約3600年前まで噴火活動を繰り返した山で、それに由来する火山灰や火碎流などの堆積物や黒ボク土壌が多く見られる。この地域の基本的層序は、上層より第1 黒色上層 - 第1 ハイカ層（三瓶太平山降下火山灰：約3600年前） - 第2 黑色上層 - 第2 ハイカ層（一瓶角井降下火山灰：約4700年前） - 第3 黒色上層 - 第3 ハイカ層 - 三瓶浮布降下火山灰層 - 三瓶浮布降下軽石層の順になっている。第3 黒色土層上層部ではアカホヤ降下灰層準が認められており、その年代は6300B.P.前後であることが確認されている。<sup>(3)</sup>

島根の気候は、日本海岸気候に属し、東部・西部・隣岐の三つの気候区に分かれるが、頤原町は東部の山間地帯に属している。頤原町は中国山地の脊梁部に位置し複雑な気象現象が見られる。日本海を北流する対馬海流の影響で湿润になった大気が吹き付けられ脊梁山脈にあたり降水量は多く、冬季は積雪量も多い。<sup>(4)</sup>

## 第2節 歴史的環境

神戸川上・中流域における遺跡は、前述の通り砂礫段丘や谷底氾濫原などの僅かな平坦地を中心として展開しており、時期的にかなり長期にわたって営まれている複合遺跡が多い。これは急峻な山が多く、利用できる平坦地が少ないという地理的制約によるところが大きい。

頤原町及び周辺地域においては、旧石器時代の遺跡は未だ見つかっていない。以下、時代を追って頤原町及び周辺地域の主要な遺跡を取り上げ、この地域の歴史的環境を概観する。

### 縄文時代

周辺の各遺跡では、縄文時代の貴重な造構・遺物が数多く確認されている。代表的なこの時代の遺跡としては、五明出遺跡<sup>(5)</sup>、森遺跡<sup>(6)</sup>、門遺跡<sup>(7)</sup>、板屋III遺跡、下山遺跡<sup>(8)</sup>等があげられる。このうち板屋III遺跡では、県内最古級の草創期末から早期初頭の表裏条痕文土器や前期の平地式住

居2棟などが検出されている。さらにこの遺跡の調査において、縄文時代の遺構・遺物と三瓶火山灰が層位的に初めて確認された。第3黒色土層が草創期～前期末、第2黒色土層が前期末～後期前葉、第1黒色土層が後期中葉以降の包含層であることが明らかとなり、周辺の遺跡を調査する際の基準となっている。また、プラントオバールの分析結果により、晩期初頭から雜穀類の栽培が行なわれていたことが明らかとなっている。五明田遺跡からは山陰地方では確認例の少ない縄文時代後期初頭から前葉の堅穴住居が確認されたほか、後期前葉の磨消縄文土器が良好な状態で多量に出土している。下山遺跡では東北地方からもたらされた「屈折像土偶」<sup>(9)</sup>や後期の配石遺構が、また門遺跡では、後期の土偶や後期から晩期の墓坑群などが検出され、縄文時代の祭祀形態や墓制を知る上で貴重な資料が得られた。なお、製鉄遺跡である戸井谷尻遺跡・長老畠遺跡においても、晩期の粗製土器が出土している。

### 弥生時代

前期まで遡る遺跡は、森遺跡、五明田遺跡、板屋Ⅲ遺跡、下山遺跡などがあるが、出土する遺構・遺物は多くない。板屋Ⅲ遺跡では前期後半の配石遺構群が確認されている。中期の遺跡は、拠点的な集落であり、多くの堅穴住居跡や斎館墓が検出された門遺跡のほか、森遺跡、板屋Ⅲ遺跡、神原Ⅰ・Ⅱ遺跡<sup>(10)</sup>等があり、継続して営まれているものが多い。広島県北部を中心に分布する塩町式系土器も出土している。この時期には流水文を施す大型壺が見られるのも当地域の特色の一つである。後期の遺構・遺物を多く検出している森遺跡では、堅穴住居や溝状造構、住居に隣接して土坑墓群を検出している。この中には碧玉製管玉を141個も副葬したものも含まれる。集落と墓域の様相を考える上で貴重な発見となった。

### 古墳時代

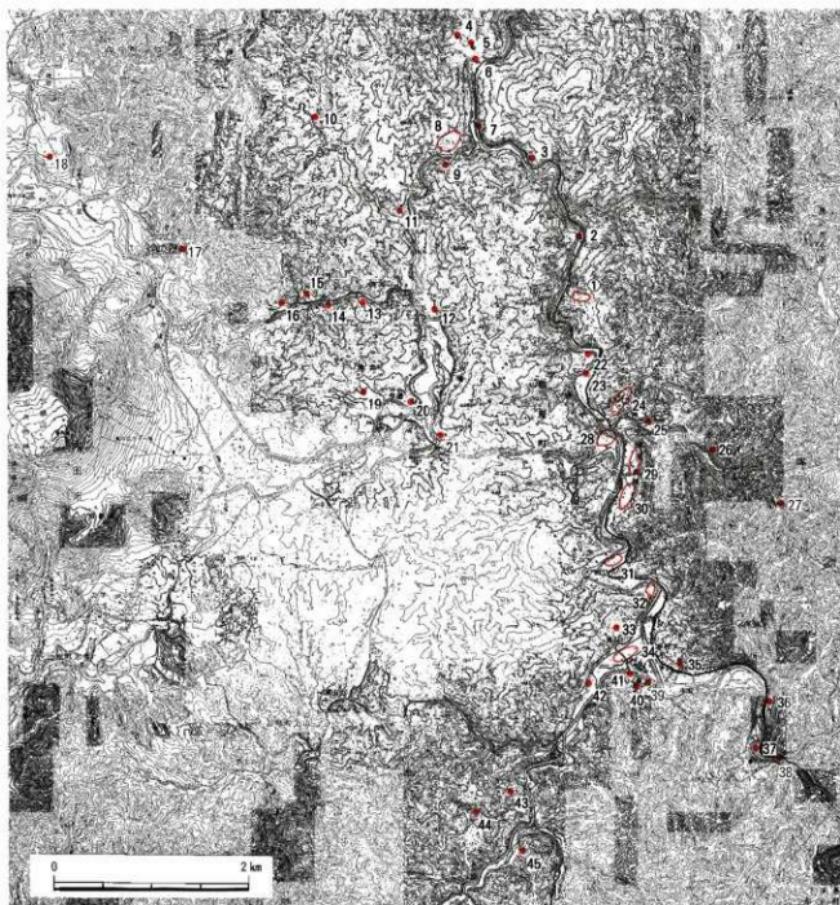
前期初頭には、弥生時代後期から継続して営まれる集落もあるが、前期・中期とも目立った遺跡は確認されておらず、小丸遺跡<sup>(11)</sup>と下山遺跡で中期後半の堅穴住居がいくつか知られるのみである。後期後半になると、集落跡や古墳の検出が顕著となってくる。森遺跡、板屋Ⅲ遺跡、門遺跡、神原Ⅰ・Ⅱ遺跡、小丸遺跡などで集落が営まれ、方形堅穴住居の壁に石組みの造り付け窓を設けるものが多く見られる。小丸遺跡では3棟の堅穴住居から炭化した建築材が出土し、焼失住居の好資料が得られている。また、横穴式石室を内蔵した古墳や横穴墓も各地域で造られており、八神地域では中原古墳<sup>(12)</sup>・比丘尼塚古墳<sup>(13)</sup>が知られ、志津見地域では門1・2号墳、角井地域では堂ノ原横穴墓<sup>(14)</sup>がそれぞれ知られている。

### 奈良・平安時代

古墳時代後期の集落が継続して営まれるものが多く、森遺跡、門遺跡からは時期が明確でないが大規模な掘立柱建物が確認されている。また、神原Ⅱ遺跡では、奈良時代の堅穴住居が検出され、遺存状態が良好な紡錘車・鐵鎌などの鉄製品や銅製の腰帶金具も出土している。<sup>(15)</sup>

### 中世

森脇山城跡<sup>(16)</sup>は地形測量によって、典型的な戦国期の山城であることが分かっている。森遺跡、門遺跡、板屋Ⅲ遺跡からは13～16世紀の貿易陶磁や信楽・美濃・備前等の国産陶器も検出しており、石見銀山や境に近いこの地域が、交通・交易・軍事の要衝であったことがうかがえる。また、志々地区においては、高殿鉛成立以前と推定される製鉄遺跡のうち、製鉄炉が16ヶ所、精鍊鍛冶炉が4ヶ所で確認されている。当地域の製鉄関連遺跡は古代末以降から見られ、本床状造構のみ



第1図 貝谷遺跡と周辺の遺跡

持つ板崖Ⅲ遺跡1号炉、その両側に小舟状造構も付設する弓谷鉱の旧製鉄炉跡<sup>(17)</sup>などのほか、門遺跡2号炉や戸井谷尻遺跡6号炉<sup>(18)</sup>などの精鍊鍛冶炉がまとまって確認されている。

#### 近世・近代

17世紀末に成立したとされる高殿鉱の地下構造が確認された遺跡には、長老畠遺跡<sup>(19)</sup>・巖淵山毛宅前鉱跡<sup>(20)</sup>・丸山遺跡<sup>(21)</sup>・大核鉱跡<sup>(22)</sup>・下山遺跡・弓谷鉱跡<sup>(23)</sup>がある。特に弓谷鉱跡では、大規模な床釣り施設を備えた鉱跡が検出され、山内の一部も確認されている。大殿冶場は高殿鉱に付属するものと単独で立地するものがある。前者は大核鉱跡・神原Ⅱ遺跡・櫻原遺跡(隣接する佐田町)<sup>(24)</sup>、後者は川原遺跡、戸井谷尻遺跡、獅子谷遺跡<sup>(25)</sup>が知られている。獅子谷遺跡では鍛冶炉

が計8基検出され、鍛冶場全体で3度の改変が行われたと想定されている。また、長方形または長格円形の柱穴を伴う大型の掘立柱建物が板屋Ⅲ遺跡・神原Ⅰ・Ⅱ遺跡などで確認されており、当該期の建物構造を知る上で貴重な資料となっている。さらに、麻蒸施設と考えられる焼石充填土坑が神原Ⅰ・Ⅱ遺跡で多数検出されているのも当地域の特色といえる。

近世以来の主要産業であった製鉄業は当地域でも続けられており、弓谷鉛・弓谷鍛冶が明治20年代まで稼業したことが史料から知ることができる。

第1表 周辺の遺跡一覧

No	遺跡名	種別	No	遺跡名	種別
1	貝谷遺跡	製鉄遺跡・集落跡	24	板屋Ⅲ遺跡	製鉄遺跡・集落跡
2	丸山遺跡	製鉄遺跡	25	弓谷尻鉛跡	製鉄遺跡
3	大根鉛跡	製鉄遺跡	26	弓谷鉛跡	製鉄遺跡
4	戸井谷遺跡	製鉄遺跡	27	弓谷奥鉛跡	製鉄遺跡
5	戸井谷尻遺跡	製鉄遺跡	28	門遺跡	製鉄遺跡・集落跡・古墳
6	長老畑遺跡	製鉄遺跡	29	神原Ⅱ遺跡	製鉄遺跡・集落跡
7	巖淵山毛宅前鉛跡	製鉄遺跡	30	神原Ⅰ遺跡	集落跡
8	下山遺跡	製鉄遺跡・集落跡	31	小丸遺跡	集落跡
9	樅原山鉛跡	製鉄遺跡	32	中原遺跡	集落跡・古墳
10	獅子谷遺跡	遺物散布地	33	谷川遺跡	集落跡
11	獅子谷遺跡	製鉄遺跡	34	森遺跡群	集落跡
12	向原遺跡	製鉄遺跡	35	慶雲寺鉛跡	製鉄遺跡
13	伊比谷遺跡	遺物散布地	36	鉢原鉛跡	製鉄遺跡
14	伊比谷1号鉛跡	製鉄遺跡	37	比丘尼塚古墳	古墳
15	伊比谷2号鉛跡	製鉄遺跡	38	落合精錬所跡	製鉄遺跡(近代)
16	伊比谷3号鉛跡	製鉄遺跡	39	五明田遺跡	集落跡
17	梅ヶ峰遺跡	遺物散布地	40	段原鍛冶跡	製鉄遺跡
18	大水原遺跡	遺物散布地	41	土居ノ上鉛跡	製鉄遺跡
19	堂ノ原横穴墓	横穴墓	42	坂根鍛冶跡	製鉄遺跡
20	角井遺跡	遺物散布地	43	三代木遺跡	遺物散布地
21	杉戸遺跡	遺物散布地	44	三代木鉛跡	製鉄遺跡
22	後平遺跡	遺物散布地	45	大歳鉛跡	製鉄遺跡
23	徳原遺跡	製鉄遺跡			

## 第2章 調査にいたる経緯と調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯

ダム事業の概要 島根県東部を南北に貫流する二大河川、斐伊川と神戸川の治水事業は、古く近世松江藩以来の懸案であった。昭和54（1979）年に「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画」の具体的な内容が建設省中国地方建設局（現国土交通省中国地方整備局）と島根県から発表された。これにより志津見ダム建設事業は、斐伊川水系の放水路・尾原ダム・大橋川改修の各事業とともに、島根県東部の治水対策の根幹をなす事業と位置づけられた。その後、諸々の調査・関連手続き等を経て、同61（1986）年に事業が開始され現在も継続中である。

志津見ダムは、島根県東部の松江市・出雲市等の斐伊川・神戸川流域の洪水防御とともに、神戸川の流水の正常な機能の維持および工業用水の補給を目的とした多目的ダムである。ダム本体は、神戸川上流域の飯石郡頼原町大字角井地内に建設が予定されている。淇水地域は同町大字八神・志津見・角井に広がり、その総面積は230haに及ぶ。

ダム事業と文化財 この淇水地域内には多くの埋蔵文化財の存在が想定されたため、ダム建設に先立ち調査を行う必要が生じた。島根県教育委員会では頼原町教育委員会で進められていた町内遺跡分布調査事業に同調し、昭和63（1988）年に分布調査を行った。その結果、八神・志津見・角井地区では150か所以上にのぼる埋蔵文化財の所在が明らかとなり、ダム建設予定地内には41か所の遺跡と6か所の遺跡推定地が存在することが判明した。

また、昭和63（1988）年以降島根県教育委員会・頼原町教育委員会によって、民俗文化財の調査が相次いで行われている。その成果は公刊され、現在貴重な資料となっている。

埋蔵文化財の発掘調査は、平成元（1989）年度以降島根県教育委員会が、平成10（1998）年度からは頼原町教育委員会も建設省中国地方建設局（現国土交通省中国地方整備局）から委託を受けて行っている。調査はダム建設予定地内に加えて、生活再建地・道路付け替え工事などの関連事業地内でも実施されてきた。分布調査以後の試掘・本調査により、平成10（1998）年度末現在で31か所の遺跡が調査対象となっており、うち20か所の調査が完了していた。平成12（2000）年度以降は発掘調査基準が変更された結果、平成13（2001）年度の調査終了時点で現地調査は全て終了となった。本書で報告する貝谷遺跡は平成11（1999）年度からの調査である。

### 第2節 調査の経過

貝谷遺跡の試掘は、平成6年度および平成8年度の2回実施され、縄文時代および古墳時代の集落の存在が想定され本調査対象遺跡とされた。本発掘調査は平成11年度および12年度に行った。11年度は丘陵上の平坦面およびその北側斜面の調査を行った。調査は4月19日から開始された。その後調査範囲の北側の谷状の部分には遺構・遺物ともに存在しないことが明らかになったため、丘陵上の平坦面に絞って調査を行った。6月には国道184号線の付け替え工事のため平坦面最上端部分のみ調査後に国土交通省に引き渡しを行った。調査は8月に第1黒色土層の調査を終えた。その後、第2黒色土層以下の層の遺構の有無を確認するために10mおきに2m四方のトレンチを入れ第2黒色土層の調査範囲の絞り込みを行った。その後、第1ハイカ層の除去を行い第2黒色土層の調

査を行った。この間12月5日に神原II遺跡と会わせ現地説明会を開催し、遺跡を訪れた方に調査成果の説明や遺物の展示を行った。同年度の調査は年をまたぎ1月18日に終了した。12年度には平坦面の西側斜面に崩落の可能性のある大石が存在し、古墳の横穴式石室の可能性が指摘されていたため周辺の調査を行った。調査は9月19日に着手した。結果、石室の存在は確認できなかったが、弥生土器などの遺物、土坑などの存在を確認し12月19日に終了した。なお13年度には貝谷遺跡に存在した民家への進入路によって断面の露出した製鉄関連遺構の調査が行われ、製鉄炉2基、鍛冶炉2基が検出されている。



第2図 貝谷遺跡周辺地形図 (1:2000)

## 第3章 貝谷遺跡の調査

### 第1節 概 要

貝谷遺跡は神戸川右岸の丘陵先端部の平坦面および西側斜面上に位置する。平坦面は東西長約170m、南北長約40mを測り、標高は260mから281m、谷からの比高は約6mを測る。

本遺跡は貝谷城跡として周知されていた城館跡であるが、その後平成6年（1994）および平成8年（1996）実施の範囲確認調査により、縄文時代および弥生時代の集落跡の存在が予想された。以上の範囲確認調査の結果を踏まえて、同11（1999）年度から開始された本発掘調査では当初、遺跡全体が建設予定のダムの増水時の満水線以下に位置するため、遺跡全体の調査を実施する予定であった。しかし、同12（2000）年より調査基準の見直しにより、常時満水線以上に位置する部分では、造構の崩壊の恐れのある部分にのみ調査を行うこととした。

調査の結果、平坦面上の第1黒色土層で古墳時代の堅穴住居跡、西側斜面では時期不明の土坑11基を確認した。

第2黒色土層では縄文時代の堅穴住居跡2棟、土坑12基、焼土面11基、集石造構が検出された。西側斜面も平坦面上と同様に第2黒色土層中には縄文時代の造構・遺物が存在することが想定されていたが、常時満水線上であり崩壊等の恐れもないため、本調査は行わなかった。

#### 調査の方法

本遺跡の平坦面上は調査開始以前は雑草の生い茂る荒れ地であった。このため、まず草木等を取り除き、その後人力により第1黒色土層を掘削し、遺物の取り上げ・造構検出・記録保存といった作業を実施した。その後調査区に10m四方のグリッドを設定し、その南東隅に2m四方のトレンチを掘削し、調査の必要な範囲の絞り込みを行い、必要範囲の第1ハイカ層を重機を使用して除去した。その後に第2黒色土層の調査を行った。

写真撮影作業には、35・120mmのモノクローム・リバーサル・ネガカラー（35mm）の3種類のフィルムを随時使用した。また、遺跡全体の状況が判明した後、無線操縦小型ヘリコプターによる空中写真撮影を実施している。

### 第2節 第1黒色土の調査

貝谷遺跡で検出された造構は、その位置から平坦面とその西側斜面の2つのまとまりに分けられる。平坦面上は桑畠として利用されており、約80cm幅の溝がほぼ全面に掘られていた。このためか平坦面上では古墳時代後期の堅穴住居跡が1棟検出されたのみにとどまった。また平坦面西端に接する斜面では土坑群が検出されている。（第3図）

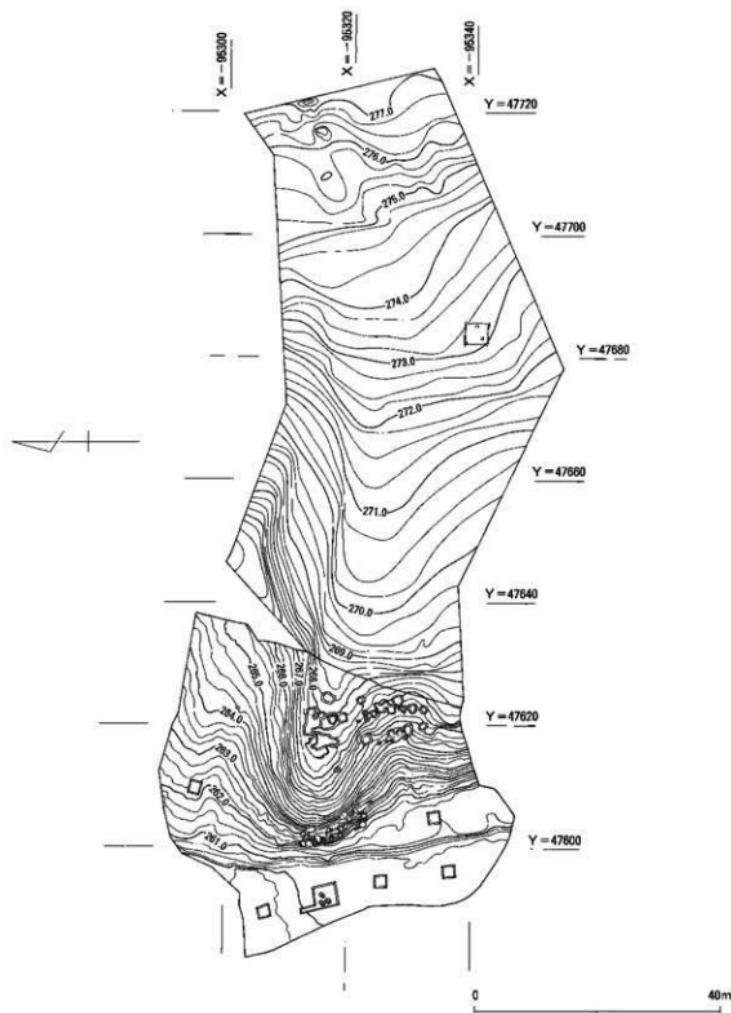
#### 1 造 構

##### 1号住居跡（第4図）

平坦面中央部に位置している。中央および東西端は後世の桑畠の溝により破壊されており、遺存状況は良好ではなかった。

平面形は方形もしくは隅丸方形を呈していたと思われるもので、規模は一边3.6m・深さ30cmである。床面にはP.1、P.2、P.3の3基のピットを床面で検出しているが、床面の中央部分及び

東西辺が失われていることから、柱の本数は定かではない。P.1は径24~36cm・深さ10cm、P.2は径22~44cm・深さ16cmである。この住居跡の埋土は基本的に黒色土層上層である。この中に含まれていた遺物は(第5図)、七師器の蓋及び須恵器の蓋、ミニチュア土器がある。図5-1~7は土師器の蓋である。いずれも主な調整は外側の回転ナデおよび8はミニチュア土器である。9は須恵器の蓋である。天井部と体部の境に1本沈線を施すものである。この遺物の時期からは古墳時代

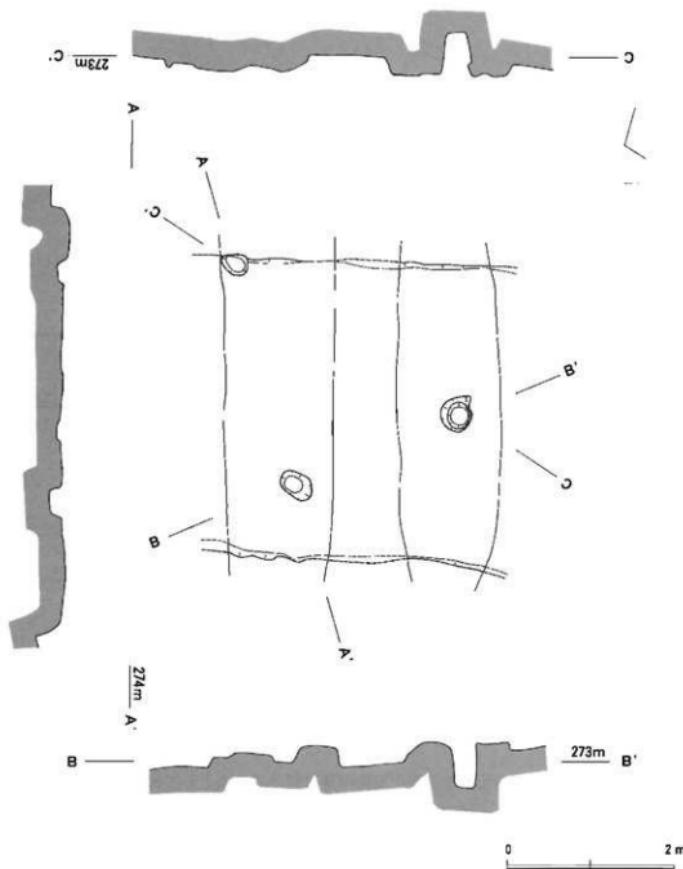


第3図 第1ハイカ層上面遺構配置図(1:800)

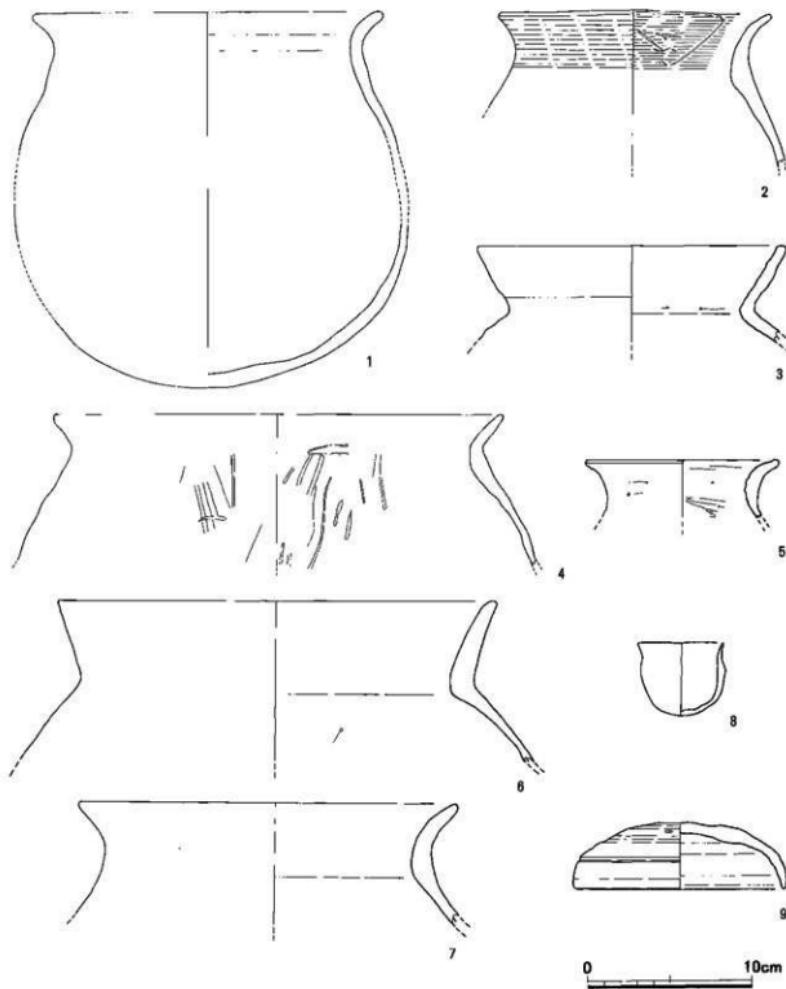
後期に属するものと考えられる、これらの時期からこの住居跡も同様の時期の造構と思われる。

#### 土坑群1（第6図）

平坦面西側の斜面上で確認された。合計18基からなり、平面形は方形や方形を重ねた形がほとんどを占める。調査開始時に付近には近世以降の墓石が集積されていた。聞き取りにより付近の民家が移転した際にここに存在した墓地も移転済みとの情報を得た。また、平面形やその規模からこれらの土坑が該当時期の墓坑と判断した。このため調査は上面検出及びその位置を記録することにとどめた。



第4図 1号堅穴住居跡実測図 (1:60)



第5図 1号竖穴住居跡出土遺物実測図 (1:3)

#### 土坑群2 (第7図)

土坑群1の周辺に位置する十坑で、近世以降の墓坑以外のものとして判断したものである。方形を呈するSK14・16と円形及び梢円形を呈するそれ以外のものに分けられる。SK15・18~20はほぼ直線状に検出されており、何らかの建物を構成していた可能性も有している。

#### SK-13 (第7図-1)

平面形は不整円形を呈するものである。径は52cmを測り、深さは24cmを測る。填土は暗褐色土の

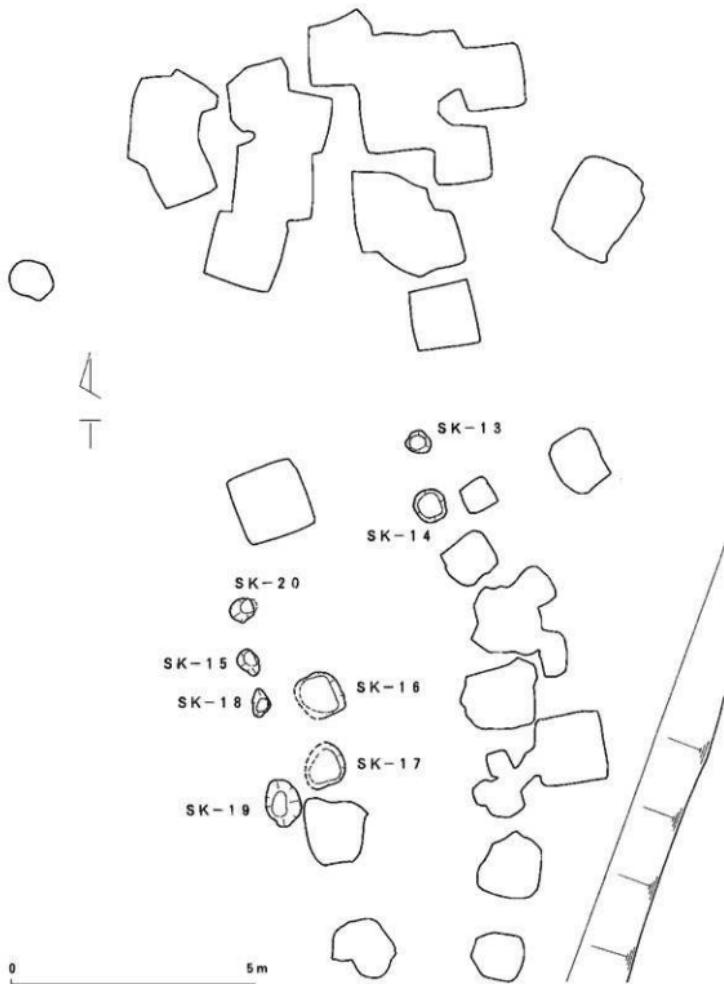
1層である。

SK-14 (第7回 2)

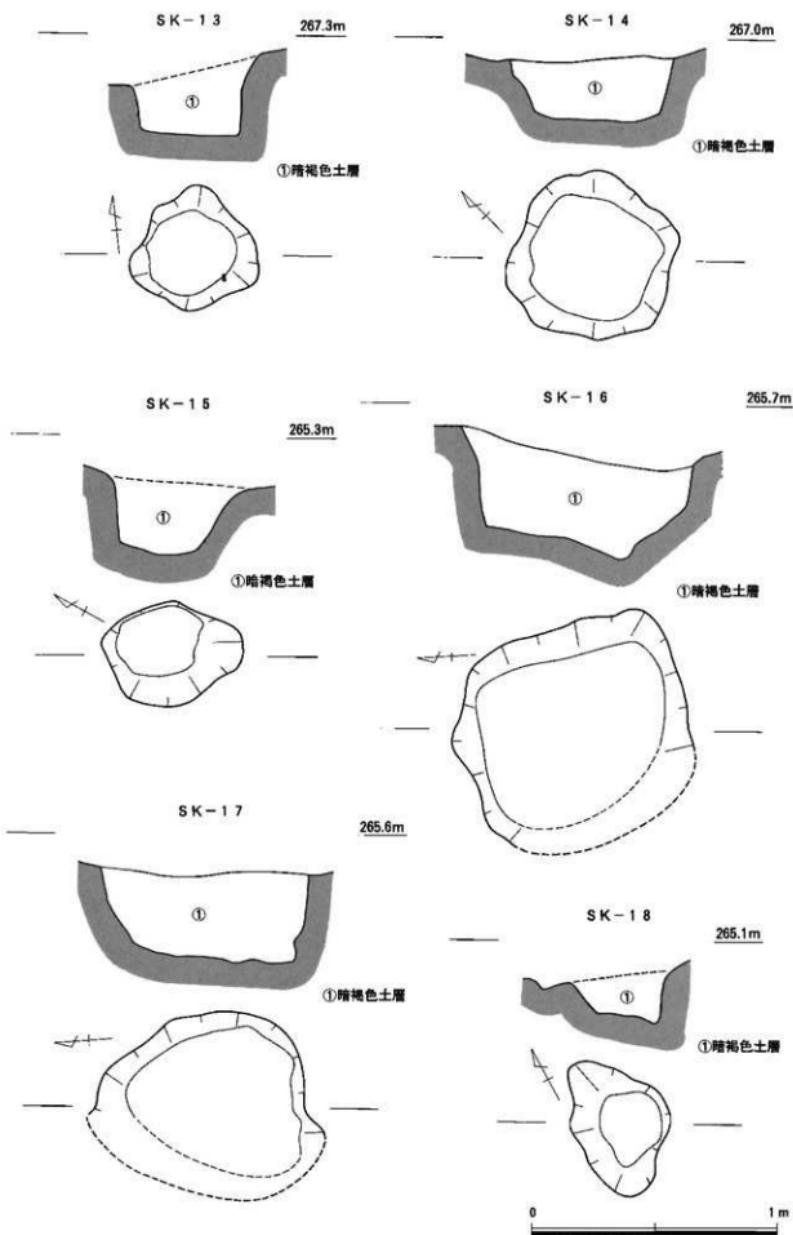
4.4×5.6cmの不整方形を呈し、深さ24cmを測る。埋土は暗褐色土の1層である。

SK-15 (第7図-3)

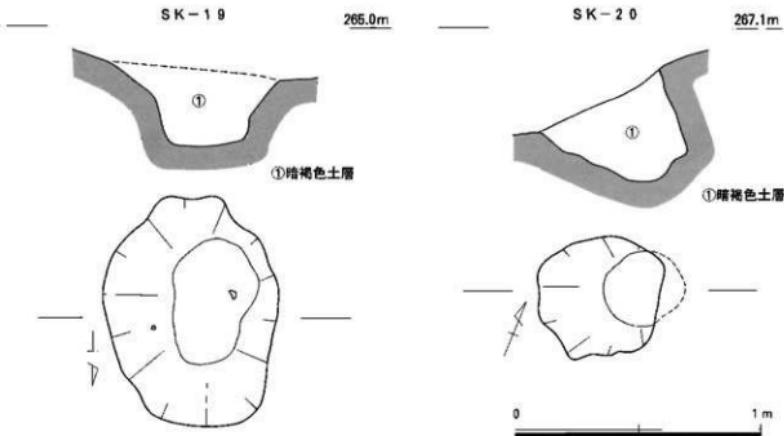
平面形は不整橢円形を呈し、径42~60cm・深さ30cmを測る。埋土は暗褐色土の1層である。



第6図 土坑群1・2造構配置図（1:100）



第7図 土坑群2遺構実測図1 (1:20)



第8図 土坑群2遺構実測図2（1:20）

**SK-16（第7図-4）**

西半がトレンチにより削平されたが、 $70 \times 60\text{cm}$ の方形を呈すると思われる。深さは40cmである。埋土は暗褐色土の1層である。

**SK-17（第7図-5）**

西半がトレンチにより削平されているが、平面形は梢円形を呈していたと思われる。現状で径85cm・深さ40cmを測る。埋土は暗褐色土の1層である。

**SK-18（第7図-6）**

平面形は不整梢円形を呈し、径60~40cmで、深さ20cmである。埋土は暗褐色土の1層である。

**SK-19（第8図-1）**

平面梢円形で径70~95cmを呈し、深さ30cmである。埋土は暗褐色土の1層である。

**SK-20（第8図-2）**

平面梢円形で径46~52cmを呈し、深さ90cmである。埋土は暗褐色土の1層である。

**土坑群3**

土坑群1・2の存在する斜面の裾に当たる平坦面の第1黒色土層を、 $4 \times 4\text{m}$ の範囲でトレンチを入れた際に検出されたもので、3基の土坑からなる。いずれも第1ハイカ上に掘られたものである。

**SK-21（第9図-1）**

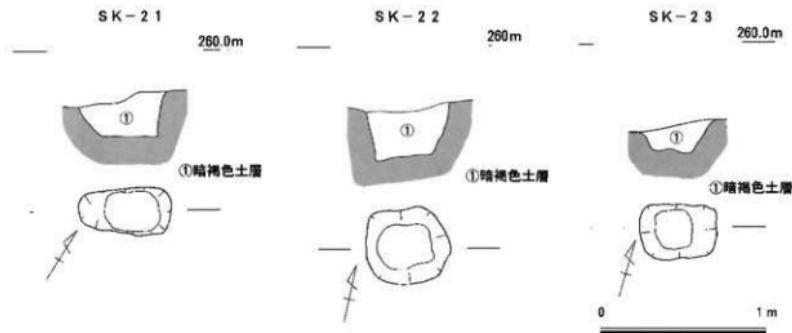
平面は梢円形を呈し、長さ57cm、幅27cm、深さ27cmを測る。埋土は暗褐色土1層である。

**SK-22（第9図-2）**

平面は $54\text{cm} \times 48\text{cm}$ の隅丸方形を呈し、深さは27cmを測る。埋土は暗褐色土1層である。

**SK-23（第9図-3）**

平面は $48\text{cm} \times 33\text{cm}$ の不整形形を呈し、深さは18cmを測る。埋土は暗褐色土1層である。



第9図 土坑群3遺構実測図 (1:30)

## 2 遺 物

第1 黒色土層からは須恵器、上師器、弥生土器、縄文土器が出土している。

### 弥生土器 (第10図)

1~16は複合口縁をもち拡張部に横線文を施す甕である。1は頸部に指頭圧痕文帯がめぐるものである。このうち4・5は口縁部拡張部がほぼ直立するものでその他のものはやや内傾して立ち上がっている。

11~16は外方に向け直線的にのびる複合口縁をもつもので、15は口縁部拡張部に横線文を施すものである。

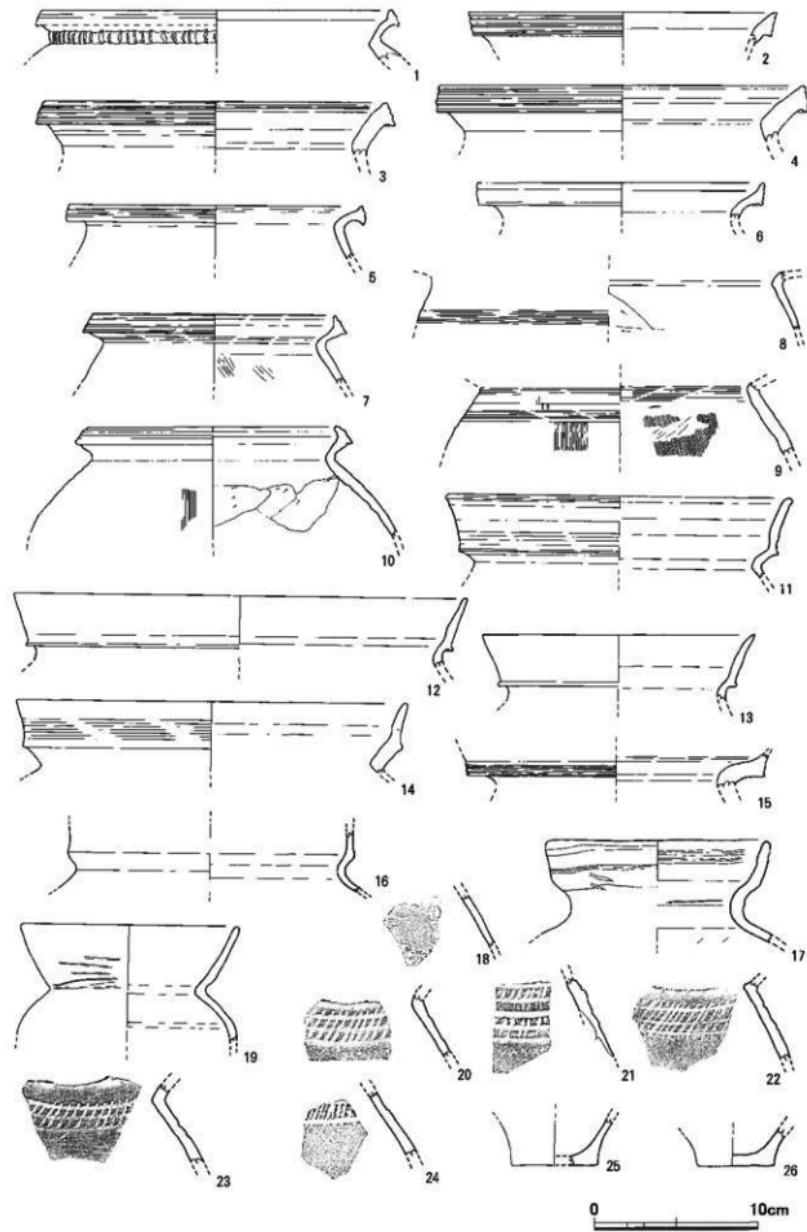
17・19は小型の壺である。17は口縁が外傾して直線的に伸びるものである。19は口縁部が外方に向け長く伸びるものである。

18は壺の胴部である横線文の下に波状文を施すものである。

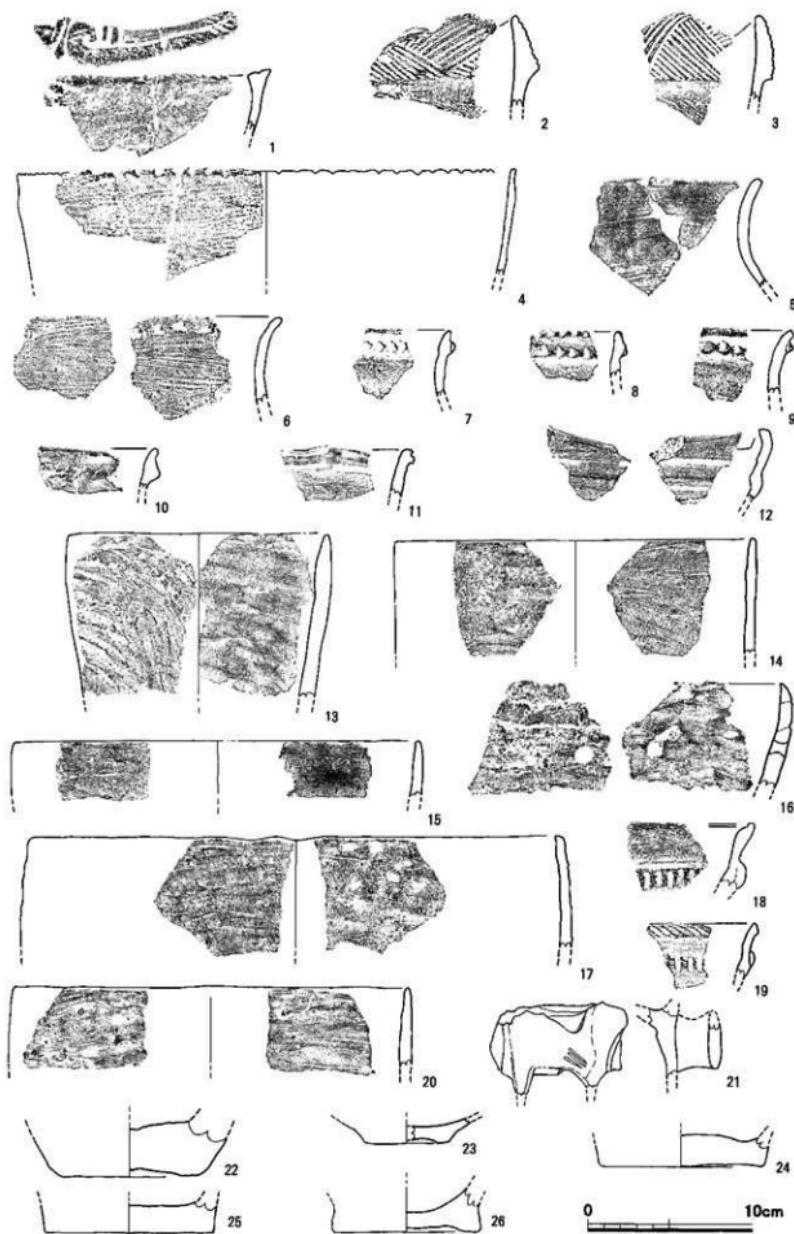
20~24は甕の胴部の破片であるが横線文と刺突文を有しており「塙町式」の影響を受けているものと思われる。25・26は底部の破片である。

### 縄文土器 第11図<sup>(20)</sup>

1は口縁部が肥厚し、そこに沈線文と縄文を入れる深鉢である。2・3は口縁外面に斜行する沈線文及び縄文を入れ、体部にも縄文のみられるものである。4は口縁に刻み目を有する深鉢で内面は条痕がみられる。5・6は大きく外反する口縁部をもつもので、6は内外面ともに条痕がみられ外面に孔列文が施されている。7~10はいわゆる突帯文の深鉢である。7~9は突帯に刻み目を有するものである。11は口縁部に横走する2条の沈線文を有するものである。12は口縁付近に段を2段有する浅鉢の口縁部である。13~17は粗製の深鉢の口縁部である。13は比較的口径の小さなもので、外面は不定方向の粗いナデで仕上げられている。16は緩やかにカーブして立ち上がる口縁に穿孔が施されるものである。21は取手の破片と考えられるものだが全体の器形は不明である。18・19は浅鉢の口縁部の破片で張り付けた突帯に刻み目を有するものである。22~26は底部の破片である。23是比较的小なもので、上げ底を呈するものである。24・25は平底を有するもので、26は口



第10図 出土弥生土器実測図 (1 : 3)

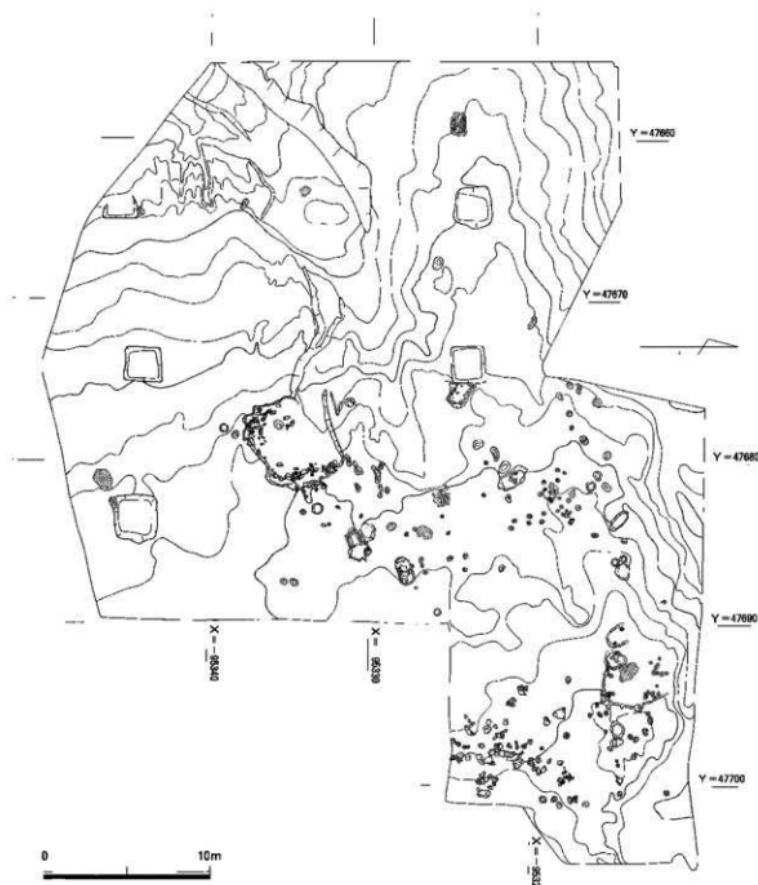


第11図 第1黑色土層出土縄文土器実測図（1：3）

げ底を呈するものである。

### 第3節 第2黒色土層の調査

第2黒色土層の調査では、調査区の東側を中心に縄文時代の竪穴住居跡2棟、土坑13基、焼土面11基、集石造構、多数のビットといった遺構とともに多量の遺物が検出された。

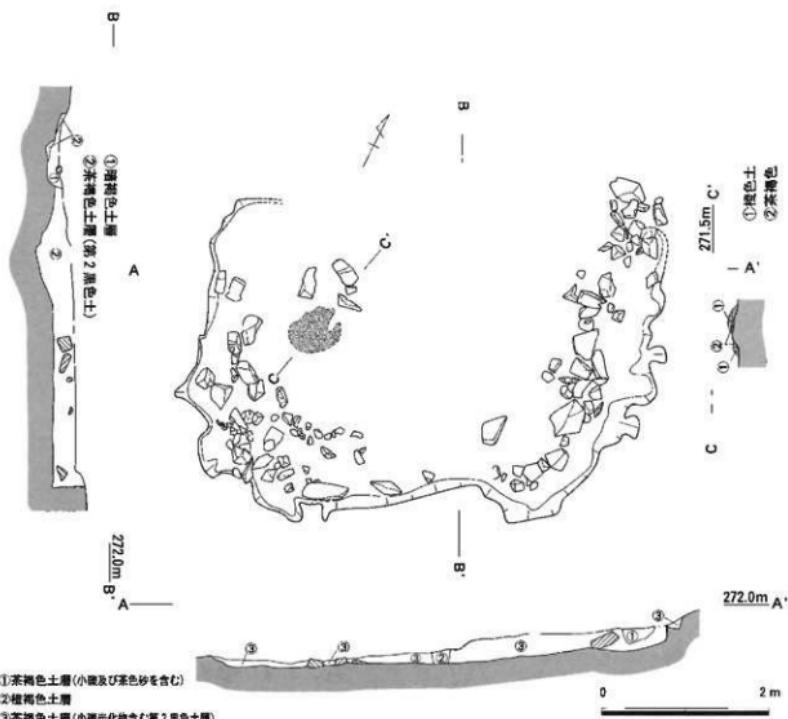


第12図 第2黒色土層遺構配置図 (1:300)

#### 1. 遺 構

##### 2号竪穴住居跡 (第13図)

第2黒色土層調査区中央付近に位置する。調査時には既に住居跡の北東側が流失しており、遺存

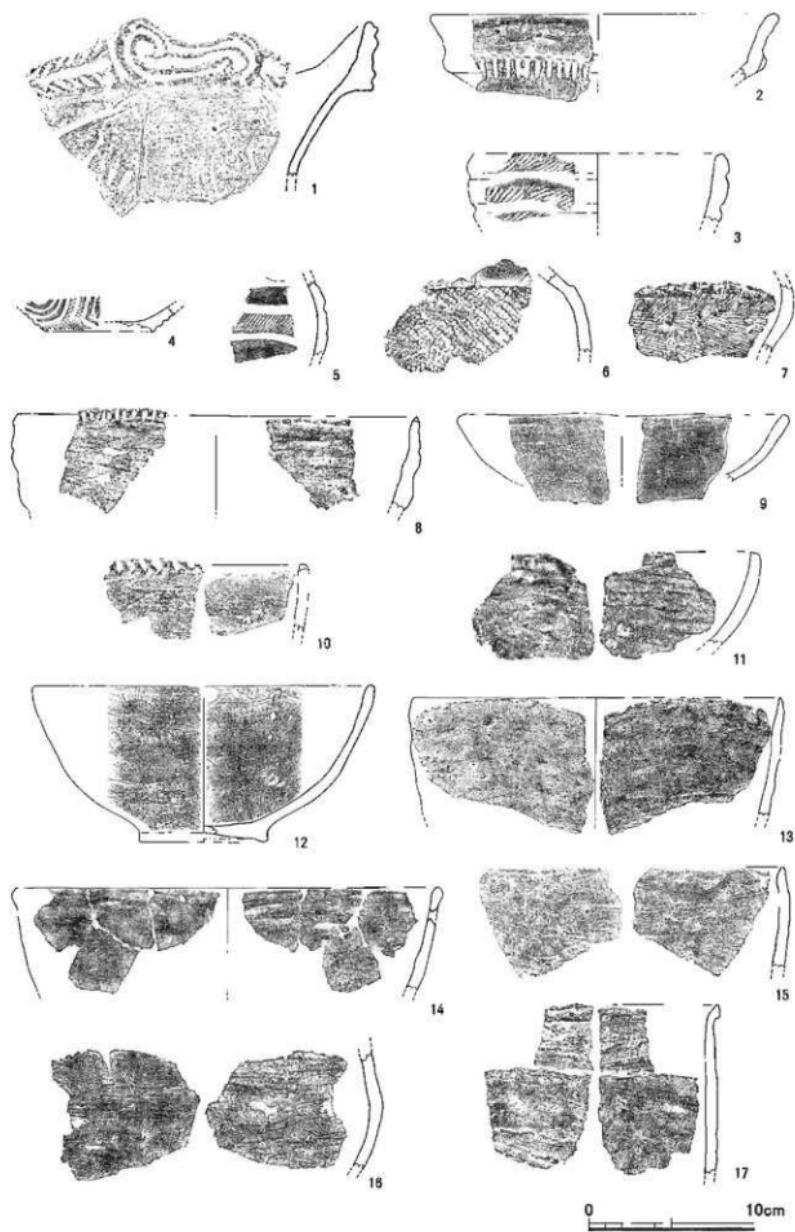


第13図 2号竪穴住居跡実測図 (S-1/60)

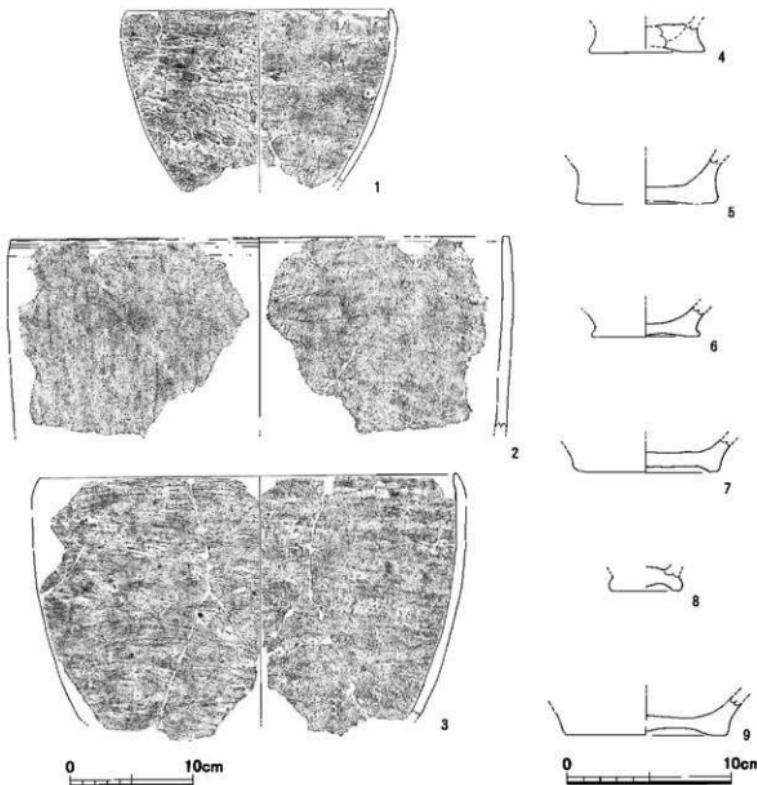
状況は良好ではなかった。

平面形は方形を呈するもので、規模は1辺3.6m・深さ42cmである。壁際には礫が壁に沿うようにならんでいた。また、住居跡床面南寄りでは焼土面が検出された。焼上面は径約60cmを測るもので、厚みは約10cmを測る。

住居跡の埋土は基本的に茶褐色土層の1層である。出土遺物には繩文土器、石器がある。第14図-1は縄文土器である。口縁部の外側が肥厚し、渦文と羽状文を施した物である。2は浅鉢である。「く」の字形に扁曲し刻み目をもつ胸部を有し、口縁部が外反する物である。3は鉢で太めの沈線に磨消繩文を付するものである。4は小型の破片で細めの沈線及び幾何学文を描き、磨消繩文を付する物である。5は胸部の破片で、太めの平行沈線の間に細かい繩文を付するものである。6は胸部に段を有する物で段から下に繩文を付するものである。7は条痕を有する破片である。8・10は内外面ともに粗いナデが施され、口縁部に刻み目を有するものである。9・11・12は粗製の浅鉢で内外面ともナデ調整である。13～17は粗製の深鉢の破片である。第15図-1～3は粗製の深鉢である、調整は内外面ともにナデである。14は口縁部がわずかに肥厚し、口縁下に穿孔されている。4～9は深鉢の底部と思われるものである。8は小型の底部の破片である。



第14図 2号竖穴住居跡出土土器実測区1 (1 : 3)



第15図 2号整穴住居跡出土土器実測図2 (1~3 1:2, 4~9 1:3)

第49図-1・2は石斧である。1は断面楕円形の礫の短辺及び長辺の片側を打ち欠いて刃部としている。2は断面がつまつた円形の短辺を打ち欠いて刃部としている。50図-4は扁平な円礫の両短辺に打ち欠きが見られるものである。焼土面から検出した炭化物放射性炭素年代測定では、BP 3570±60の数値が出ている。この数値が妥当なものであるとすれば、この住居跡の時期は縄文時代後期後半に求められる。

#### 2号住居跡周辺の遺構(第16図)

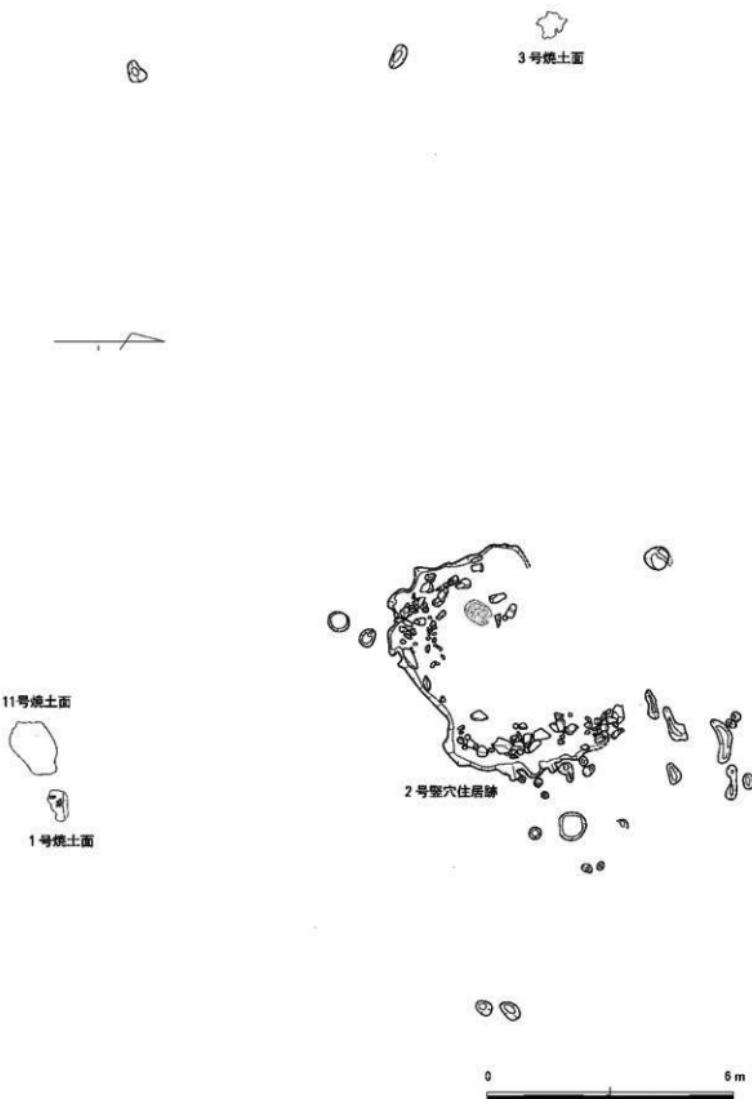
2号住居跡の周辺で上坑、ピット、溝状遺構が検出されている。また、約6~12m離れた位置で焼土面、ピットが検出されている。

#### 1号焼土面(第17図-1)

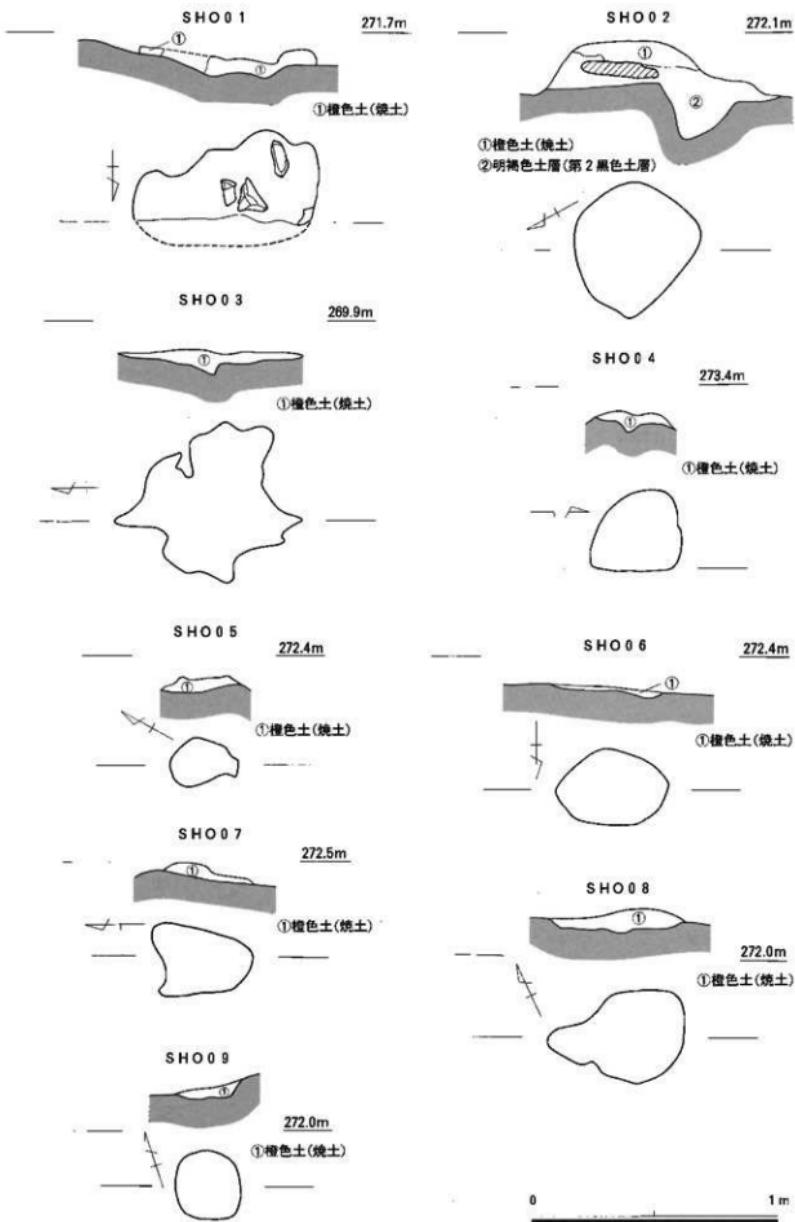
住居跡の南9.6mに位置している。北側は残存していない。平面楕円形を呈し、長辺は72cm、幅は残存部分38cm、厚みは6cmを測る。焼土中には礫が4個含まれていた。

#### 2号焼土面(第17図-2)

住居跡の12.2m北に位置し、長さ56cm、幅50cm、厚みは10cmを測る。



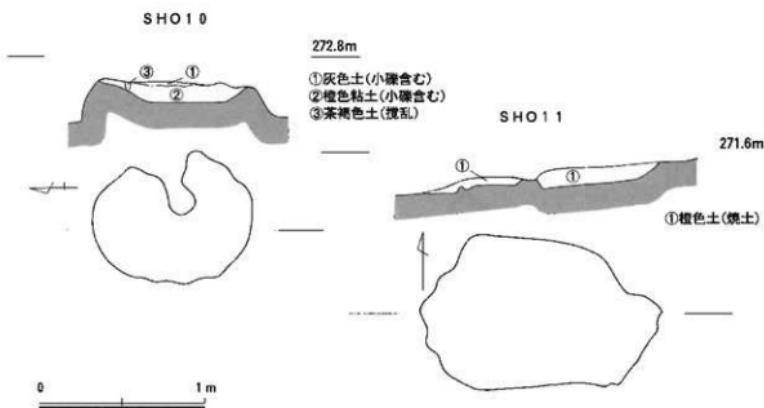
第16図 2号竪穴住居跡周辺の遺構 (1 : 120)



第17図 第2黑色土層検出焼土面実測図1 (1:20)

### 11号焼土面 (第18図-2)

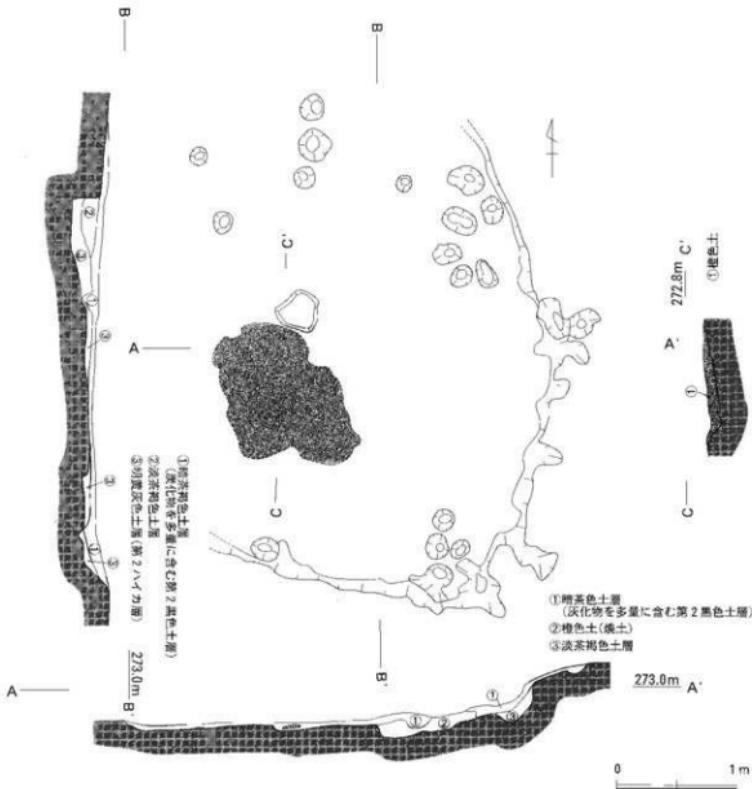
住居跡の南9.8mに位置している。平面梢円形を呈し、長さ1.5cm、幅96cm、厚み9cmを測る。



第18図 第2黒色土層検出焼土面実測図2 (1 : 30)

### 3号竪穴住居跡

第2黒色土層調査区の北東隅付近に位置している。北側及び西側は流失しており残存状態は良好ではなかった。壁際を中心に20基のピットが検出されており、これらは柱穴であると思われる。柱穴の規模はP.1が径14cm・深さ12cm、P.2が径14cm~18cm・深さ20cm、P.3が径18cm~22cm・深さ8cm、P.4が径24cm~26cm・深さ26cm、P.5が径18cm・深さ14cm、P.6が径12cm・深さ12cm、P.7が径20cm~30cm・深さ26cm、P.8が径16cm~24cm・深さ32cm、P.9が径28cm~18cm・深さ18cm、P.10が径14cm~18cm・深さ14cm、P.11が径14cm~18cm・深さ12cm、P.12が径16cm~22cm・深さ8cm、P.13が径16cm~34cm・深さ51cm、P.14が径20cm~28cm・深さ18cm、P.15が径16cm~20cm・深さ26cm、P.16が径18cm~21cm・深さ25cm、P.17が径12cm~16cm・深さ14cm、P.18が径12cm~40cm・深さ46cm、P.19が径20cm~26cm・深さ29cmである。P.20が径18cm~22cm・深さ37cmである。床面の南よりの位置では焼土面が検出されている。焼上面は長さ1.4m、幅82cm、厚みは12cmである。住居跡の埋土上は基本的に暗茶褐色土、淡茶褐色土、暗黄灰色土の3層である。この中に含まれていた遺物には繩文土器がある。第20図-1~4、6~12、14は深鉢の破片である。1・3は沈線の上方に繩文を施すものである。2は胴部に繩文が付されたものである。5は粗製浅鉢の底部だと思われる。無文で内面にはミガキが施される。8は波状の口縁をもち体部が外反するものである。9、10は内面に断面三角形の張り付けを有するものである。調整はともに内外面とも粗いナデである。11は粗製の深鉢で、口径17.1cm、器高は14.7cmを測る。12は粗製の深鉢で内面の口縁部付近に指頭圧痕がめぐるものである。13は粗製浅鉢で調整は内外面ともに粗いナデである。14は深鉢の底部で、調整は内外面ともに粗いナデである。15は胴部が屈曲して口縁部が外反する浅鉢である。胴部屈曲部に刺



第19図 3号竖穴住跡実測図 (1:40)

突を施し、以下に縄文を付するものである。石器には、石錐・石斧・用途不明の石製品がある、第50図-4は石錐である。扁平な不整楕円形の縁の両短辺が打ち欠かれている。第49図-1・2は石斧である。1は断面楕円形の縁の短辺及び長辺の片側を打ち欠いて刃部としている。2は断面がつまた円形の短辺を打ち欠いて刃部としている。第50図-13は用途不明の石製品で全長は約8cmである。砂岩質の石材に欠損している物も含めて8つの突起を削り出している。

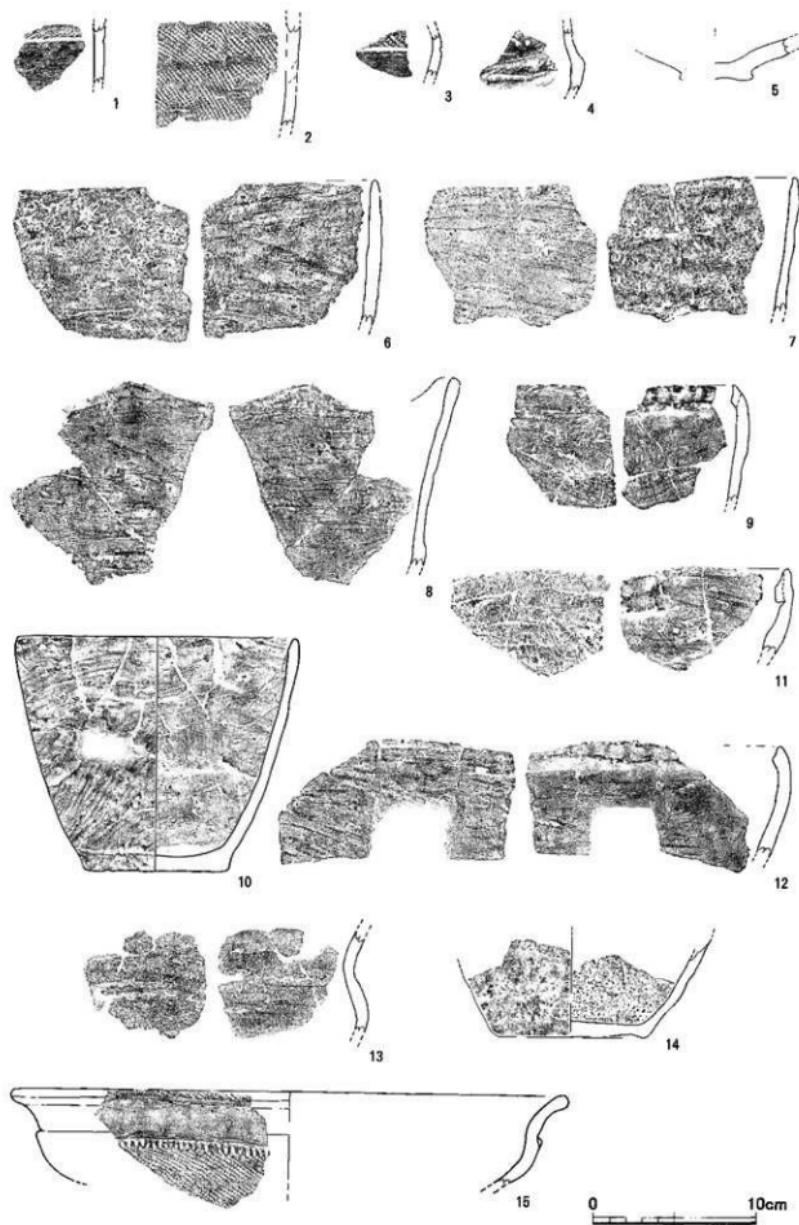
焼上面から検出された炭化物の放射線炭素年代測定によりB.P 3710±50の値が出ている。この数値が妥当なものであればこの住居跡の時期は縄文時代後期前半に位置づけられよう。

### 3号住居跡周辺の造構（第21図）

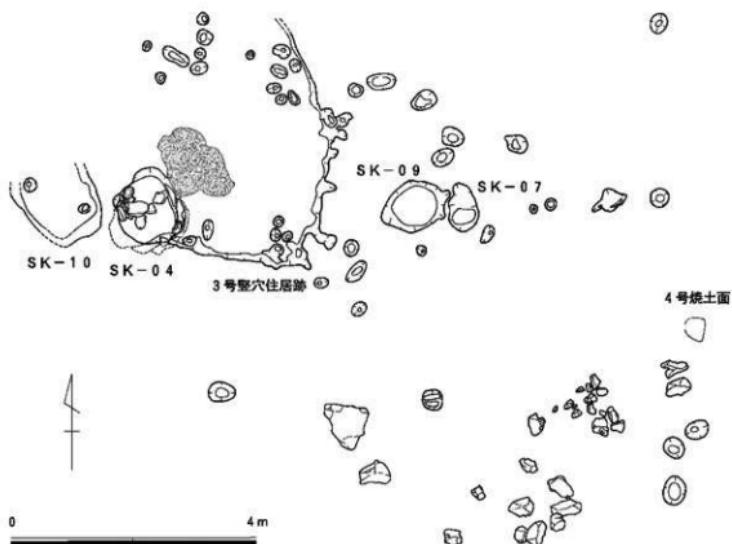
住居跡の東側を中心に土坑4基、焼土面1基、ピット群が検出されている。

### SK-09 (23図-3)

住居跡東辺の東側に位置し、平面形は1.2m~84cmの不整楕円形で、深さは32cmを測る。埋土は



第20図 3号整穴住居跡出土土器実測図 (1:3)



第21図 3号竖穴住居跡周辺の遺構 (1 : 80)

暗褐色土 1 層である。

**SK-07 (23図-1)**

SK-09 の東側に位置し、平面形は80cm～52cmの不整楕円形で、深さは34cmを測る。

埋土は暗灰褐色土 1 層である。

**SK-04 (22図-4)**

住居跡の残存部分の南西隅に位置し、平面形は1m～1.2mの不整円形を呈する。深さは64cmを測る。断面形はいわゆるフラスコ形を呈し、埋土中から礫が検出された。埋土は淡茶褐色土の1層である。

**SK-10 (23図-4)**

住居跡南西部の西隣に位置し、北側部分は残存していない。平面形は不整楕円形を呈していたと考えられ、残存部分の北東隅には、平面円形のピットが1基検出されている。幅は1.1mで、長さは残存部分で1.2mを測る。深さは32cmで、埋土は明灰褐色土の1層である。

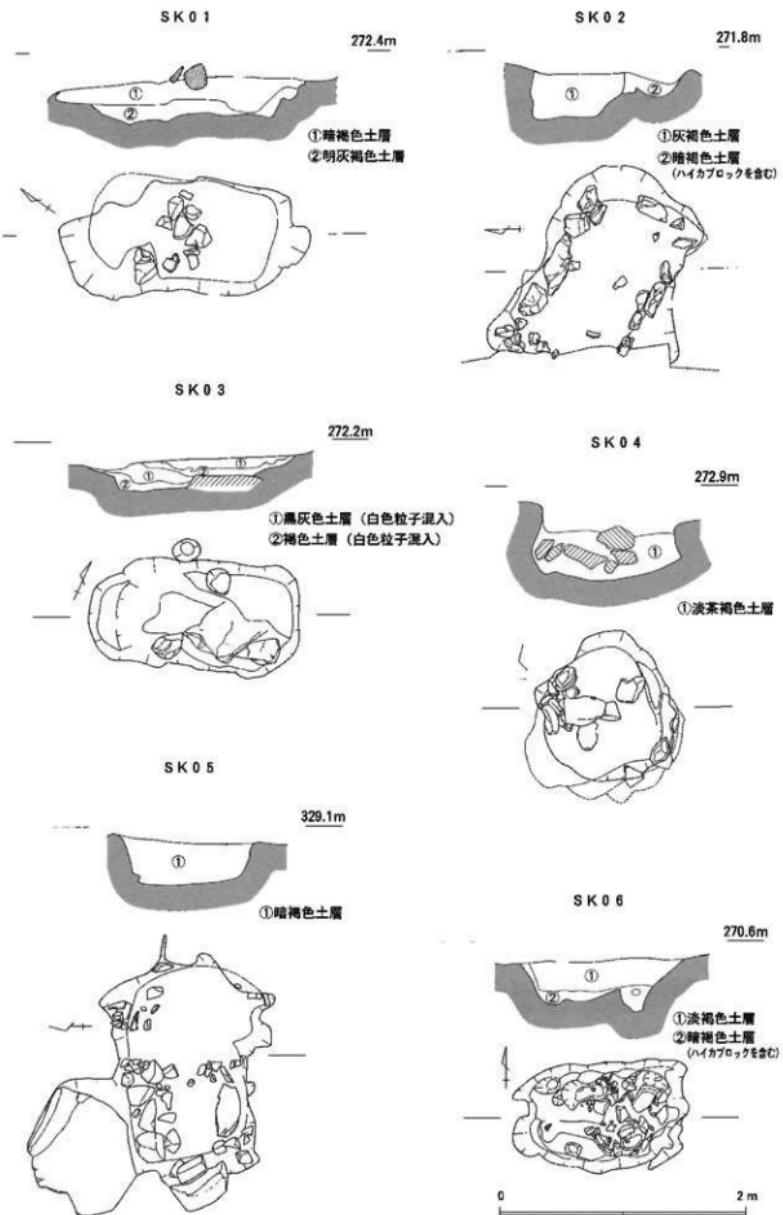
**4号焼土面 (第17図-4)**

住居跡から南西に5.8mに位置し、平面形は不整円形を呈する。径は60cm～68cm、厚さは16cmである。

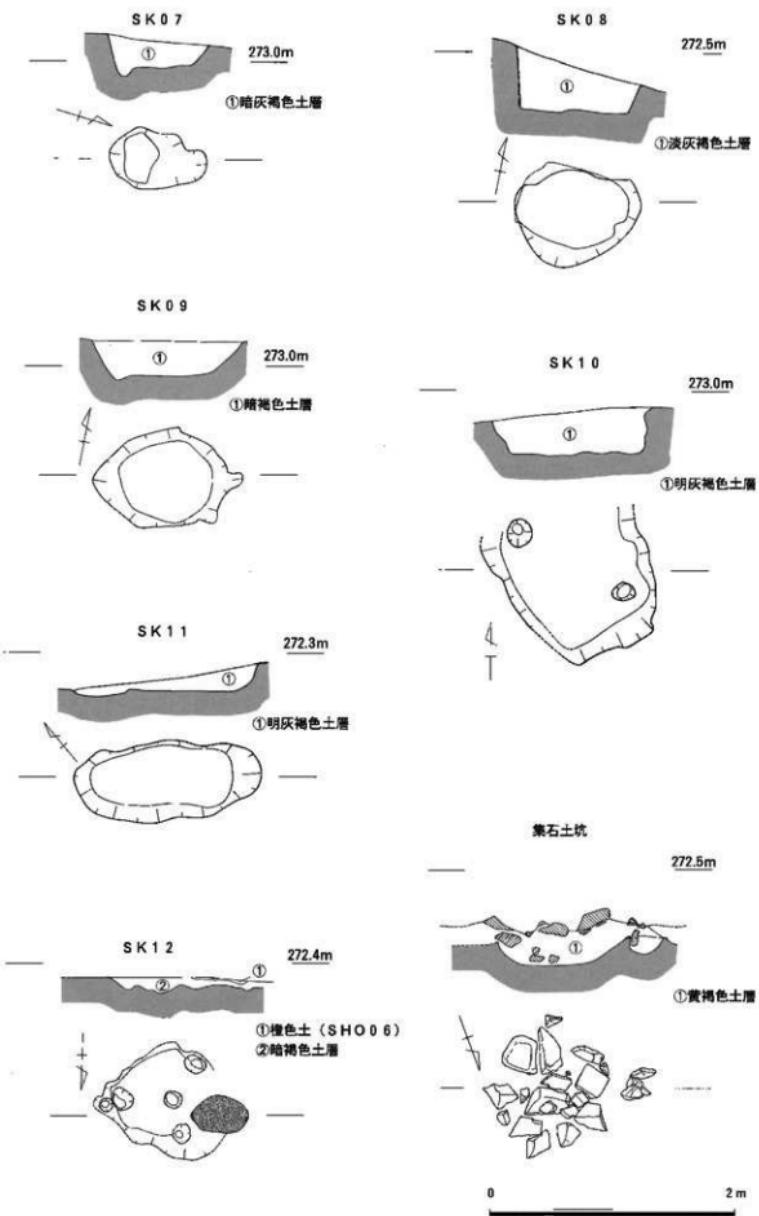
**SK-05周辺の遺構 (第24図)**

調査区東辺が東側に折れる角の付近に位置する、SK-05とその周辺には、土坑墓と思われる土坑、ピット、集石遺構、焼上面が検出されている。

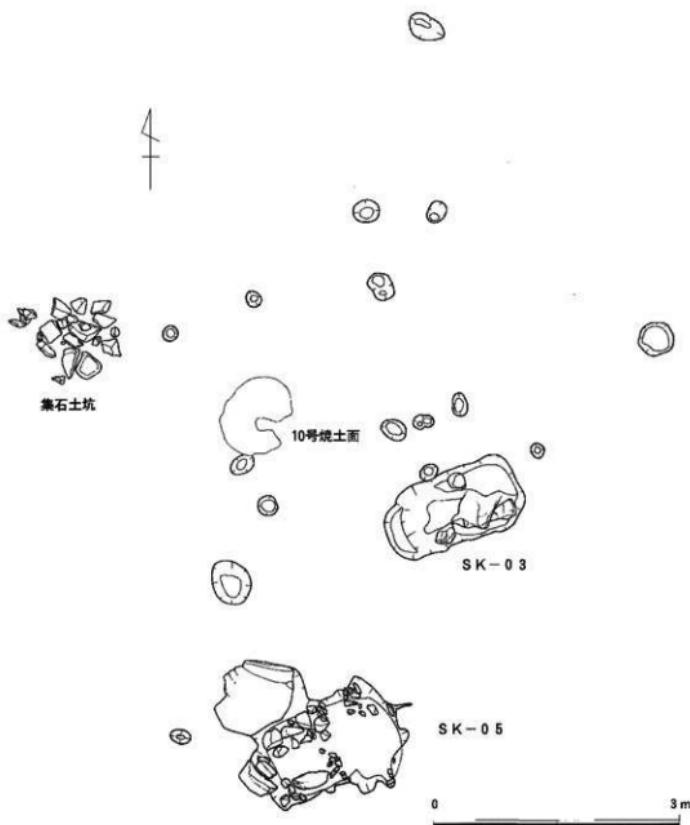
**SK-05 (第22図-5)**



第22図 第2黑色土層棟出土坑実測図1 (1:40)



第23図 第2黒色土層棟出土坑実測図2 (1:40)



第24図 SK-05周辺検出遺構実測図（1：60）

調査区東辺から西に3.9mに位置している。平面形は長さ1.8m、幅1.3mの不整梢円形を呈し、深さは36cmを測る。壁には疊がはまりこんだ状態で検山された。北壁の北西隅は長さ1.1m、幅84cmの岩に接している。埋土は暗褐色土層の1層である。

#### SK-03（第22図-3）

SK-05の北東1.8mに位置している。平面形は不整方形を呈しており、長さ1.7m、幅9.2cm、深さは24cmを測る。北側長辺付近ではピットが2基検山されている。床面には疊が3つはまりこんでいる。埋土は黒灰色土層と褐色土層が互層状に堆積している。

#### 10号焼土面（第17図-1）

SK-03の北東1.8mに位置し、平面形は現状でC字形を呈する。長径は6.6mを呈する。焼土の厚みは6cmを測る。



SK-06



SK-02

2号焼土面

SK-01

SK-12

8号焼土面

9号焼土面

SK-11

7号焼土面



SK-08

第25図 SK-01周辺検出遺構実測図 (1 : 120)

### 集石土坑（第23図-7）

焼上層10mの西1.4mに位置し、範囲は径1.4mの範囲で23個の礫がまとった状態で検出された。

### SK-01周辺の遺構（第25図）

第2黒色土調査区東寄りに位置するSK-01周辺には、上坑、ピット、焼土面が検出されている。

### SK-01（第22図-1）

平面形は不整橢円形で、長さ2m、幅86cm、深さ32cmを測る。埋上は暗褐色土層と明灰褐色土層の2層で上層と壁面で礫が検出された。

### SK-02（第22図-2）

SK-01の南西4.9mに位置している。西側はトレンチにより削平されてしまっているが、平面形は不整橢円形を呈していたものと思われる。長さは残存部分で長さ1.5m、幅1.2m、深さ0.9cmを測る。埋上は灰褐色上層、暗褐色上層の2層である。埋上中に壁に沿うように礫が検出された。

### SK-06（第22図-6）

SK-02の約15m西の位置で検出された。平面形は不整橢円形を呈し長さ1.3m、幅92cm、深さ44cmを測る。埋土は、淡灰褐色土層と暗褐色土層の2層である。埋土中及び床面では礫が検出されている。

### SK-08（第23図-2）

SK-01の約7.9m北東の位置で検出された。平面形は不整円形を呈し径1m～76cm、深さ52cmを測る。埋土は、淡灰褐色土層の1層である。

### SK-12（第23図2-6）

SK-01の東側1.3mに位置している。東側の肩は検出できなかったが、不整円形を呈したものと思われ、現状で径96cm、深さ16cmを測る。埋上は、暗褐色土層の1層である。床面及び壁からピットが5基検出された。

### 焼土面2（第17図-2）

SK-01から北に4.6m北に位置している。平面形は不整円形を呈し、径は28cm～56cmである。厚みは10cmで焼土直下では、幅20cm、厚さ6cmの扁平な礫が検出されている。

### 焼土面6（第17図-6）

SK-12の埋土上に位置し、平面形は橢円形を呈している。長さは46cm、幅は32cmである。厚さは2cmを測る。

### 焼土面7（第17図-7）

SK-10から北東に7mに位置している。平面形は36cm×30cmの不整形を呈しており、厚さは6cmを測る。

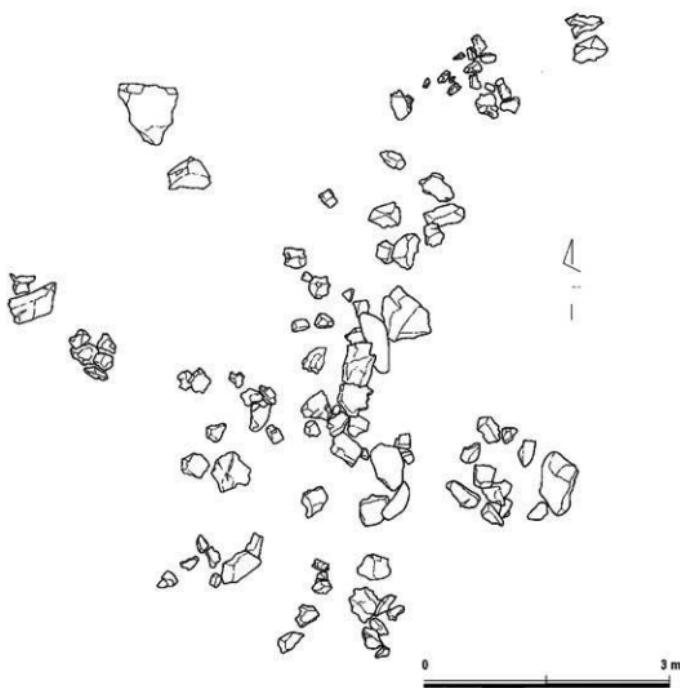
### 焼土面8（第17図-8）

SK-10から北東に7mに位置しており、平面形は橢円形を呈している。長さは56cm、幅は38cmである。厚さは8cmを測る。

### 焼土面9（第17図-9）

SK-10から北東へ2.8mに位置しており平面形は橢円形を呈している。長さは26cm、幅は28cmである。

cmである。厚さは6cmを測る。



第26図 集石遺構実測図 (1:60)

#### 集石遺構（第26図）

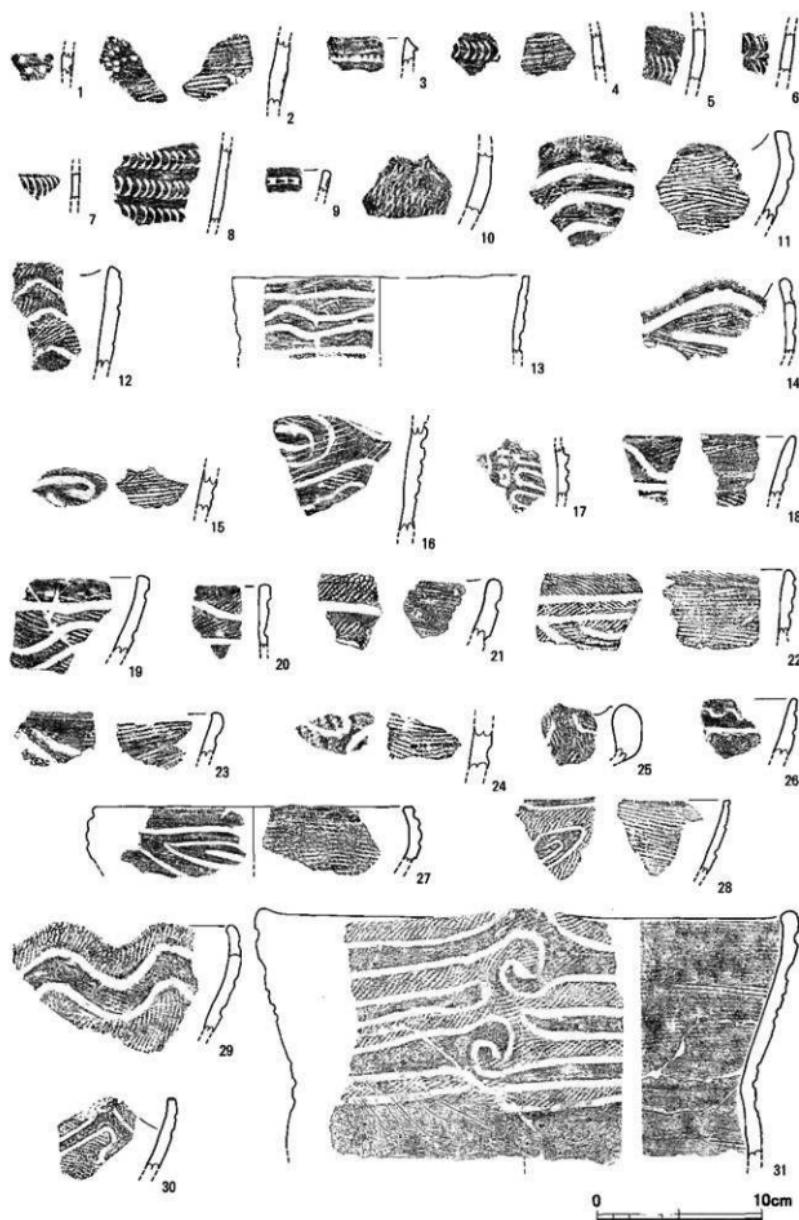
調査区東端付近の第2ハイカ層上面及び同レベルの面で検出された。礫89個からなり、このうち2個が川から持ち込まれたと思われるものであったため、集石遺構として位置を記録した。被熟痕や土坑の掘り肩は見られず、遺物なども検出されていないことから遺構の性格は不明である。

## 2. 遺 物

第2黒色土層からは、縄文土器、石器が検出されている。

### 前期の土器

第27図-1・2は外面に列点文を付するものである。2は列点文の下および内面に条痕を施すものである。3・9は押し引き刺突文を有する深鉢の口縁部の破片だと思われる。4～8は爪形文を施すものである。このうち4は内面に条痕を施すものである。これらの土器は本来第2黒色土層からは出土しないものであるが、第2黒色土層調査中に第2ハイカ層の存在しない地点で、誤認して掘



第27図 第2黑色土層出土縄文土器実測図1 (1 : 3)

削した第3黑色土層から出土したものと思われる。便宜的に第2黒色土層出土遺物として掲載した。

### 中津式初頭の土器

27図-10は細かい圧痕文を施す。11は口縁下に太い沈線を引き、圧痕文を施すものである。12は細かい繩文の地文に沈線を施すものである。13は粗いナデを施し、波状の沈線が入るもので、復元口径は18.2cmを測る。14は波状の口縁をもつもので、沈線が渦巻状に地文は条痕を施す。15は表面に鉤状の沈線を施し、内面は条痕を付するものである。16は波状および渦状の沈線に条痕を付するものである。17は沈線でモチーフ不詳の文様を描くものである。18は外間に沈線を施し、内面には条痕を付するものである。19は条痕に沈線を入れるものである。20・21・23～25は細かい繩文地に沈線を施すものである。このうち23・24は裏面に条痕を施している。22は表裏両面に条痕を施し、沈線を施すものである。26は沈線のみで文様を構成するものである。27は浅鉢で表面はナデを施した器面に沈線で文様を描くものである。28は細い沈線の磨消繩文で鉤状の文様を描くもので、裏面には条痕を付する。29は波状の口縁をもつもので、繩文を施し波状の沈線が入るものである。

### 中津I・II式の土器

27図-30は磨消繩文をもつ深鉢の破片である。31はキャリバー状の器形をもつもので磨消繩文で鉤状の文様を描くものである。内面には条痕を付す。

第28図-1～15はいずれも磨消繩文をもつ深鉢である。ほとんどがJ字文鉤状のモチーフであるが、1・8は鉤状の文様を施すものである。6・9は直線的な文様を施すものである。

第29図-1～19はいずれも磨消し繩文をもつ深鉢の破片である。1は沈線で菱形の文様を描くものである。2は口縁下に孔列文を配しその下にJ字文を描くものである。3は頸部のくびれる深鉢であり内面は条痕を施す。4は口縁部が内湾し幅の太い磨消繩文をもつものである。5・6は直線的に伸びる体部をもつものであり、5は菱形のモチーフをもつものである。7・8は内面に条痕をもつ頸部のくびれるタイプの深鉢である。9・10・14・15・17は内外面ともに条痕を施し、外面の一部に磨消繩文を施すものである。13・18・19は内面に条痕を施すもの、11・12は内面をナデで仕上げるものである。16は波状の口縁部をもつものである。

第31図 1～5は磨消繩文をもつものである。1は無文の器面に磨消繩文を施すものである。2は内外面に条痕を施し、磨消繩文が入るものである。3は外面に繩文を施し、沈線を施すものである。4はナデ調整を行った器面に沈線を入れたものである。30図は、ほぼ完形の無頸の浅鉢である。

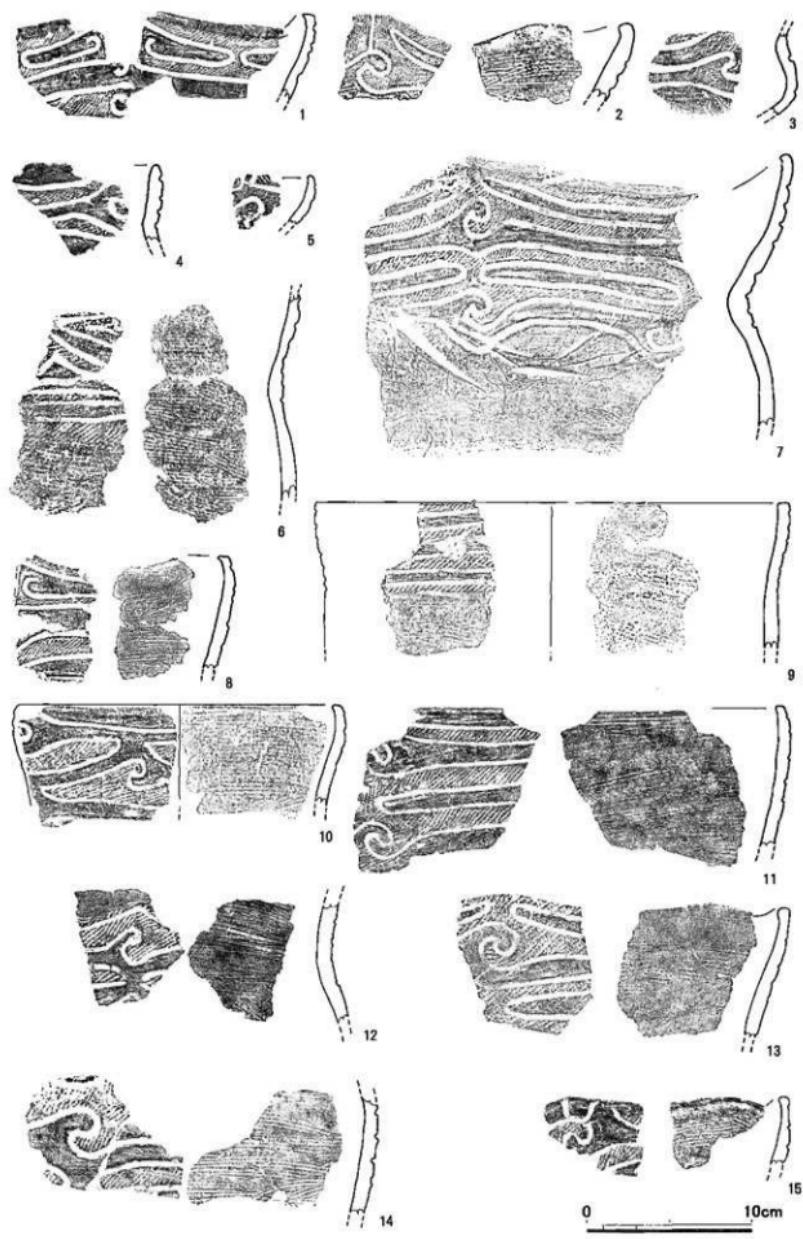
### 中津II式の土器

31図 6～16は磨消繩文を施すものであるが、6はJ字文、11～13・15はO字文を施すものである。16は窓枠状の文様を入れるものである。

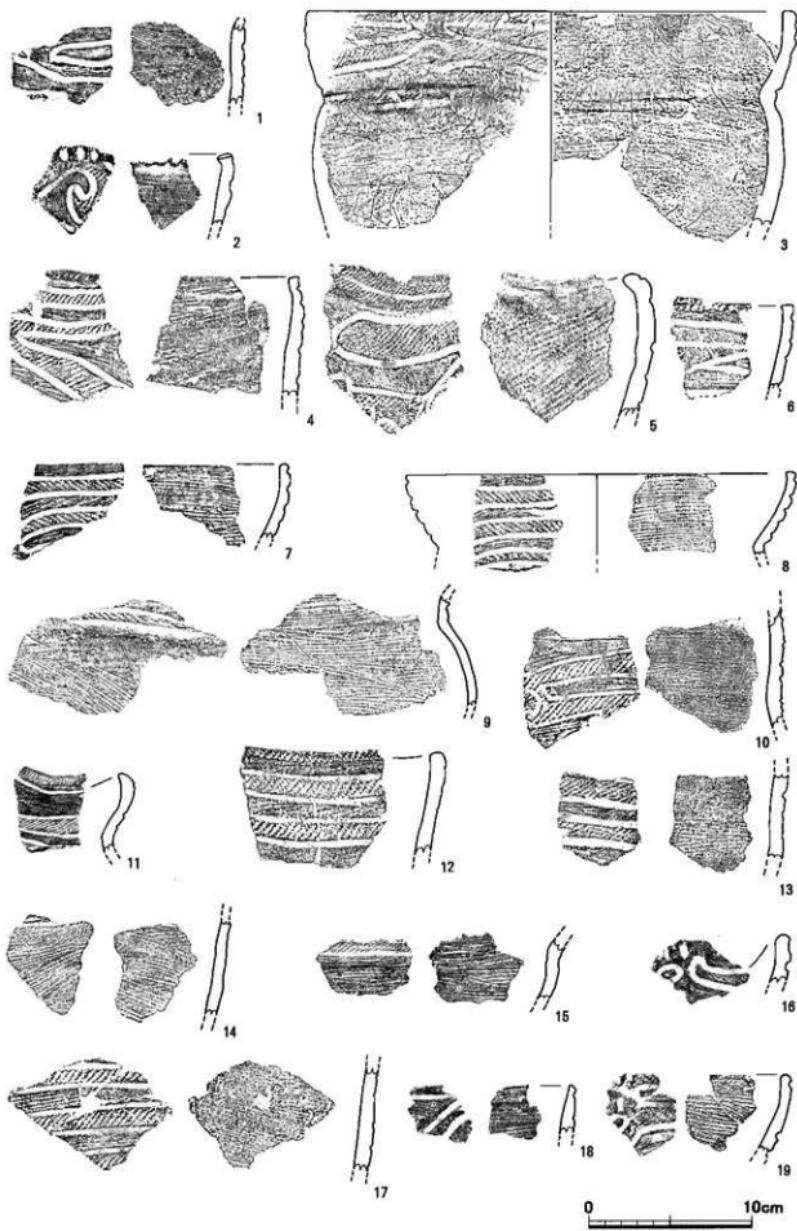
### 浅鉢の可能性のある土器

31図17～32、32図1は比較的幅の太い沈線の間に細かい繩文の入るものである。このうち20には沈線がなく、32には繩文が入っていないが、それぞれ繩文・沈線の雰囲気がここに掲載したものに似通っているためまとめて掲載した。

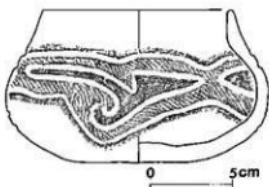
第32図-2～12は、細かい繩文に比較的細い沈線で磨消繩文を構成するものである。2は小型の浅鉢で、内面に条痕を施すものである。2は縦方向に3つ円形の指頭圧痕を付するものである。9は綫長の長方形の文様帯をもつものである。



第28図 第2黒色土層出土縄文土器実測図2 (1:3)



第29図 第2黒色土層出土縄文土器実測図3 (1:3)



第30図 第2黒色土層出土繩文土器実測図4  
(1:3)

變則的なモチーフの深鉢  
32図13~20は深鉢の破片であるが、中津I・II式にはみられなかったモチーフのものである。13・14・19・20は横長の長方形を含むモチーフのものである。15・16・17・18は曲線的なモチーフの文様を付するものである。

中津III式の土器  
第32図-21~32、第33図-1~5はいずれも沈線の細い磨消繩文を付するもので中津III式とされるものである。第32図-21~25は波状口縁をもつ深鉢である。26・28・29は胴部の破片である。27・30~32、第33図-1~5は浅鉢の破片である。1は体部が緩やかに内湾するものである。2・4は口縁部が屈曲し内傾するものである。3は口縁部が内傾するものである。5は体部内面に段を有し、口縁部が屈曲し内傾するものである。6~14は細い磨消繩文を施すものである。6~8は方形の区画文を有するものである。9・10・13は磨消繩文の沈線が3本になるものである。15は口縁下に横走する2本の沈線を引くものである。16・18は極細の沈線を口縁付近に入れるものである。19は口縁部下に竹管文を施すものである。

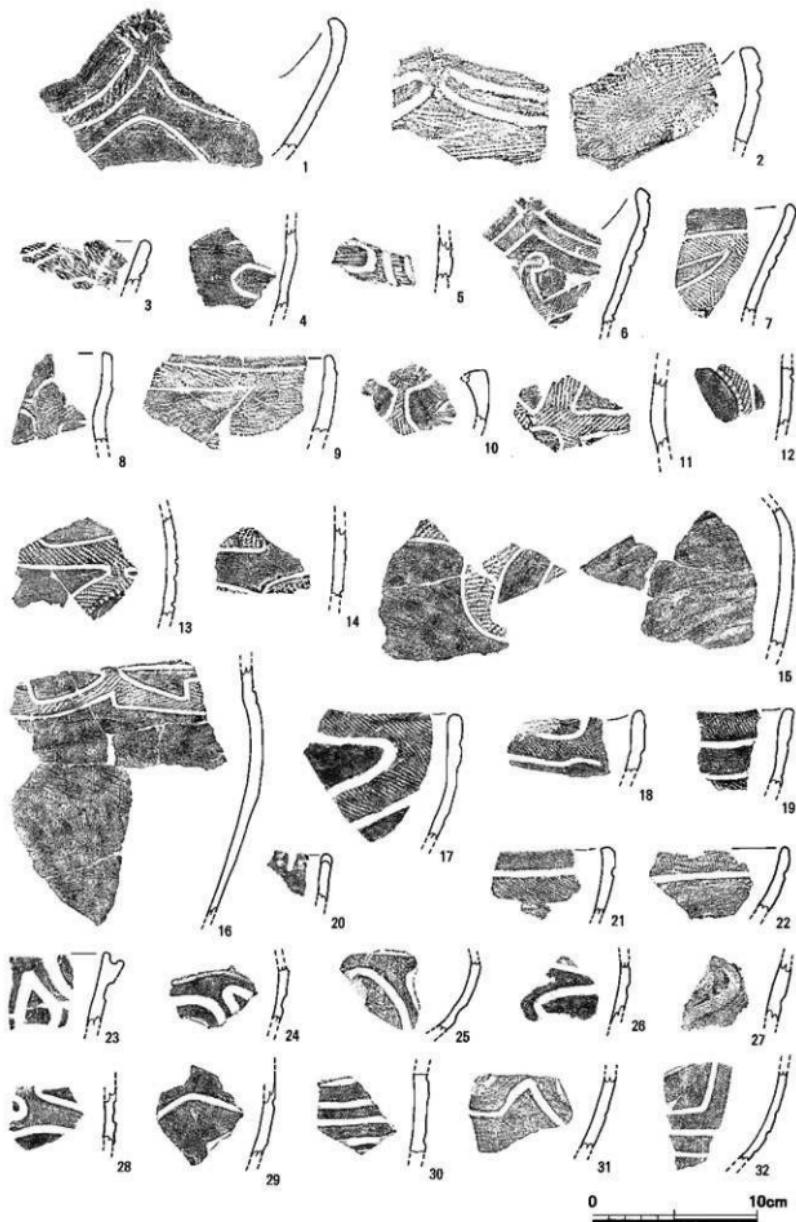
第32図-17・20~23は第2黒色土層より出土した縁帶文土器の中で口縁部の最も発達するものである。17は波頂部に刺突文を配し、その周辺に沈線文及び繩文を付すものである。20・21は口縁部に渦巻文を入れるもので、21には繩文が入る。22は肥厚した口縁部に横走する沈線および、刺突文とその周りをめぐる沈線を入れるものである。23は発達した口縁部に沈線を入れその両側に繩文の入るものである。

#### 布勢式の土器

第34図-1~8は、布勢式と思われるものである。2は口縁部に横走する沈線及び繩文の付されるものである。3・8は口縁部にヘアピン状にカーブする2条の沈線が入るものである。4は大きく屈曲する口縁部の頂部に穿孔を施し、沈線文を施すものである。5~7は波頂部で沈線文が渦巻状を呈す繩文を付すものである。

#### 彦崎K I式の土器

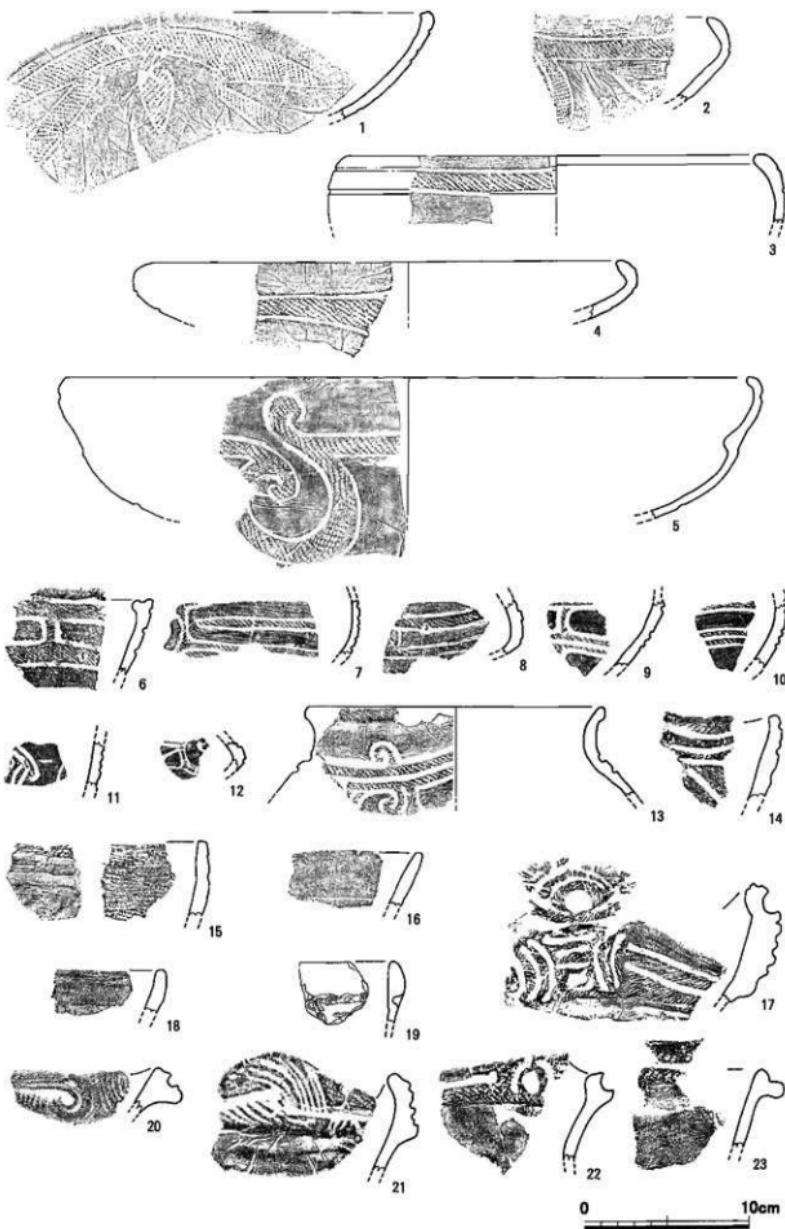
第34図-9~18は口縁部の内側の肥厚する彦崎K I式土器である。9・15は2本の沈線により2本の横線を引き、波頂部に刺突文と沈線文を配すものである。10は9から波頂部下の文様を除いたものである。11は肥厚部に繩文を施し、口縁下に刺突文を有するものである。12・13は波頂部下に繩文を付し、その横に沈線を入れるものである。14は口縁下の肥厚部に2本の沈線を入れ繩文を付すものである。16は胴部が張り、口縁部が直立するものである。胴部と口縁部の肥厚部に繩文を付し、胴部のくびれた部分に沈線があり、胴部の沈線の上部と波頂部沈線の上下にアーチ状の沈線が2本ずつ入るものである。17は口縁部に繩文を入れ山形の沈線を配すものである。波頂部下に刺突文を2つ入れ2本の沈線が入り繩文を付すものである。第35図-1は胴部が張るもので、肥厚部と胴の張った部分に繩文が入り、肥厚部には2本の沈線が引かれ波頂部下に渦紋の入るものである。2は肥厚部の2本の沈線の間に刺突文を配し、波頂部には刺突文の周りに沈線文を入れるものである。3は肥厚部に窓枠状の沈線を入れ繩文を施すものである。4は肥厚部に2本の沈線を引き、側面に繩文を付すものである。第36図-1は波頂部に穿孔を施し、胴部の張るもので口縁部と胴部下半



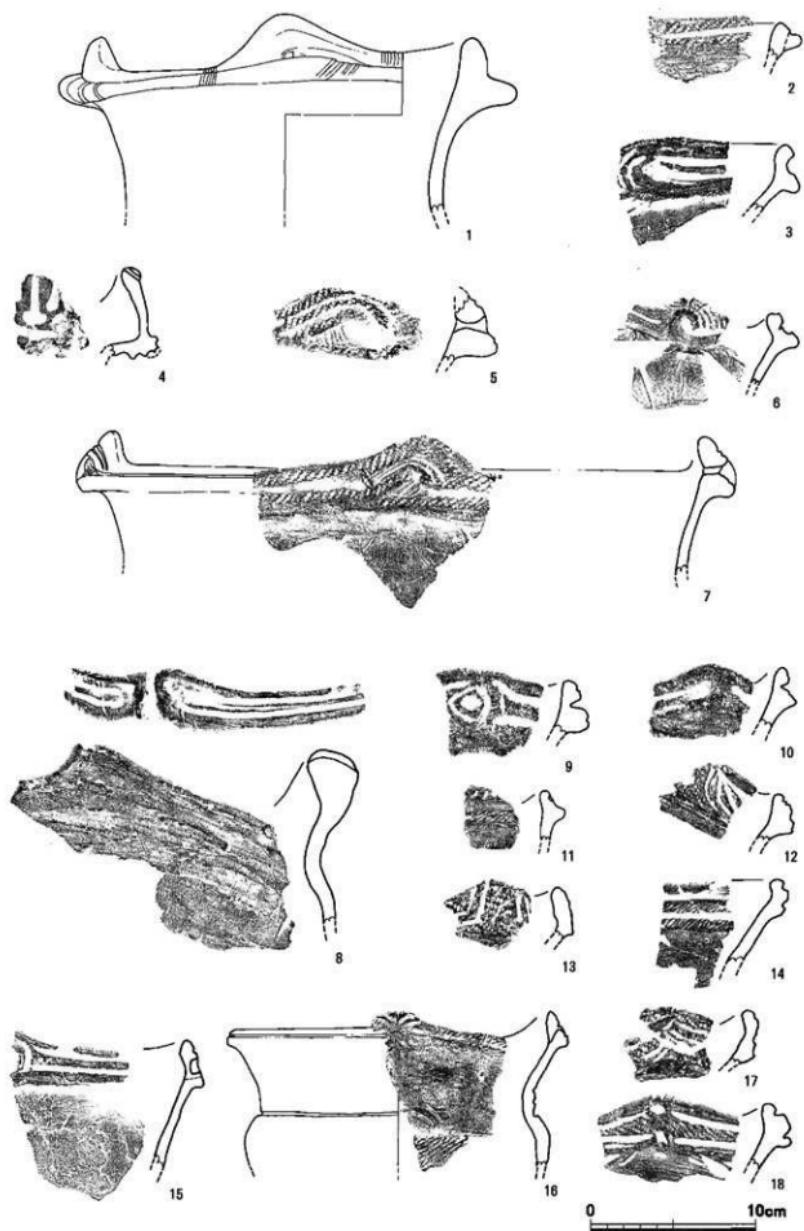
第31図 第2黒色土層出土繩文土器実測図5 (1 : 3)



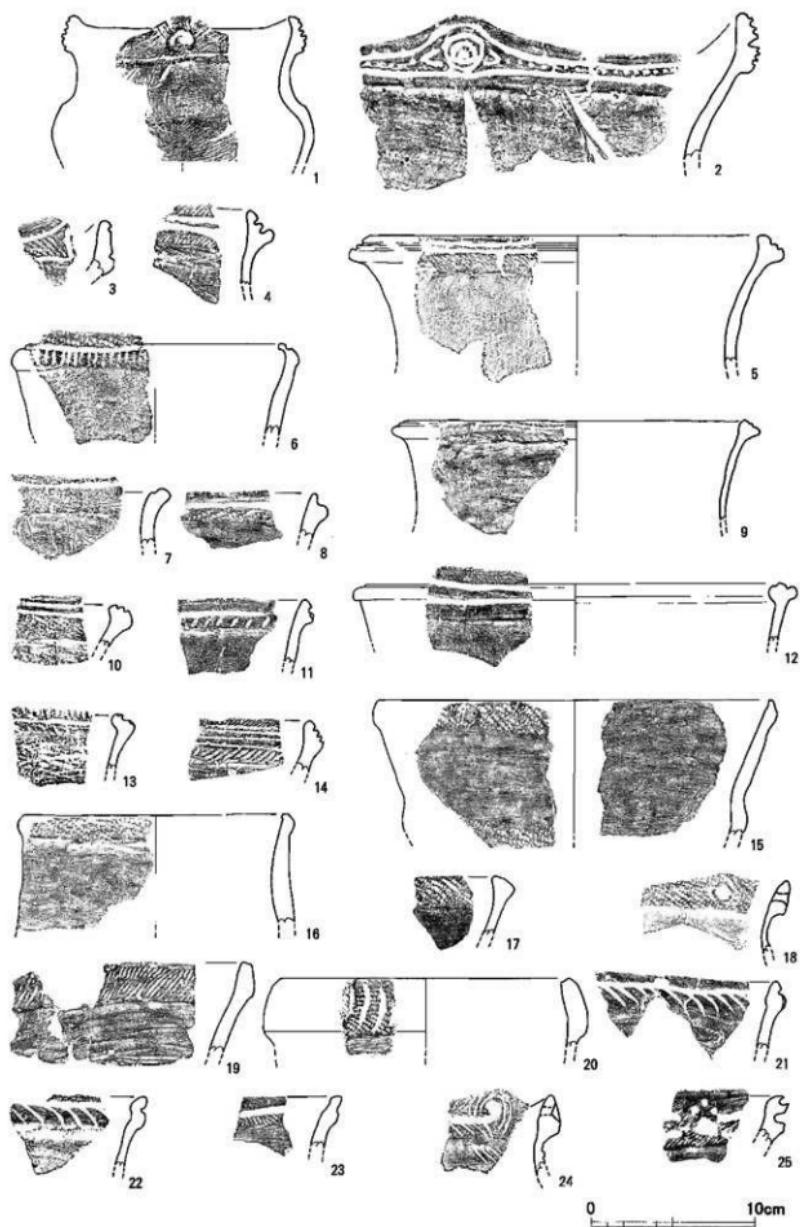
第32図 第2黒色土層出土縄文土器実測図6 (1:3)



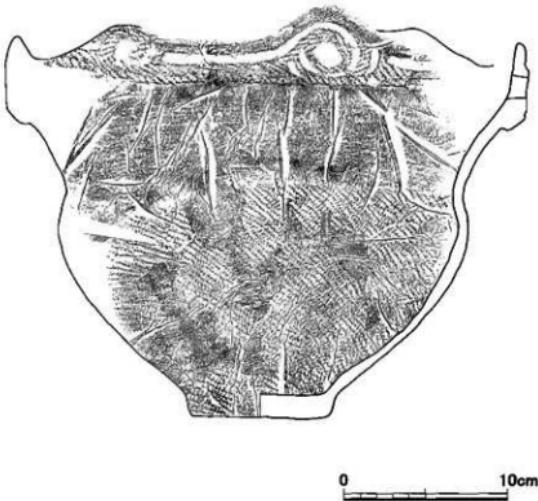
第33図 第2黒色土層出土縄文土器実測図7 (1 : 3)



第34図 第2黒色土層出土縞文土器実測図 8 (1 : 3)



第35図 第2黒色土層出土縄文土器実測図9 (1 : 3)



第36図 第2黒色土層出土縄文土器実測図10 (1 : 3)

に縄文の入るものである。

#### 口縁部が肥厚するもの

第35図-5~14は口縁が肥厚し、口縁端部に施文するものである。5・10・12は口縁端部を肥厚させ2本の沈線が入るものである。5・10は沈線の外側に縄文を付し、5は胴部の外面に縦方向に細かい調整痕が入るものである。6・13は内湾する口縁部に沈線を1本引くもので、6は内側に縄文を外側に刻み目を配するもので、13は両側に刻み目が入る。7は外反する口縁部の内側に沈線を1

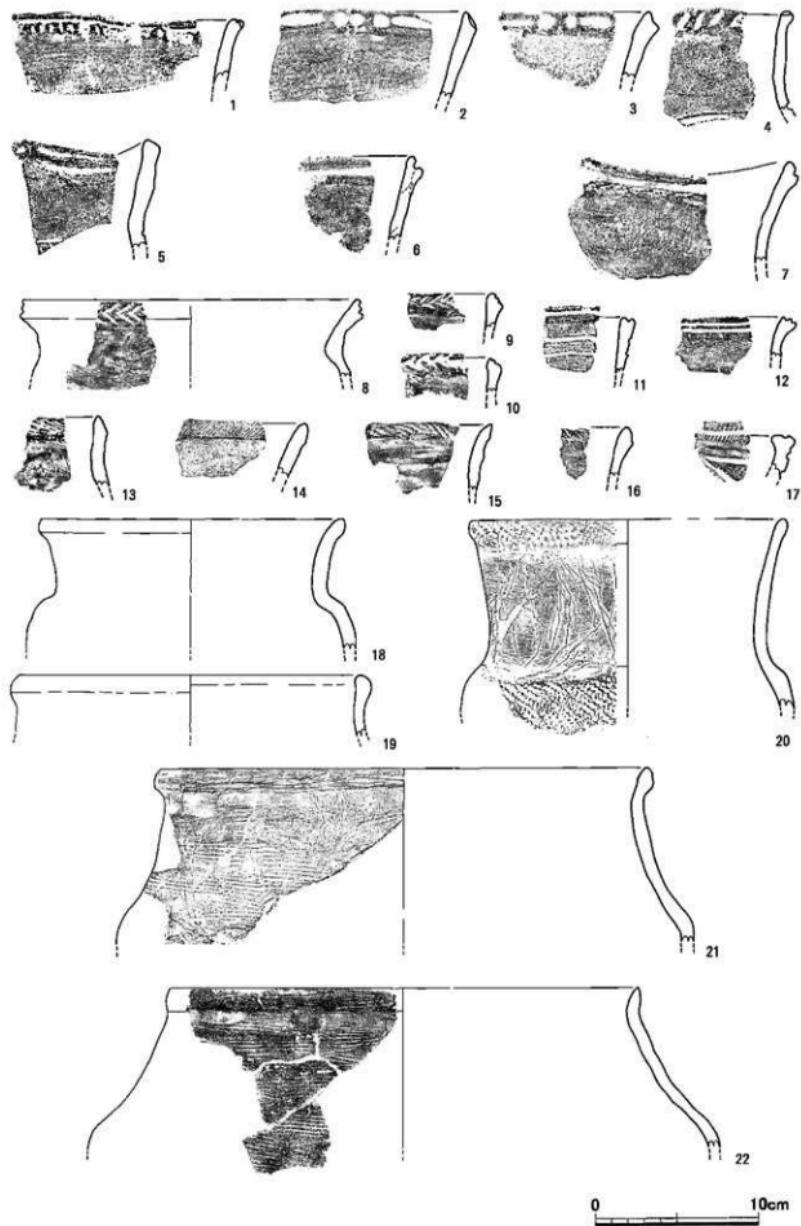
本引くものである。8は口縁下に2本の沈線を引き肥厚部に縄文を付するものである。9は薄手のもので口縁端部に沈線と列点文を施し、その外側に縄文を付するものである。11は口縁下に沈線を引きその下に刻み目を有するものである。14は口縁部に縄文を施しその下に3本の沈線を引き、その下に斜行線文を施すものである。

#### 口縁部の屈曲の弱いもの

第35図-15~25は口縁の屈曲の弱い深鉢である。15~17・19は口縁部に縄文のみを施すものである。15は胴部の張るもので胴部に縄文が入る。18は縄文のはいる口縁部文様帶の波頂部下に穿孔の施されるものである。20は口縁下の文様帶に縄文を入れ、弧状の沈線文を連続して入れるものである。21・22は口縁下に沈線を引きその下の肥厚部に刻み目を入れるものである。23は外面をミガキによって調整するもので沈線の下に縄文を施すものである。24は波頂部に沈線により渦文を描くもので、中心には穿孔が施されている。25は肥厚させた口縁に縄文を入れ、刺突文および沈線の入るものである。

#### 口縁が肥厚せずに端部に文様の入るもの

第37図-1~17は口縁が肥厚せずに端部に文様の入るものである。1は口縁部に沈線を入れその下に刻み日の入るものである。2・3は口縁部下に刺突文を入れその左右に沈線の入るものである。4は胴部に沈線があり、口縁部に刻み目を有するものである。5は口縁部に波頂部に向けて伸びる沈線が入り、口縁部下および胴部に沈線の入るものである。胴部の沈線の下には斜行線文が施されている。6は口縁部下に沈線を1本入れるものである。8~10は口縁部に羽状文を入れるものである。11は直立する口縁に1本沈線を入れ体部に2本の沈線の入るものである。12は外反する口



第37図 第2黒色土層出土縄文土器実測図11 (1 : 3)

縁部に2本の沈線が入るものである。13は口縁下に斜行する沈線文の入るものである。14・15は口縁下に繩文の入るものである。16は口縁部に細い沈線を入れその下に繩文を付すものである。17は口縁部に1本沈線を入れその両側に繩文を付すものである。体部にも沈線が入り、その間に繩文が付されている。

#### 胸部のよく発達した深鉢もしくは鉢

第37図-18~22は深鉢もしくは鉢で胸部のよく発達したものである。18・19は無文のもので、18の外面にはススが付着している。20は口縁部と胸部に繩文を付すもので、内外面ともにミガキが施されている。21・22は胸部がなだらかに広がるもので、胸部外面には条痕が付されている。

第38図-1は口縁部下に緩い段を有するもので、外面ともに調整は粗いナデである。

第38図-2・8は波状口縁をもつもので、波頂部には渦文が入るものである。2の胸部には2状の沈線が入るものである。3・6は口縁下に2本の沈線を入れる薄手のもので、3は沈線の下に、6は上に繩文が付されている。4は口縁下に長方形の区画文を描き、繩文の入るものである。5は口縁下に沈線を引き、その下に刺突文を施すものである。7は先端部が欠けているものの波状の口縁を呈するものと思われる。口縁部に繩文を施し、その下の秩父に2条の沈線が入るものである。9は口縁部に斜めの刻み目を施し、隆筋にも刻み目を施すものである。11は口縁下に繩文を施し、沈線で渦文などを施したものである。12は口縁下に繩文が付され、沈線が入れられるものである。体部には穿孔がなされ沈線が入れられおり、沈線付近には赤色顔料の残るものである。13・14はの突起の破片と思われるものである。14は無文のもので、13には繩文が入り、穿孔部の上下には刺突文を3つ施し、突起部の下には沈線文が入るものである。

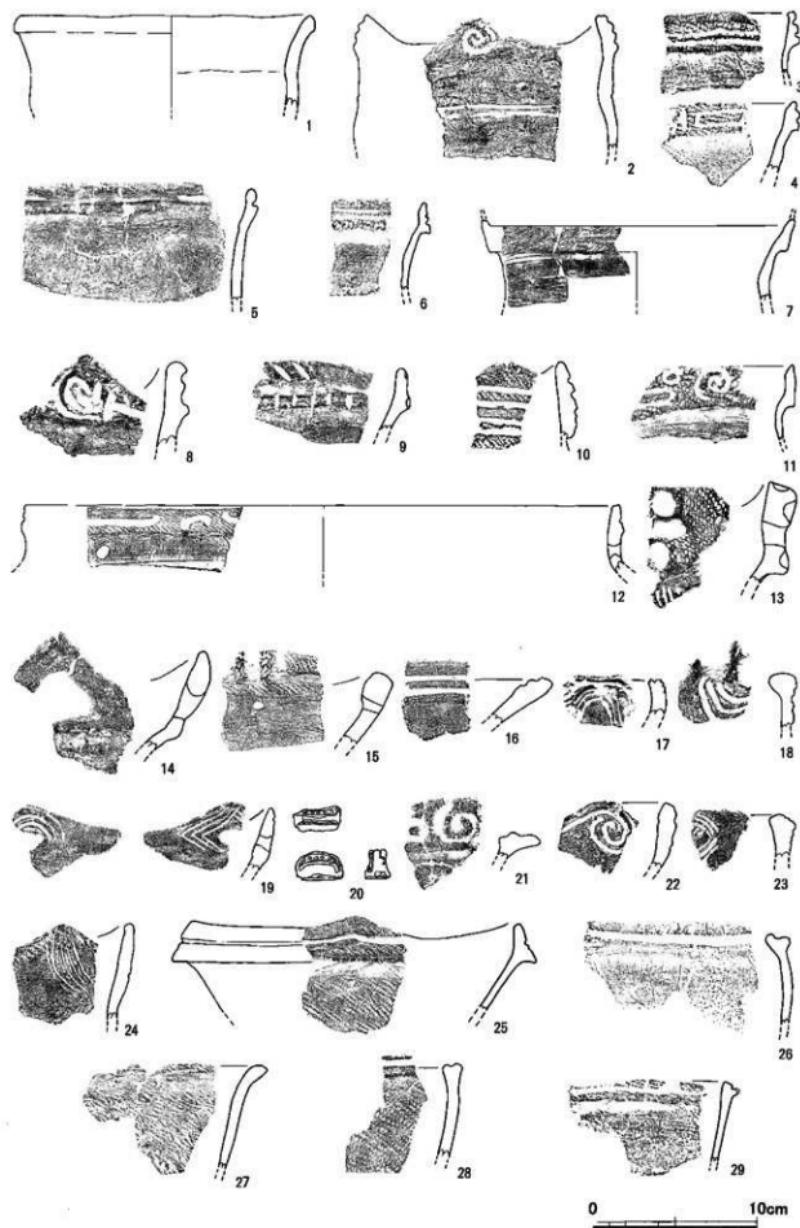
#### 内面に施文のあるもの

第38図-15・16・21は内面に施文されているものである。15は口縁部に兎耳状の突起をもち、口縁部付近に内外面にわたって繩文を施すもので、突起の下に穿孔がなされている。16は口縁下に内面の口縁下に2状の沈線を施すものである。19は波状の口縁をもつもので波頂部下に穿孔がなされ表面ではその上に3状の弧状の沈線が、裏面では側部に3条の鋸歯状の沈線が引かれるものである。22は外反する口縁部の内面に渦文および橢円形の区画文を配するものである。

17・18・22~24は文様の入った突起部の破片である。17は外湾する形状の突起と思われる破片で側面に2条・表面に3条の沈線の入るものである。18は口縁部に現状で2つの突起をもつもので、突起の下に3条の弧状の沈線が入るものである。20は突起の破片と思われるもので側面から表面・裏面にかけて4本の沈線が引かれ、繩文と列点文を施すものである。側面基部には穿孔がなされており、裏面は剥離痕となっている。22は突起部の破片で渦文が施されるものである。23は口縁部に沈線文を施すものである。24は口縁部付近に繩文を施し、波頂部から弧状の沈線を5条引くものである。

#### 直口の器形を持つもの

第38図-25~29は直口の器形をもつ深鉢である。25は波状口縁をもつもので、口縁部から胸部まで繩文が付されている。口縁部下には沈線が引かれ、波頂部下で緩やかな段差を生じている。26は無文で口縁部に沈線が1条引かれるものである。27は口縁部が外反するもので外面には条痕が付されるものである。28は口縁部に1条の沈線を施し体部に繩文を入れるものである。29は口縁部に1条の沈線を入れその左右に繩文の入るものである。



第38図 第2黑色土層出土繩文土器実測図12 (1 : 3)

第39図-1は波状の口縁部をもつもので口縁部に波頂部で山形となる沈線文と縄文を付するものである。2は口縁部下に帯状の剥離痕のあるもので、口縁部と剥離部より下の部分に縄文が付されている。3は口縁部下に隆帯がめぐるもので、口縁部および隆帯の下に縄文が付されている。4・5は、渦状の粘土帶の張り付けがされるもので、4は波状の口縁を呈する。6は波頂部の下に穿孔がなされ、縦方向に2本の沈線が引かれるものである。7は口縁下に2条の沈線を引きその間に渦文を配するものである。8は刻み目を施す波状の口縁をもつもので、調整は内外面ともにナデである。9~12は口縁下に斜め方向の沈線を施すものである。このうち9は横走する沈線の上下に斜め方向の沈線を施し、12口縁下と以下で沈線の角度の変わるものである。13は平らに整えた口縁部に刻み目を入れるものである。14は口縁下にめぐらした隆帯に刻み目を施すものである。15は外反する口縁部を肥厚させ、複合鋸歯文を施すものである。肩部はナデで仕上げ、穿孔が施されている。16~18は口縁部内面に断面三角形の隆帯をめぐらすもので、18は指頭圧痕が顕著なものである。21は内外面に条痕を施し、隆帯に指頭圧痕をめぐらすものである。23は肩部の破片で、貝殻による圧痕文を施すものである。24は断面三角形の隆帯をめぐらすものである。

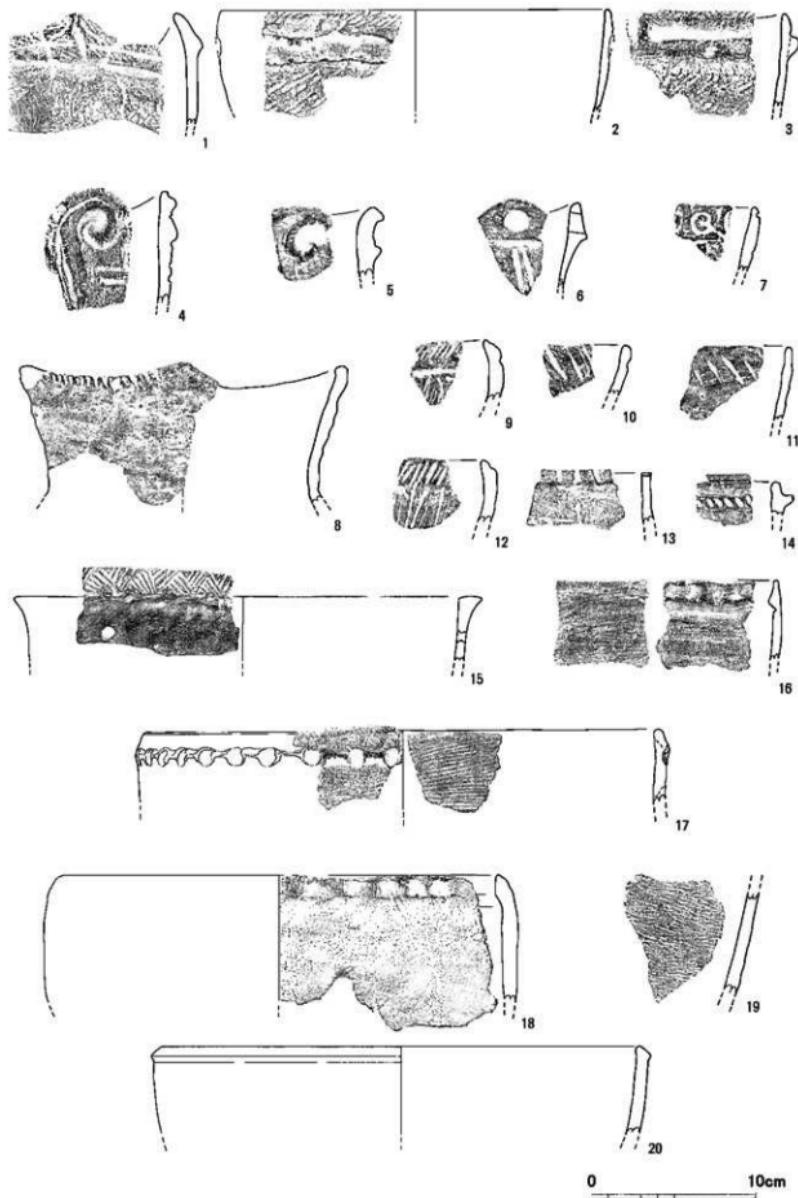
40図-1は口縁部内面に断面三角形の隆帯をめぐらすものである。2はカーブする体部に外反する口縁をもつもので、粗製の浅鉢の可能性がある。3は外反する口縁部に縄文を付するものである。4は口縁部内面に複合鋸歯文を施し、口縁端部に縄文を付するものである。5は薄手のもので外反する口縁をもち、体部に縄文を付すものである。

#### 肩部に文様のあるもの

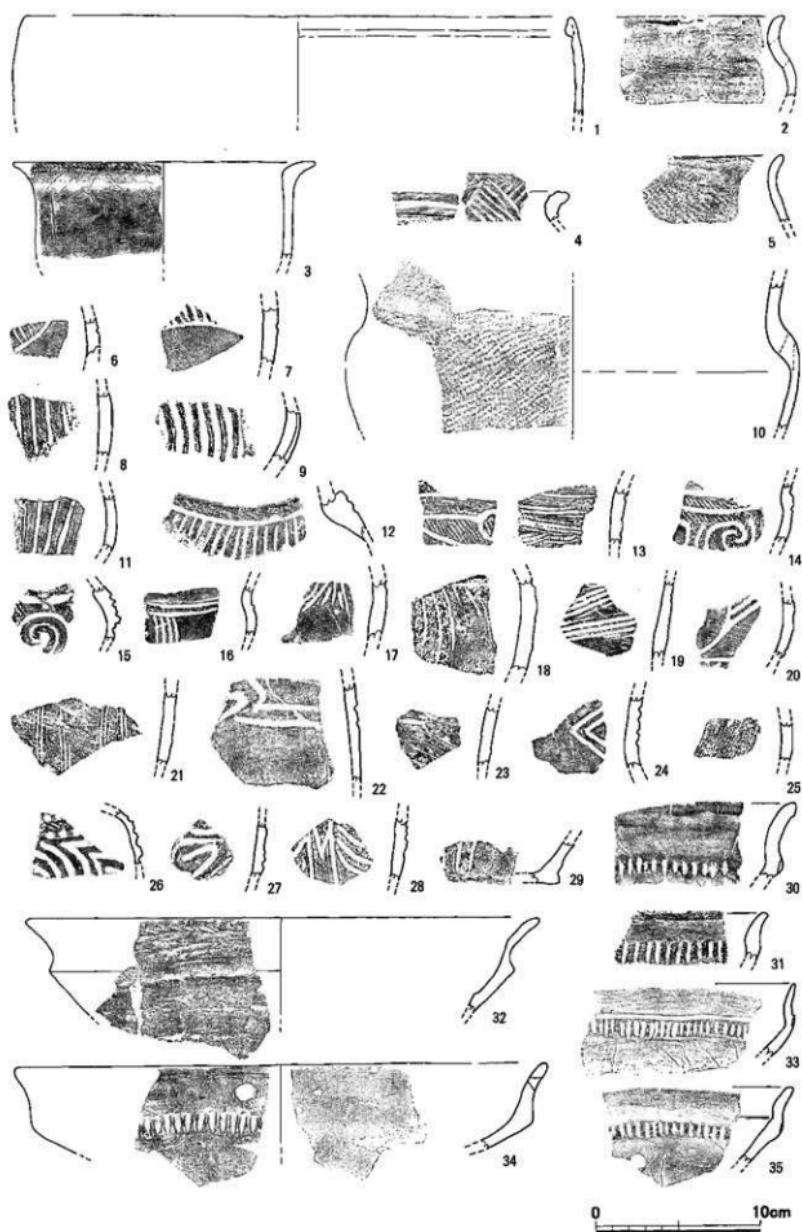
40図-6・7・12は横方向に引かれた湾曲する沈線に縦方向の沈線を組み合わせた文様を付するものである。8・9・11はいずれも器面上に縦方向に併走する深い沈線を入れるものである。10は、肩部の張るタイプの深鉢で体部に縄文が付されている。13~16は磨消縄文をもつものである。13は内面に条痕を付するものである。14・15は沈線下に渦文を配するものである。16は間隔の狭い沈線の間に縄文を配するものである。17・18は比較的難な印象を受ける弧状の沈線を縦方向に入れるものである。19は太めの沈線を3条ずつ斜めに引くものである。20は沈線文を施すものであるが、小片のためどのようなモチーフとなるものは不明である。21は縦方向に2本ずつの沈線をまばらに引くものである。22は横走する沈線に弧状の沈線を組み合わせた文様を施すものである。23は細めの沈線を斜めに引きその上に横走する沈線を引くものである。24は湾曲する体部に菱形の沈線文を施すものである。25は2・3条の単位で沈線を斜めに引くものである。26は沈線および刺突文が施されるものであり、沈線間には一部縄文が付されている。27は沈線で渦文が描かれるものである。28は「M」字状の沈線文の左右に弧状の沈線を配するものである。29は外面に沈線の施される底部の破片である。30~35は体部に段を有する浅鉢である。30・31は段の部分に刻み目を施すものである。32は口縁部に縄文を付するものである。33は段の部分に刻み目を施し、その上に横走する沈線を引くものである。34・35は段の部分に刻み目を配し、穿孔を施すものである。34は口縁下に穿孔を施すもので、35は段の下に穿孔を行い、内面の段の部分に沈線を引くものである。調整はそれぞれ内外面ともにナデを施している。

#### 浅 鉢

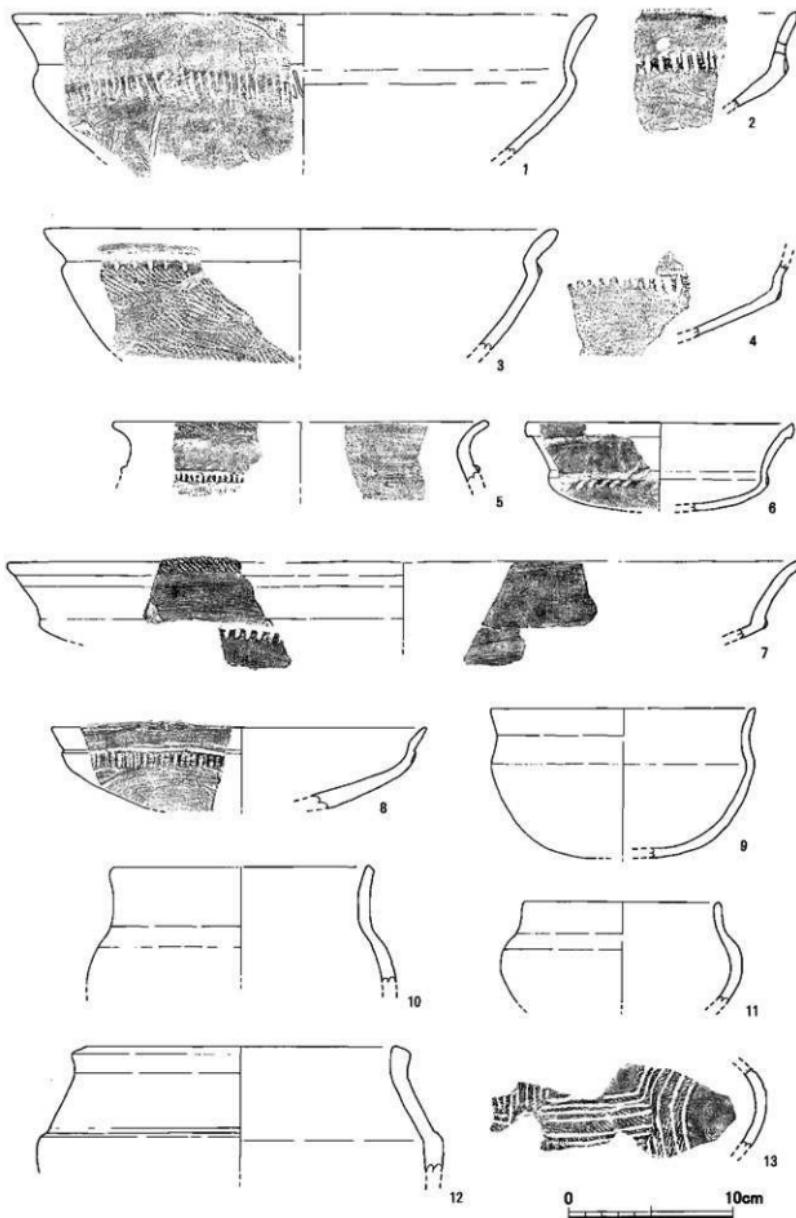
41図-1~8は体部に段を有し、刻み目を入れるものである。1・4・6は無文で段の部分に刻み目を入れるだけのものである。2は口縁と段の間に穿孔を施すものである。3・8は刻み目の上



第39図 第2黒色土層出土縄文土器実測図13 (1 : 3)



第40図 第2黒色土層出土縄文土器実測図14 (1 : 3)



第41図 第2黑色土層出土縄文土器実測図15 (1 : 3)

に沈線を引くものである。5・7は口縁部にのみ繩文を付すものである。3は体部にのみ繩文が施されている。

### 鉢

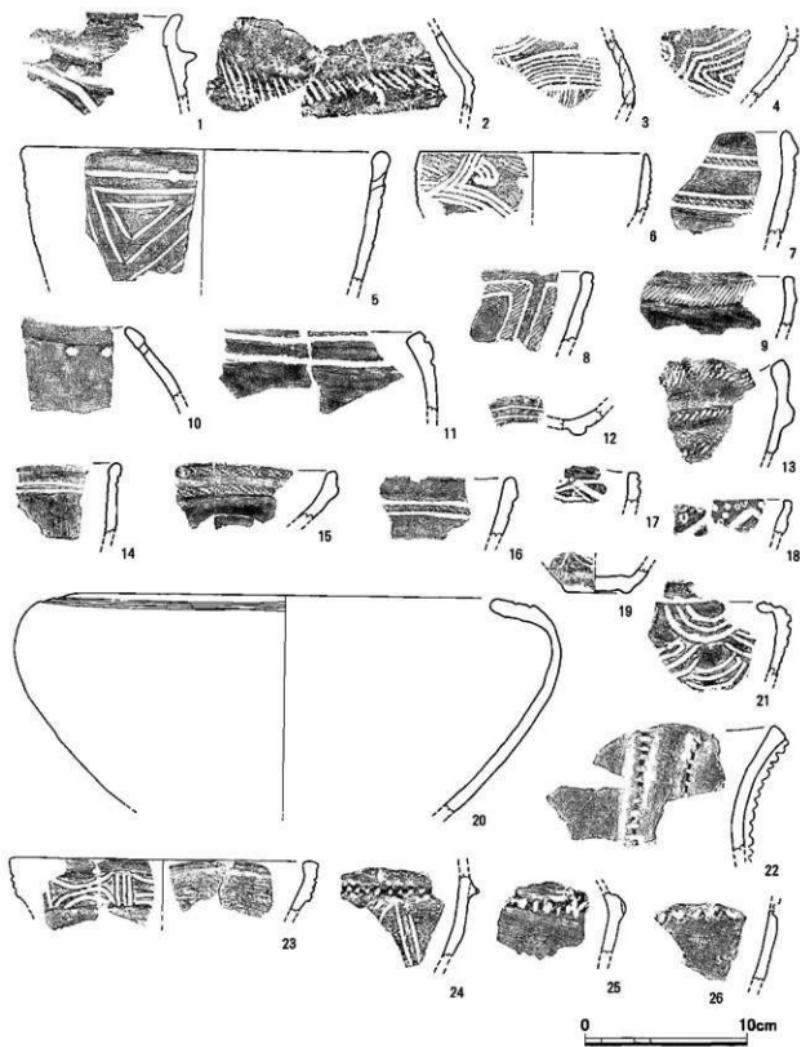
41図-10~13は粗製の鉢である。10・12はわずかに外反する口縁をもつものである。11は口縁部が直立気味に立ち上がるものである。13は細い磨消繩文を胴部に施すもので、体部の湾曲が大きいことから鉢形の器形をとるものと思われる。

### 型式等不明のもの

42図-1は肥厚させた口縁部の下にタガと沈線がめぐるものである。2は体部の屈曲部に斜行する沈線を連続して施すもので、胎土にも比較的大きな石英などを多く含み全体として雑な作りである。3は沈線で入り組み文を描くもので内面は粘土単位のつなぎ目がナデによりつぶれておらずそのまま観察できるものである。4は沈線で5条にわたり重複した区画文を施すものである。5は口径の小さな深鉢と思われ「L」字状および鉤状の沈線文が施されるもので、外面の一部には繩文が付されている。14は口縁部がわずかに肥厚し、2本の沈線間に繩文が付されるものである。外面には全面に赤色顔料が残っている。7は内外面ともにミガキが施されており、沈線で三角形の区画文が引かれ口縁下に穿孔が施されるものである。8は口縁下に磨消繩文で窓格状の区画文を描くものである。9は口縁部下に繩文を付すものである。10は肥厚させた口縁下に穿孔を施すものである。11は厚みのあるもので肥厚させた口縁部に沈線を2条入れるものである。12は外面に2条の沈線を施し、高台状の張り付けをもつ底部の破片である。13は口縁部に兔耳状の突起をもち、その下に粘土帯の張り付けをもちそれぞれに繩文の付されたものである。14は肥厚させた口縁下に2条の沈線がめぐるものである。15は肥厚させた口縁部外面に沈線を引きその上・下に繩文を付すものである。16は肥厚させた口縁下に沈線を2条引きその間に繩文を付すものである。17・18は沈線文および刺突文を施すものである。19は底部の破片で外面に沈線文を引き、上げ底状を呈すものである。20は内傾する口縁部を持ち弧状の沈線を重複させるものである。21は粗製の鉢で口縁部に2条の沈線を引くものである。22は外面に口縁部から垂下する突帯を張り付け刻み目を施すものである。23は口縁部外面の肥厚帯に直線および曲線の沈線を引くものである。24は胴部に孔列文を配した突帯をめぐらし、突帯下より縦方向に沈線を入れるものである。26は口縁部に竹管文を施す破片である。

### 条痕を有する深鉢

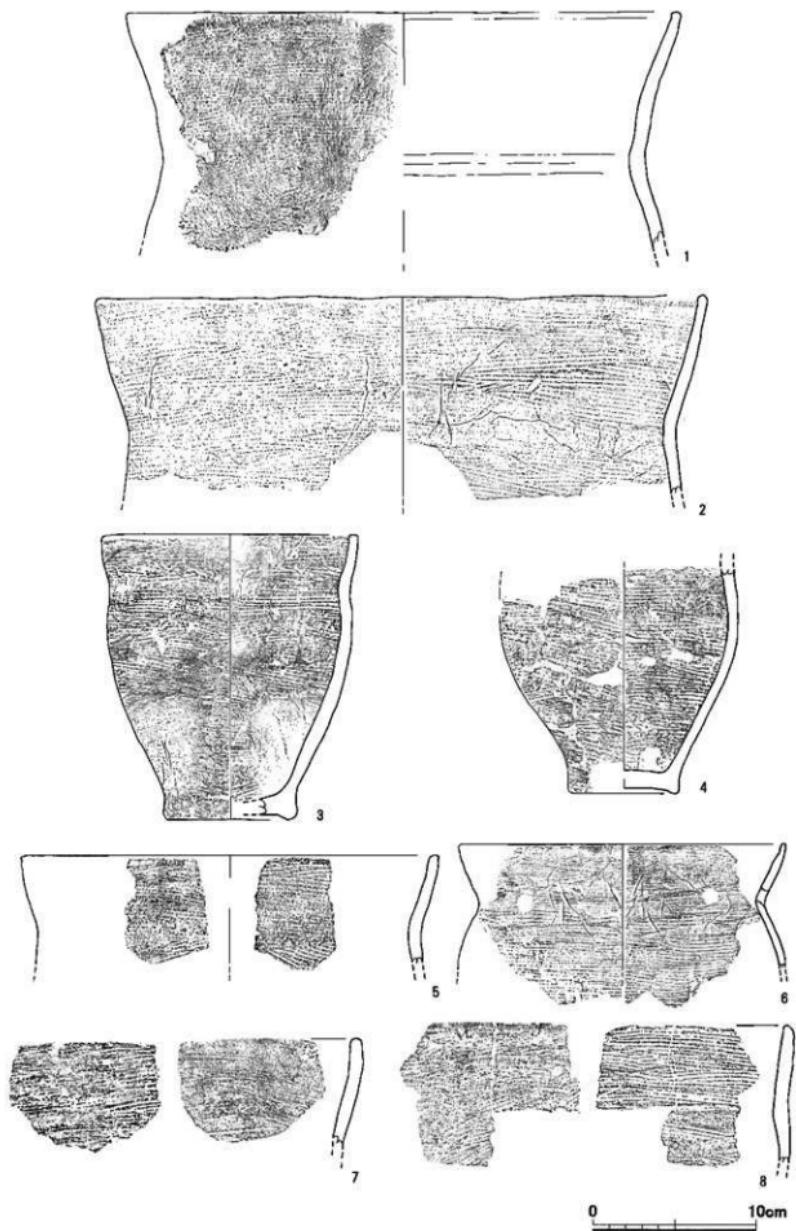
第43~45図は条痕を施す粗製の深鉢である。第43図は口縁の下がくびれる器形のものである。1・2は大型のもので、1は口径33.6cmで、2は36.5cmを測る。3・4は細身の器形を呈するものである。6はくびれた部分に穿孔を施すものである。第42図1・2・6は底部が残存するものである。いずれも上げ底で、1・6は大きく開く体部を持ち、2は細身の器形を持つものである。第42図9・第43図2・6は口径の小さなものである。10は外開きの体部を持つものである。第43図13~17は底部が残存するもので、14は内湾して体部が立ち上がるるものである。13・16は体部が外方に向け直線的に立ち上がるるものである。13は底部が低い上げ底状を呈している。14は低い高台状の底部を持つものである。15は底部の内面が平らなもので外面はわずかに上げ底状を呈している。16は底部が湾曲しながら体部に連結するものである。17は底部は平らで低い高台状の張り付けを有するものである。



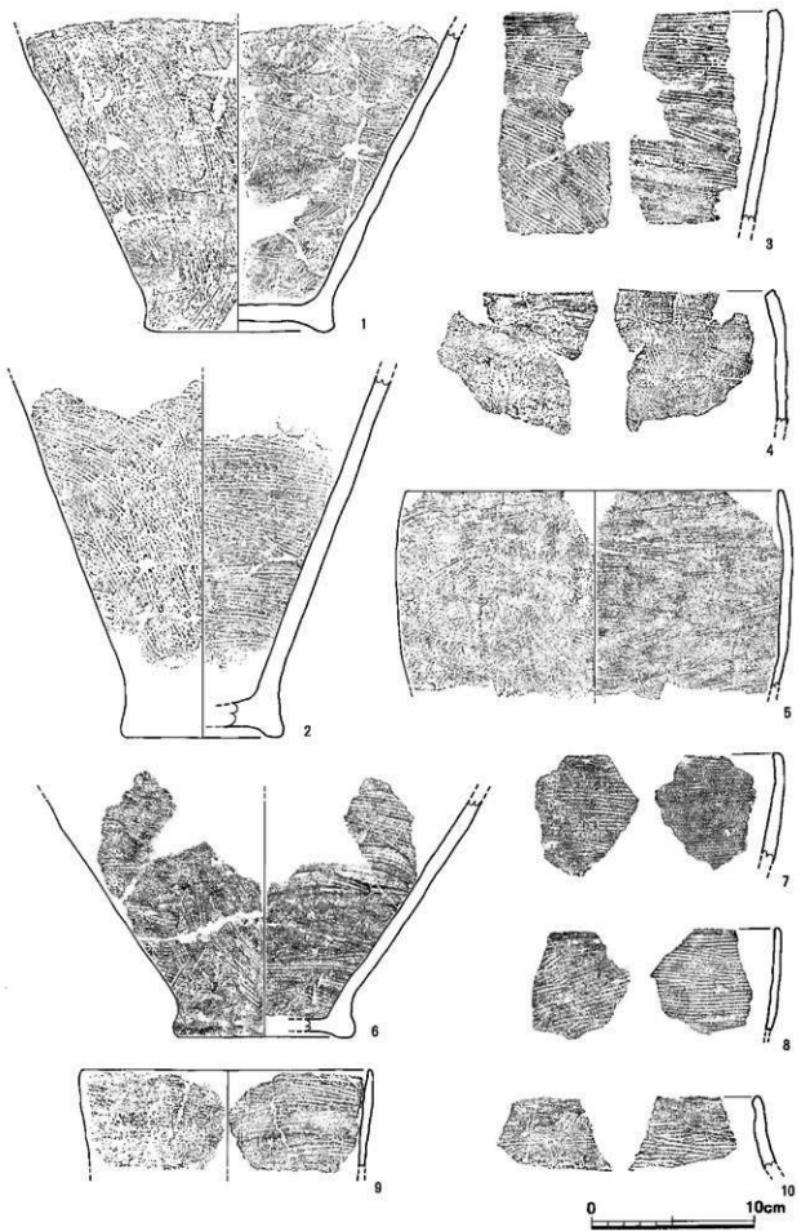
第42図 第2黒色土層出土繩文土器実測図16 (1:3)

#### 無文深鉢

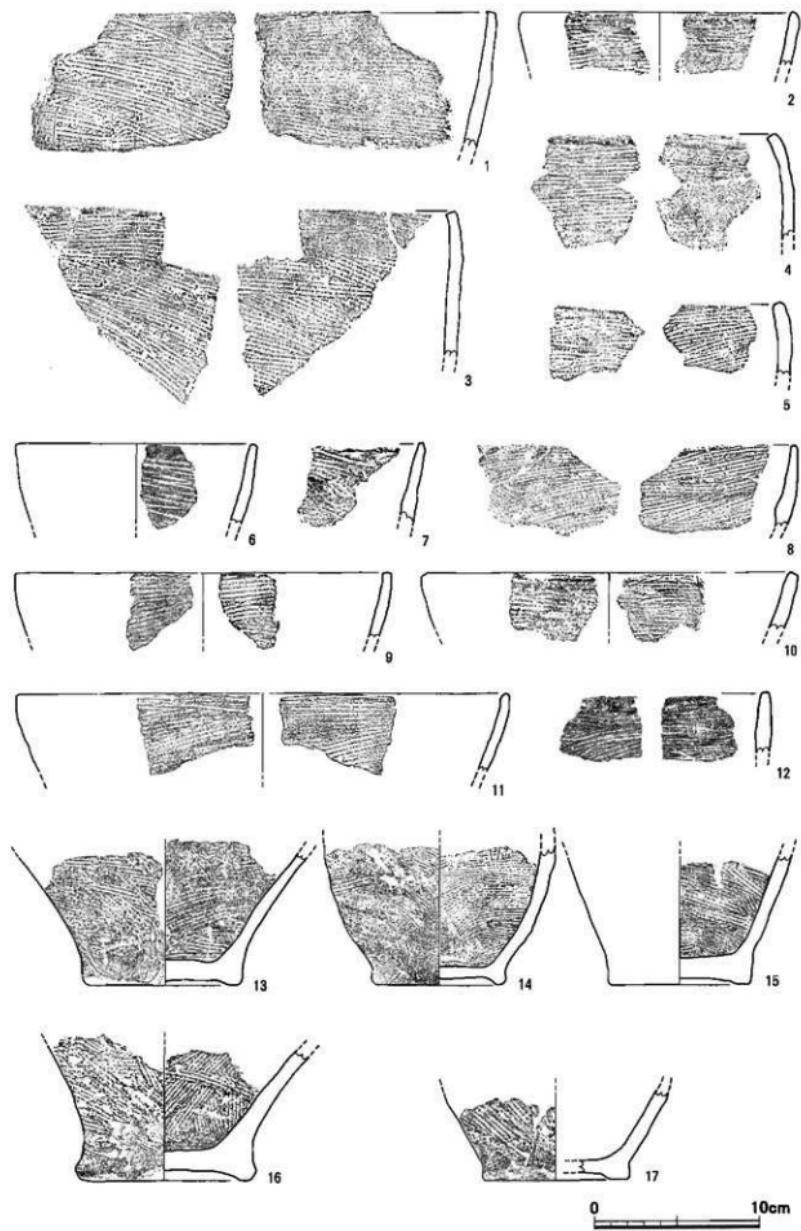
第46・47図は無文の粗製深鉢であり、調整は内外面ともにナデである。第46図4・10・第47図6は比較的口径の小さいものである。10は器壁が厚くナデの粗いものである。第45図9は口縁部下に



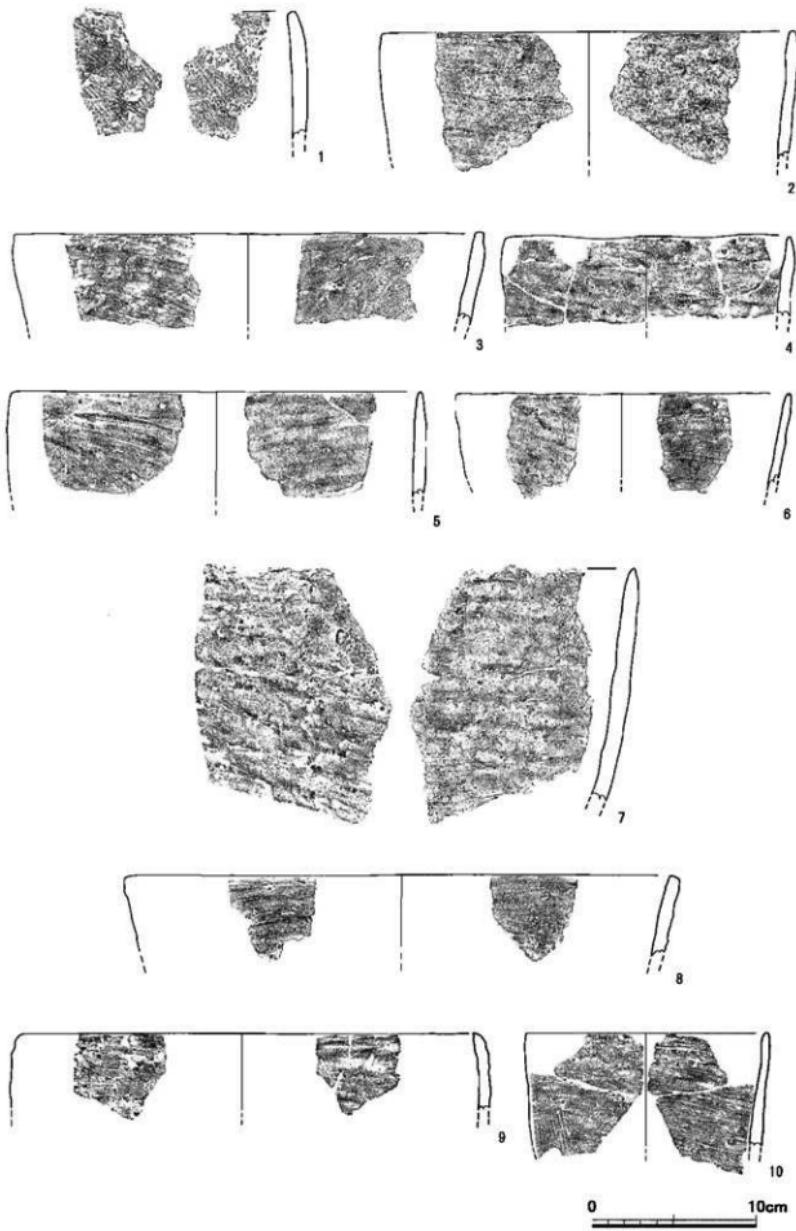
第43図 第2黑色土層出土繩文土器実測図17 (1 : 3)



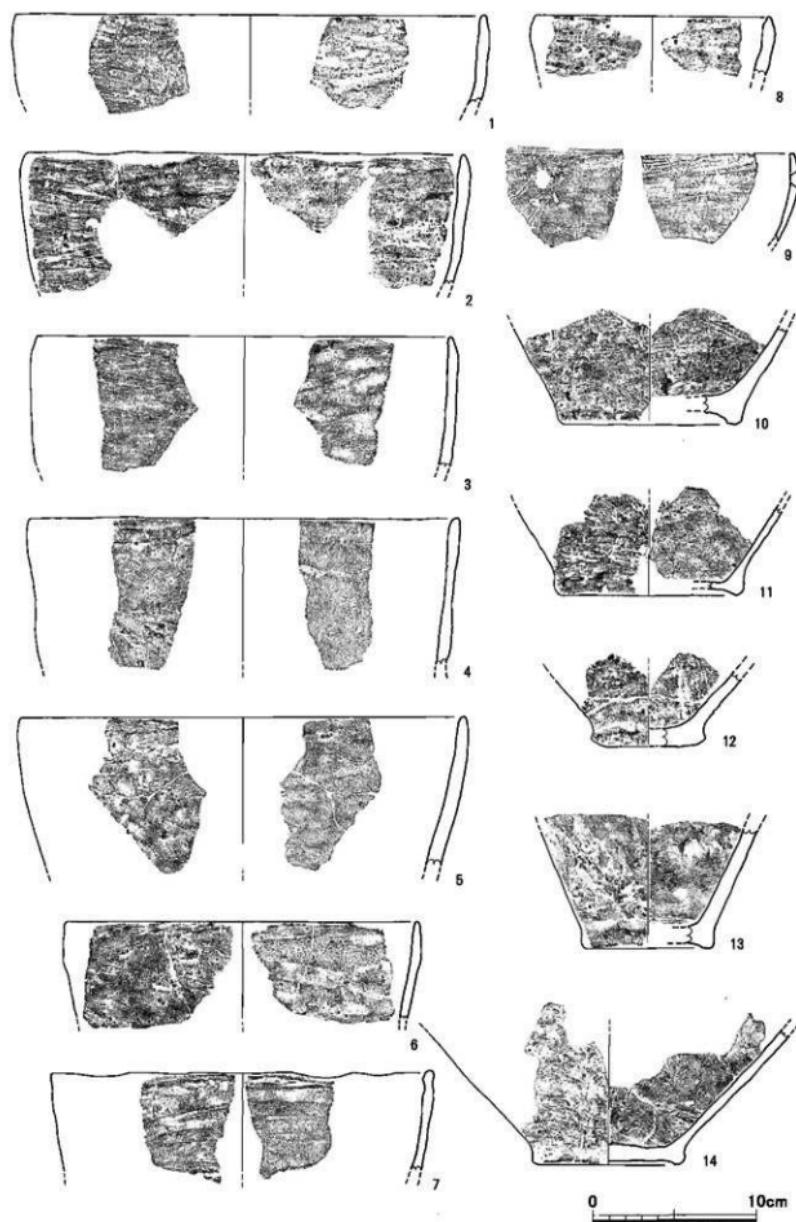
第44図 第2黒色土層出土縄文土器実測図18 (1 : 3)



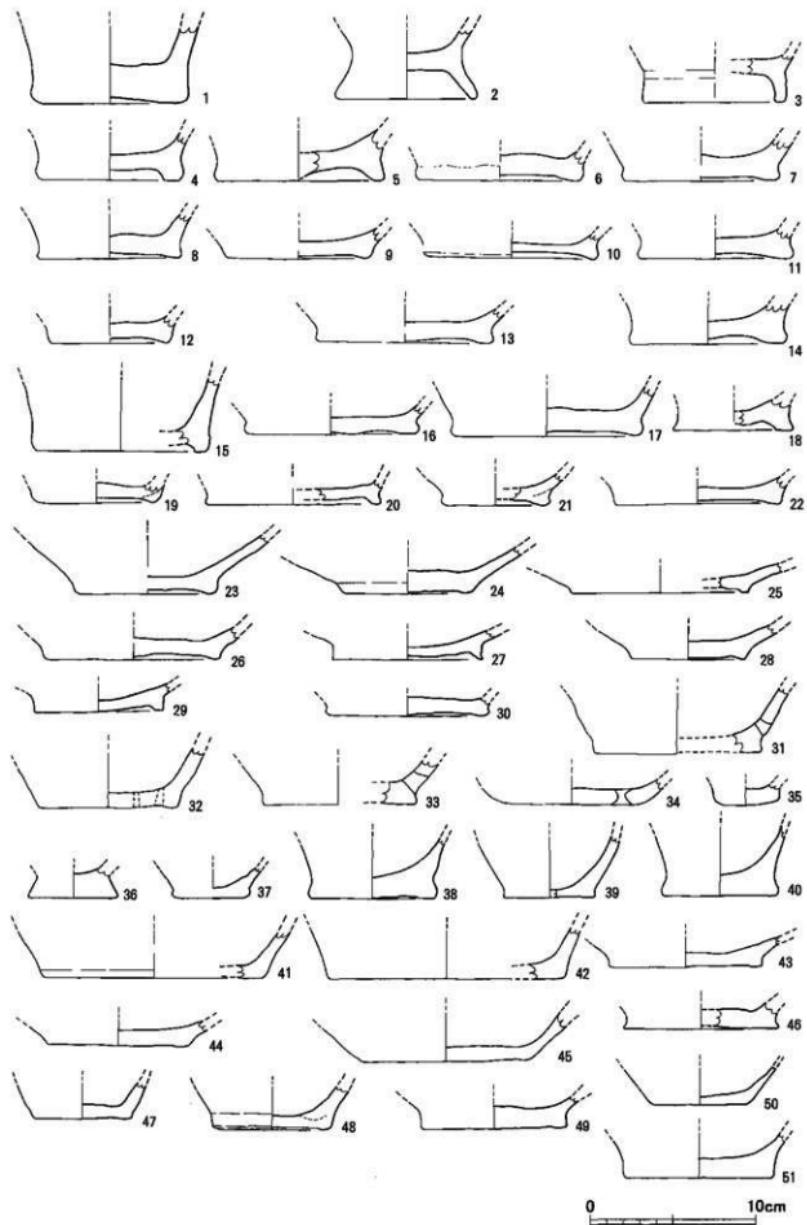
第45図 第2黒色土層出土縄文土器実測図19 (1 : 3)



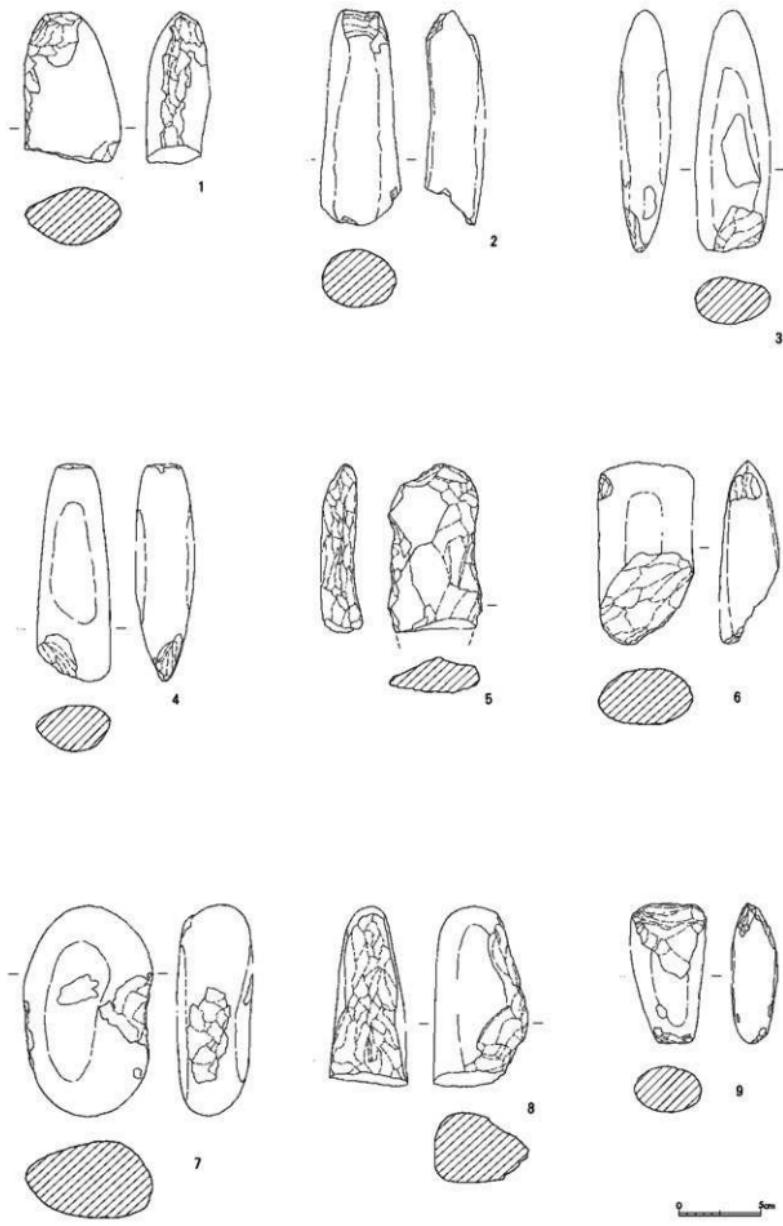
第46図 第2黑色土層出土縄文土器実測図20 (1 : 3)



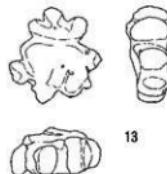
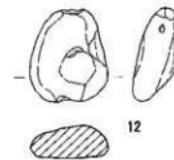
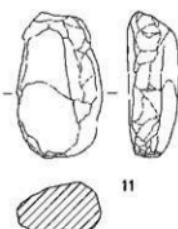
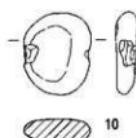
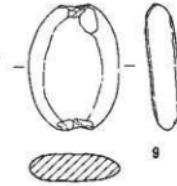
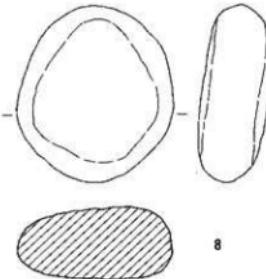
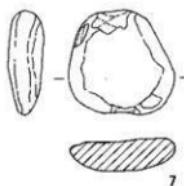
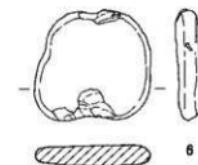
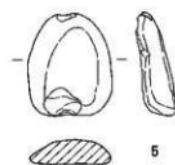
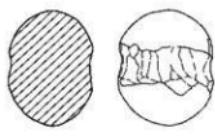
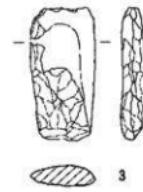
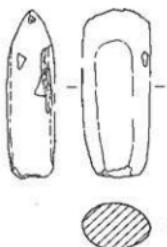
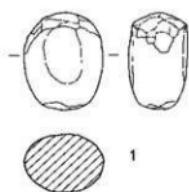
第47図 第2黑色土層出土縄文土器実測図21 (1 : 3)



第48図 第2黒色土層出土繩文土器実測図22 (1 : 3)



第49図 第2黑色土層出土石器実測図1 (1 : 3)



0 5cm

第50図 第2黑色土層出土石器実測図2 (1:3)

穿孔を施すものである。第45図10~14は底部を含む破片である。10・11・13・14は上げ底を呈するもので、13は傾きが比較的小さく、14は大型の破片で外面の調整は粗いナデである。12は平底を呈するものである。

第48図は底部の破片である。1・2は底の比較的厚いもので、ともにゆるい上げ底状を呈するものである。3は内傾する高い高台状を呈するものである。4は直立する高い高台を呈するものである。5・6は低い高台状を呈するものである。7~21は半底となるものである。22~33は済み底を呈するものである。34~56は平底を呈すものである。このうち34・35・36・37は穿孔を施すものである。38・39は台状を呈するものである。49は比較的単底のものである。50は平底で比較的小径のものである。

#### 石器

第2 黒色十層から石鎌 9点、石鍤109点、石斧25点、スクレイバー1点、磨石1点が検出されている。その代表的なものを図化し、他のものは写真及び観察表に示した。

#### 石斧 第49図1~50図3

全体で25点が出土し、このうち12点の実測図を掲載した。このうちほぼ完形のものは49図3・4・9、48図1~3である。このうち49図3は比較的大型のもので長さ15.1cm・幅4.6cm・厚さ2.8cm、重さ313.8gで刃部は片刃である。49図9は小型のもので長さ8.7cm・幅4.7cm・厚さ2.8cm、重さ163.0gで刃部は片刃である。

#### 石鎌 第50図4~7・9~12

全体で108個が出土し、このうち8個の実測図を掲載した。

5~7・9・10・12は扁平な円鎌に2か所の打ち欠きを持つものである。11は不整橢円の鎌の短辺2か所に打ち欠きを有し、長辺の両側にも加工が加えられるものである。4は球状の中央部を帯状に延ませたものである。長さ6.1cm・幅4.8cm・重量92.4gを測る。

#### 石鎌

9点が出土しており、いずれも基部に抉りのある凹基無茎鎌である。石材は、黒曜石製が6点で、安山岩製が3点である。長さは1.3cm~2.1cm、幅は1.1cm~1.5cm、厚みは0.2cm~0.4cm、重さ0.2g~0.6gを測る。

#### 磨石

1点が出土しており長さは11.0cm、幅は9.5cm、厚みは4.5cm、重さ656.9gを測る。角の取れた川原石を利用したもので、形状は楕円形を呈するものである。

#### スクレイバー

1点が出土しており、長さは13.0cm、幅は4.6cm、厚みは1.4cm、重さ34.5gを測る。石材は黒曜石である。

## 第4節 ま と め

今回の貝谷遺跡の調査では、第1黒色土層で土坑11基、古墳時代後期の竪穴住居跡1棟が検出された。調査面積から考えると、検出された遺構・遺物の密度が低いといえる。これは、当遺跡が後世に平坦面上で桑畠の溝によりほとんどの部分が削平されていることに起因していると思われる。

一方、厚み最大1.7mを測る第1ハイカ層の下層に位置する第2黒色土層及び第2ハイカ層上山からは、多量の縄文時代後期の遺物と山陰地方ではまだ検出例の少ない縄文時代の住居跡や土坑墓と思われる土坑などを確認することができた。

このうち後期後半と思われる2号竪穴住居跡では、壁面に沿って礫が並べられた様な状況で検出されており、これらの礫は、住居の壁を構成していた可能性がある。縄文時代の竪穴住居跡の検出例は島根県内では多くないが、同様の構造を取る住居跡は、類例がなく県内の初例となる。

また、縄文時代後期前半の3号竪穴住居跡は出土遺物に『巖形石製品』が含まれている点が注目される。同様の形態をした石製品は類例がなく、用途等も不明としかいいようがないが、その特異な形態から人の姿形を模した『岩偶』ととらえることも可能ではなかろうか。

また、土坑は合計13基検出された。このうち4基はその形態から土坑墓と考えられ、壁際の埋土で礫が検出されているものもあった。これらの礫は、埋葬された遺体の腐敗の結果、墓坑中で検出されたものと理解できる。これらの土坑は、当地方の縄文時代の墓制を考え上で重要な資料となりうるものである。

遺物については、主に第2黒色土層から縄文時代前期から後期中葉にかけての上器を検出した。一瓶山周辺の遺跡の第2黒色土層からはこれまで、前期末から後期中葉までの上器が検出しておらず、貝谷遺跡においてもほぼ同様の出土状況を確認できた。

最後に今回の調査では、第一にこれまで検出例のまれだった縄文時代の竪穴住居跡や土坑墓が複数検出されたこと、第二に多量の縄文土器の検出により、これまでの志津見ダム建設に伴い調査を行われた遺跡から出土した土器資料を補完する成果を得ることができたといえよう。

## 註

- (1) 島根県教育委員会「志津見の民俗」「志津見ダム民俗文化調査報告書」1990
- (2) 島根県教育委員会「板屋Ⅲ遺跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5」1998
- (3) 松井義司「三瓶火川の噴出物とその年代」前掲註(2)に所収
- (4) 須原町誌 地誌・行政 1997
- (5) 須原町教育委員会「五明山遺跡」1991
- (6) 島根県教育委員会「森遺跡・板屋Ⅰ遺跡・森駒山城跡・阿丹谷辻堂跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書1」1994
- (7) 島根県教育委員会「門遺跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書3」1996
- (8) 島根県教育委員会「下山遺跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7」2000
- (9) 深田 浩「島根県須原町下山遺跡出土の箱折像土偶」「考古学雑誌」第81巻第4号 1996
- (10) 島根県教育委員会「神原Ⅰ遺跡・神原Ⅱ遺跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8」2000
- (11) 島根県教育委員会「小丸遺跡」「島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター年報VII」1999
- (12) 島根県教育委員会「中原遺跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6」1999
- (13) 須原町教育委員会「須原町の遺跡 志々地区」1989
- (14) 島根県埋蔵文化財調査センター「かんどの流れ～志津見ダム建設予定地内の遺跡(6)～」2000
- (15) 前掲註(10)に同じ
- (16) 前掲註(6)に同じ
- (17) 須原町教育委員会「弓谷たたら」「志津見ダム関連埋蔵文化財発掘調査報告書」2000
- (18) 島根県教育委員会「戸井谷尻遺跡・長老畠遺跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書9」2001
- (19) 前掲註(18)に同じ
- (20) 島根県教育委員会「横原遺跡・谷川遺跡・殿洲山毛宅前御跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4」1994
- (21) 島根県教育委員会「丸山遺跡・大根新跡」「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書10」2001
- (22) 前掲註(21)に同じ
- (23) 前掲註(17)に同じ
- (24) 前掲註(20)に同じ
- (25) 島根県教育委員会「猪子谷遺跡」「島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター年報VII」1999
- (26) 山土した縄文土器の分類はおもに以下の文献を参考とした  
小学館『縄文土器大観 4』1989  
講談社『縄文土器大成 3』1981  
柳浦俊一「山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の土器編年」「島根考古学会誌第17集」2000

# I. 貝谷遺跡における放射性炭素年代測定

## 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	SI03住居	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.2	SI04住居, 烧土	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析(AMS)法

## 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	曆年代(西暦)	測定No Beta-
No.1	$3710 \pm 50$	-25.0	$3710 \pm 50$	交点: cal BC2125, 2075, 2055 1 $\sigma$ : cal BC2190~2165, BC2150~2025 2 $\sigma$ : cal BC2265~2260, BC2220~1955	138214
No.2	$3580 \pm 60$	-25.4	$3570 \pm 60$	交点: cal BC1910 1 $\sigma$ : cal BC1975~1875 2 $\sigma$ : cal BC2115~2095, BC2040~1745	138215

### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C} / {^{12}\text{C}}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は、5,568年を用いた。

### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C} / {^{12}\text{C}}$ 比を補正するための炭素安定同位体比( $^{13}\text{C} / {^{12}\text{C}}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C} / {^{12}\text{C}}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

### 4) 曆年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を校正することにより算出した年代(西暦)。校正には、年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代

の比較により作成された補正曲線を使用した。最新のデータベース ("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al. 1998, Radiocarbon 40 (3)) により、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、較正<sup>14</sup>C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$  (68%確率)・ $2\sigma$  (95%確率)は、較正<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ の値が表記される場合もある。

## II. 貝谷遺跡における植物珪酸体分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_4$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤から検出する分析であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。

### 2. 試 料

分析試料は、SI03住居から採取された床面直上（試料1）、SI04住居から採取された床面直上（試料3）と焼土（試料5）、北壁地点から採取された第2黒色土層最上部（試料6）の計4点である。

### 3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原, 1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに直径約40μmのガラスピースを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を主な対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース

個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位：10–5 g）をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は 2.94（種実重は 1.03）、ヒエ属（ヒエ）は 8.40、ヨシ属（ヨシ）は 6.31、ススキ属（ススキ）は 1.24、メダケ節は 1.16、ネザサ節 0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は 0.75、ミヤマコザサ節は 0.30 である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

#### 4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表 1 および図 1 に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

##### 〔イネ科〕

ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族 A（チガヤ属など）、モロコシ属型

##### 〔イネ科—タケ亜科〕

クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤマコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤマコザサ節）、未分類等

##### 〔イネ科—その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

##### 〔シダ類〕

#### 5. 考 察

##### (1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で固定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはモロコシ属型が検出された。

モロコシ属型は、SI03住居の床面直上（試料 1）および北壁地点の第 2 黒色土層（試料 6）から検出された。モロコシ属型には、モロコシガヤなどの野生種のほかにモロコシなどの栽培種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別するには至っていない。また、密度も 500~600 個/g と低い値であることから、ここでモロコシ属（モロコシが含まれる）が栽培されていた可能性は考えられるものの、野生種に由来するものである可能性も否定できない。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で固定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畠作物は分析の対象外となっている。

## (2) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

### 1) SI03住居・SI04住居

SI03住居の床面直上（試料1）では、上記以外にも、スキ属型、ウシクサ族A、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。SI04住居の床面直上（試料3）では、クマザサ属型やミヤコザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、スキ属型、ウシクサ族A、シダ類なども検出された。SI04住居の焼土（試料5）では、ヨシ属、ウシクサ族A、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、SI04住居の床面直上（試料3）では、ヨシ属およびクマザサ属型が卓越していることが分かる。

以上のことから、SI03住居およびSI04住居の周辺は、クマザサ属（チシマザサ節やチマキザサ節）などのササ類を主体として、スキ属やチガヤ属なども生育するイネ科植生であったと考えられ、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。チシマザサ節やチマキザサ節は現在でも日本海側の寒冷地などに広く分布しており、積雪に対する適応性が高いとされている（室井、1960）。

クマザサ属は森林の林床でも生育が可能であるが、スキ属やチガヤ属は「当たりの悪い林床では生育が困難である。したがって、当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく、比較的開かれた環境であったと推定される。なお、SI04住居では敷物などとしてヨシ属やササ類が利用されていた可能性を考えられる。

### 2) 北壁地点

第2黒色土層最上部（試料6）では、クマザサ属型が比較的多く検出され、ヨシ属、ミヤコザサ節型なども少量検出された。おもな分類群の推定生産量によると、クマザサ属型が卓越していることが分かる。

以上のことから、当時の遺跡周辺は、クマザサ属（チシマザサ節やチマキザサ節）などのササ類を主体としたイネ科植生であったと考えられ、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。

## 6.まとめ

植物珪酸体分析の結果、SI03住居の床面直上および北壁地点の第2黒色土層からは、少量ながらモロコシ属型が検出され、周辺でモロコシ属（モロコシが含まれる）が生育していた可能性が認められた。

当時の遺跡周辺は、クマザサ属（チシマザサ節やチマキザサ節）などのササ類を主体としてスキ属やチガヤ属なども見られるイネ科植生であったと考えられ、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。

## 文献

杉山真二（1987）タケアシ科植物の機動細胞壁酸体、富士竹類植物園報告、第31号、p.70-83.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213.

- 藤原宏志 (1976) プラント・オペール分析法の基礎的研究 (I) 一致種イネ科栽培植物の胚乳体標本と定量分析法 . 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 室井 緯 (1960) 竹籠の生態を中心とした分布. 富士竹類植物圖報告, 5, p.103-121.

### III. 貝谷遺跡における花粉分析

#### 1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地堆積物を対象として比較的広域な地域の植生や古環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。なお、乾燥的な環境下の堆積物では、花粉などの植物遺体が分解されて残存しないこともある。

#### 2. 試 料

試料は、貝谷遺跡より採取された第2黒色上層上位（試料6）、第2黒色土層中位（試料7）、第2黒色上層下位（試料8）の3点である。

#### 3. 方 法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で疊などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、水酢酸によって脱水し、アセトトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び水酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨ててという操作を3回繰り返して行った。検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。

花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比を行った。結果は同定レベルによって、科、亞科、属、亞属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。なお、科・亞科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面規模・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類している。

が、固体変化や類似種があることからイネ属型とした。

## 4. 結 果

### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉7、草木花粉5、シダ植物胞子1形態の計13である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を記す。

#### 〔樹木花粉〕

マツ属複管束亞属、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科、サワグルミ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亞属、ニレ属—ケヤキ

#### 〔草木花粉〕

イネ科、ナデシコ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

#### 〔シダ植物胞子〕

单条溝胞子

### (2) 花粉群集の特徴

第2黒色土層(試料6～8)からは、サワグルミ、クリ、イネ科、タンポポ亜科などが検出されたが、いずれも少量である。

## 5. 花粉分析から推定される植生と環境

花粉があまり検出されないことから植生や環境の詳細な推定は困難であるが、第2黒色土層の堆積当時は、イネ科やタンポポ亜科などが生育する比較的乾燥した環境であったと考えられ、周辺にはサワグルミやクリなどが生育していたと推定される。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥的な堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

## 文献

中村 純(1973)花粉分析、古今書院、p.82-110

金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原、新編古代の日本第10巻古代資料研究の方法、角川書店、p.248-262.

島貞己二郎(1973)日本植物の花粉形態、大阪市立自然科學博物館収蔵目録第5集、60 p.

中村 純(1980)日本産花粉の標微、大阪自然史博物館収蔵目録第13集、91 p.

中村 純(1977)稲作とイネ花粉、考古学と自然科学、第10号、p.21-30.

第1表 1号住居跡出土土器観察表

調査番号	出土地點	器種	法量(cm) 口径×高さ	調整の特徴			色調		備考
				外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	
5-1	SI02	土師器	21.0 23.2	ナデ	—	ナデ、ケズリ	灰黄色	淡灰黄色	外側に焼付着
5-2	SI02	土師器	15.4	ナデ	—	ナデ、ケズリ	明黄褐色	明黄褐色	内外面に焼付着
5-3	SI02	土師器	18.0	ナデ	—	ナデ	灰黄色	明黄褐色	内外面に焼付着
5-4	SI02	土師器	27.2	ナデ	—	ナデ	淡黄灰色	淡黄褐色	外側に焼付着
5-5	SI02	土師器	11.8	ナデ	—	ナデ、ケズリ	紫褐色	紫褐色	口沿部に焼付着
5-6	SI02	土師器	27.0	ナデ	—	ナデ、ケズリ	明黄褐色	明黄褐色	—
5-7	SI02	土師器	21.0	ナデ	—	ナデ、ケズリ	黄褐色	黄褐色	—
5-8	SI02	土師器	5.2 4.5	ナデ	—	ナデ	黄褐色	黄褐色	外側に焼付着
5-9	SI02	須恵器	12.7 4.1	ナデ	—	ナデ	青灰色	青灰色	—

第2表 第1黑色土層 出土土器観察表

調査番号	出土地點	器種	法量(cm) 口径×高さ	調整の特徴			色調		備考
				外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	
10-1	—	弥生	21.4	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-2	—	弥生	19.8	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-3	—	弥生	21.0	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-4	—	弥生	22.2	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-5	—	弥生	17.9	ナデ	—	ナデ	淡黄色	火褐色	—
10-6	—	弥生	17.6	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-7	—	弥生	14.8	ナデ	—	ナデ、ハケメ	淡黄色	淡黄色	—
10-8	—	弥生	—	ナデ、横縞文	ミガキ、ケズリ	—	暗褐色	暗褐色	—
10-9	—	弥生	—	ナデ	—	ナデ、ハケメ	明黄灰色	明黄灰色	外側に焼付着
10-10	—	弥生	14.8	ナデ、ハケメ	—	ナデ、ケズリ	黄灰色	黄灰色	外側に焼付着
10-11	—	弥生	21.0	ナデ	—	ナデ、ケズリ	淡黄色	淡黄色	—
10-12	—	弥生	27.6	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-13	—	弥生	16.6	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-14	—	弥生	23.8	横縞文、ナデ	—	—	暗褐色	暗褐色	—
10-15	—	弥生	—	ナデ	—	ナデ、ケズリ	淡黄色	淡黄色	—
10-16	—	弥生	—	ナデ	—	ナデ、ケズリ	淡黄色	淡黄色	外側に焼付着
10-17	—	弥生	13.4	ナデ、ケズリ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-18	—	弥生	—	横縞文、波状文	ケズリ	—	黄灰色	明褐灰色	—
10-19	—	弥生	15.0	ナデ	—	ナデ、ケズリ	黄灰色	黄灰色	—
10-20	—	弥生	—	ナデ	—	ナデ	黄灰色	黄灰色	—
10-21	—	弥生	—	ナデのち施文	ナデ	—	淡黄褐色	明黄褐色	—
10-22	—	弥生	8.3	ナデのち施文	ナデ、ケズリ	—	黄褐色	黄褐色	—
10-23	—	弥生	—	ナデ、キザミ	ナデ	—	淡黄色	淡黄色	—
10-24	—	弥生	—	ハケメ、施文	ハケメ	—	黄褐色	黄褐色	—
10-25	—	弥生	—	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
10-26	—	弥生	—	ナデ、ミガキ	ナデ	—	淡黄褐色	淡黄褐色	—
11-1	—	深鉢	—	沈縞文、縞文、ナデ	ナデ	—	暗褐色	暗褐色	—
11-2	—	深鉢	—	空窓、縞文、ナデ	ナデ	—	黄褐色	火褐色	—
11-3	—	深鉢	—	沈縞文、画文、ナデ	ナデ	—	黄褐色	暗褐色	—
11-4	—	深鉢	—	ケズリ	ナデ	—	黄褐色	暗褐色	口縁附近に焼付着
11-5	—	深鉢	—	ナデ、沈縞文	ナデ、ケズリ	—	暗褐色	暗褐色	—
11-6	—	深鉢	—	ケズリ	ナデ	—	黄褐色	暗褐色	—
11-7	—	深鉢	—	美術文、ナデ	ナデ	—	灰褐色	灰褐色	—
11-8	—	深鉢	—	空窓文、ナデ	ナデ	—	暗褐色	黄褐色	—
11-9	—	深鉢	—	空窓文、ナデ	ナデ	—	淡黄灰色	明黄褐色	—
11-10	—	深鉢	—	空窓文、ナデ	ナデ	—	暗褐色	明褐色	—
11-11	—	深鉢	—	ナデ	ミガキ	—	暗褐色	暗褐色	—
11-12	—	深鉢	—	ミガキ	ミガキ	—	灰褐色	灰褐色	—
11-13	—	深鉢	15.6	ナデ	—	ナデ	黄褐色	黄褐色	—
11-14	—	深鉢	21.7	—	ナデ、ケズリ	—	黄褐色	黄褐色	外側に焼付着
11-15	—	深鉢	24.6	ナデ	—	ナデ	暗褐色	暗褐色	—
11-16	—	深鉢	—	ナデ	—	ナデ	淡黄色	淡黄色	—
11-17	—	深鉢	32.2	粗いナデ	ナデ	—	黄褐色	黄褐色	内外面に焼付着
11-18	—	深鉢	—	ナデ	ナデ	—	淡黄色	淡黄色	—
11-19	—	深鉢	—	縞文、ナデ、キザミ	ナデ	—	暗黄褐色	暗黄褐色	—
11-20	—	深鉢	24.2	ナデ	ナデ	—	黄褐色	黄褐色	—
11-21	—	双耳壺	—	ケズリ状の剥離痕	—	—	赤褐色	赤褐色	—
11-22	—	深鉢	—	—	—	—	明灰黄色	明黄褐色	—
11-23	—	深鉢	—	ナデ	ナデ	—	淡黄色	淡黄色	—
11-24	—	深鉢	—	ナデ	ナデ	—	暗褐色	暗褐色	—
11-25	—	深鉢	—	ナデ	ナデ	—	黄褐色	黄褐色	—
11-26	—	深鉢	—	ナデ	ナデ	—	明褐色	淡黄色	—

第3表 2号住居跡出土遺物観察表

調査番号	出土遺物	器種	法量(cm) 口径×高さ	調整の特徴			色調		備考
				外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	
14-1	SI04	深鉢	—	沈縞文、キザミ、ナデ	ナデ	—	暗灰黄色	灰褐色	内外面に焼付着

測定番号	出土地点	器種	法量(cm)	調査の特徴		色調		備考	
				口径	高さ	外面	内面		
14-2	S104	浅鉢		キザミ、ミガキ	ミガキ	オリーブ黒色	オリーブ黒色		
14-3	S104	浅鉢		圓文、沈底	ナデ	濃灰黄色	淡灰黄色		
14-4	S104	双耳壺		勝沼繩文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい橙色		
14-5	S104	深鉢		圓文、沈底、ミガキ	ミガキ	濃灰黄色	黑褐色		
14-6	S104	浅鉢		圓文、ミガキ	ミガキ	灰或褐色	灰黄褐色		
14-7	S104	深鉢		施文、ナデ	粗いナデ	明褐色	灰褐色		
14-8	S104	深鉢		キザミ、ナデ	キザミ、ナデ	暗黃褐色	黑褐色		
14-9	S104	浅鉢		丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰褐色	灰褐色		
14-10	S104	深鉢		ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	内面に煤付着	
14-11	S104	深鉢		ナデ	ナデ	明褐色	明褐色		
14-12	S104	浅鉢	20.7	9.7	ミガキ、ナデ	ミガキ	灰黄褐色	灰黄褐色	内外面に煤付着
14-13	S104	深鉢	11.3		ナデ	ナデ	明褐色	黑褐色	
14-14	S104	浅鉢		ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐色	黑褐色		
14-15	S104	深鉢		ナデ	ナデ	指頭压痕	暗黃褐色	外面上に煤付着	
14-16	S104	深鉢		粗いミガキ	粗いミガキ	暗灰褐色	明黃褐色	外面上に煤付着	
14-17	S104	深鉢		ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	内面に煤付着	
15-1	S104	深鉢	10.7		ナデ	ナデ	黑褐色	にぶい黄褐色	外面上に煤付着
15-2	S104	深鉢	19.9		ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	外面上に煤付着
15-3	S104	深鉢	17.0		ナデ	ナデ	明黃褐色	明黃褐色	外面上に煤付着
15-4	S104	深鉢		ナデ	ナデ	褐色～黄褐色	黄褐色		
15-5	S104	深鉢		ナデ	ナデ	灰色	淡黄色		
15-6	S104	深鉢		ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色		
15-7	S104	深鉢		指頭压痕	ナデ	明赤褐色	明赤褐色		
15-8	S104	深鉢			ナデ	淡黃褐色	淡黃褐色		
15-9	S104	深鉢			ナデ	灰黄色	淡黄色		
測定番号	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考		
49-1	S104	磨製石斧	9.4	5.9	3.5	289.8	写真図版 43		
49-2	S104	磨製石斧	13.3	4.5	4.5	346.2	写真図版 43		
50-5	S104	石錐	6.5	—	5.1	90.9	写真図版 44		

第4表 3号住居跡出土遺物観察表

測定番号	出土地点	器種	法量(cm)	調査の特徴		色調		備考
				口径	高さ	外 面	内 面	
20-1	S103	深鉢		圓文、沈底、ナデ	ナデ	黒褐色	濃灰黄色	外面上に煤付着
20-2	S103	深鉢		圓文	ミガキ	暗黃褐色	暗黃褐色	内外面に煤付着
20-3	S103	深鉢		圓文、沈底、ナデ	ミガキ	にぶい褐色	濃褐色	内外面に煤付着
20-4	S103	深鉢		ナデ	条状、指頭压痕	灰黄色	灰褐色	内外面に煤付着
20-5	S103	深鉢		ミガキ	ミガキ	にぶい橙色	暗灰褐色	外面上に煤付着
20-6	S103	深鉢		ナデ	指頭压痕	暗黃褐色	暗赤褐色	内外面に煤付着
20-7	S103	深鉢		ナデ	指頭压痕	暗褐色	暗褐色	外面上に煤付着
20-8	S103	深鉢		ナデ	—	灰黄色	暗灰黄色	外面上に煤付着
20-9	S103	深鉢		ナデ、ケズリ	ナデ、指頭压痕	明赤褐色	灰黄褐色	
20-10	S103	深鉢	16.8	粗いナデ	ナデ、ケズリ	暗黃褐色	明黃褐色	外面上に煤付着
20-11	S103	深鉢		ナデ	指頭压痕	灰黄褐色	灰褐色	内外面に煤付着
20-12	S103	深鉢		ナデ	指頭压痕	黃褐色	黃褐色	
20-13	S103	深鉢		ナデ	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	内外面に煤付着
20-14	S103	深鉢		ナデ	ナデ	淡黄色	灰白色	
20-15	S103	浅鉢	34.0	圓文、ナデ、キザミ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面上に煤付着
測定番号	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	
50-13	S103	刃形石製品	5.9	5.6	2.8	91.1	砂岩(?)	写真図版 25

第5表 第2黑色土層 出土土器観察表

測定番号	出土地点	器種	法量(cm)	調査の特徴		色調		備考
				口径	高さ	外 面	内 面	
27-1	C-6	深鉢		刺突文		灰黄褐色	褐灰色	
27-2	C-5	深鉢		刺突文、沈底文(?)	条痕、ケズリ	灰黄褐色	暗灰黄色	
27-3	A-3	深鉢		突起文、ナデ	ナデ	灰黄色	暗灰黄色	外面上に煤付着
27-4	C-7	深鉢		骨背文	ケズリ	褐色	灰褐色	
27-5	C-6	深鉢		爪型文、ナデ	ケズリ	灰褐色	暗灰黄色	
27-6	C-7	深鉢		爪型文	ケズリ	灰黄褐色	暗灰黄色	
27-7	D-6	深鉢		爪型文	ケズリ	灰褐色	暗灰黄色	内面上に煤付着
27-8	C-6	深鉢		竹管文、ナデ	ケズリ	暗灰褐色	灰褐色	外面上に煤付着
27-9	E-5	深鉢		押突文、ナデ	ナデ	灰黄褐色	灰褐色	
27-10	B-6	深鉢		庄板文	ケズリ	灰黄褐色	暗灰黄色	
27-11	A-3	深鉢		沈底、横方向の調整	条痕	灰白色	灰白色	
27-12	C-5	深鉢		沈底、圓文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
27-13	A-4	深鉢		沈底、ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	外面上に煤付着
27-14	A-3	深鉢		条痕、ナデ	条痕、ナデ	明褐色	灰褐色	
27-15	E-7	深鉢		沈底、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
27-16	A-4	深鉢		圓文、沈底	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	
27-17	A-5	深鉢		沈底、ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	

説明番号	上地名	岩種	法量(cm) 口径 厚さ	調査の特徴				色調 指標
				外面	内面	外面	内面	
27 18	D 6	深鉢		沈端、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄褐色	
27 19	C 6	深鉢		条痕、沈縫	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
27 20	A 4	深鉢		縞文、沈縫	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	
27 21	C 5	深鉢		縞文、沈縫	条痕	にぶい黄褐色	褐灰色	
27 22	A 4	深鉢		条痕、沈縫	条痕	淡黄色	淡黄色	
27 23	B - 6	深鉢		縞文、沈縫	条痕	淡黄色	淡黄色	
27 24	D - 6	深鉢		縞文、沈縫	条痕	灰青褐色	灰青褐色	
27 25	C - 7	深鉢		縞文	縞文	にぶい黄褐色	褐灰色	
27 26	C - 5	深鉢		縞文、沈縫	ナデ	褐灰色	褐灰色	
27 27	B - 7	浅鉢		縞文、沈縫	条痕	にぶい黄褐色	稍色	外面に煤付着
27 28	A - 3	深鉢		縞文、沈縫	条痕	淡黄色	淡黄色	
27 29 <sup>1</sup>	A - 5	深鉢		縞文、沈縫	ナデ	黄褐色	黄褐色	
27 30	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ミガキ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
27 31	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
28 - 1	C - 5	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	褐色	褐色	
28 - 2	A - 3	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	にぶい黄褐色	灰褐色	
28 - 3	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	暗黃褐色	暗黃褐色	
28 - 4	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
28 - 5	C - 5	浅鉢		縞文、沈縫	ナデ	淡黄色	淡黄色	
28 - 6	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	暗灰黃褐色	灰黃褐色	
28 - 7	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	灰褐色	褐色	
28 - 8	C 5	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	褐色	褐色	
28 - 9	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕、ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
28 - 10	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	暗褐色褐色	暗褐色褐色	外面に煤付着
28 - 11	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	灰褐色	灰褐色	
28 - 12	A - 3	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	にぶい黄褐色	褐褐色	
28 - 13	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
28 - 14	A - 3	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	灰黄色	暗黑褐色	
28 - 15	C - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	赤灰色	にぶい黄褐色	
29 - 1	C - 5	深鉢		比縫、条痕、ナデ	条痕	褐色	暗黃褐色	
29 - 2	A - 3	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	淡黄色	淡黄色	
29 - 3	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、条痕	条痕	明赤褐色	明赤褐色	
29 - 4	A - 4	深鉢		縞文、沈縫	ナデ	灰褐色	褐色	
29 - 5	C - 5	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	灰褐色	从黄色	
29 - 6	A - 3	深鉢		縞文、沈縫	ナデ	淡黄色	淡黄色	
29 - 7	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	にぶい黄褐色	黄褐色	
29 - 8	B - 7	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	灰黃褐色	褐褐色	
29 - 9	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	暗褐色	皮褐色	
29 - 10	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、条痕	条痕	暗灰褐色	灰褐色	
29 - 11	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	暗褐色	暗褐色	
29 - 12	D - 7	深鉢		縞文、沈縫	条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に煤付着
29 - 13	B - 6	深鉢		縞文、沈縫	条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に煤付着
29 - 14	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、条痕	条痕	にぶい褐色	にぶい褐色	
29 - 15	A 3	深鉢		縞文、条痕	条痕	褐色	にぶい黄褐色	外間に煤付着
29 - 16	A - 5	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	灰褐色	黄褐色	
29 - 17	C - 7	深鉢		縞文、沈縫	条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
29 - 18	C - 6	深鉢		沈端、ナデ	条痕	にぶい褐色	黄褐色	
29 - 19	B - 3	深鉢		縞文、沈縫	条痕	にぶい褐色	赤褐色	
30 -	A - 4	浅鉢	11.4 9.3	縞消開文	ナデ	黄褐色	褐色	内外面に煤付着
31 - 1	A - 4	深鉢		縞消開文	ナデ	灰黃褐色	黑褐色	
31 - 2	A - 5	深鉢		条痕、沈縫	条痕	暗黑褐色	暗黑褐色	
31 - 3	D - 6	深鉢		条痕、沈縫	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	
31 - 4	A - 4	深鉢		沈端、ナデ	ナデ	にぶい褐色	淡黃褐色	
31 - 5	C - 4	深鉢		沈端、細かい調整痕	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	
31 - 6	A - 4	深鉢		磨消開文	ナデ	灰黃褐色	黑褐色	
31 - 7	A - 5	深鉢		磨消開文	ナデ	にぶい黄褐色	黑褐色	
31 - 8	A - 4	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
31 - 9	A - 4	深鉢		縞文、沈縫	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	
31 - 10	A - 4	深鉢		縞文、沈縫	ナデ	灰褐色	褐灰色	
31 - 11	A - 4	深鉢		縞文、沈縫	条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
31 - 12	A - 3	深鉢		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
31 - 13	A - 4	深鉢		磨消開文、孔列	ナデ	黄褐色	黑褐色	
31 - 14	A - 5	深鉢		磨消開文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
31 - 15	A - 4	深鉢		磨消開文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
31 - 16	A - 4	深鉢		磨消開文、ナデ	ナデ	褐色	灰黃褐色	
31 - 17	A - 4	浅鉢(?)		磨消開文	ナデ	褐色	褐色	
31 - 18	C - 7	浅鉢(?)		磨消開文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
31 - 19	A - 3	浅鉢(?)		磨消開文	ナデ	灰褐色	灰褐色	
31 - 20	A - 4	浅鉢(?)		縞文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
31 - 21	A - 3	浅鉢(?)		縞文、沈縫	ナデ	明赤色	暗褐色	
31 - 22	C 5	處端(?)		縞文、沈縫、ナデ	ナデ	褐灰色	にぶい黄褐色	

井岡番号	出土地点	器種	法量(cm)	調査の特徴				備考
				外面	内面	外面	内面	
31-23	D-6	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	にぶい黄褐色	淡黄色	
31-24	C-5	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	明黄褐色	暗黄褐色	
31-25	A-5	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	褐色	褐色	
31-26	A-3	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
31-27	A-3	浅鉢(?)		沈鉢、ナデ	ナデ	褐色	灰黄褐色	
31-28	A-4	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
31-29	A-3	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	褐色	褐色	
31-30	A-3	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	黄灰色	黄灰色	
31-31	A-4	浅鉢(?)		沈鉢、ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい褐色	
31-32	A-4	浅鉢(?)		磨消鑑文	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	
32-1	A-4	浅鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	外面に煤付有
32-2	C-5	浅鉢		磨消鑑文	ミガキ	灰黄褐色	灰黄褐色	
32-3	A-4	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	褐色	暗黄色	
32-4	C-7	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	浅黄色	浅黄色	
32-5	C-5	浅鉢		庄原、沈線、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黑褐色	
32-6	[A-6]	浅鉢		指端压痕、沈線、鑑文	ナデ	黄灰色	黄灰色	
32-7	A-4	浅鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
32-8	A-5	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
32-9	A-4	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	黑褐色	にぶい褐色	
32-10	C-6	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	灰褐色	灰褐色	
32-11	C-1	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
32-12	C-7	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい黄褐色	灰色	
32-13	A-5	深鉢		磨消鑑文	柔膜	灰黄褐色	暗灰色	
32-14	A-4	深鉢		磨消鑑文	ナデ	淡褐色	淡褐色	
32-15	A-4	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	明灰色	黑灰色	
32-16	A-4	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
32-17	C-6	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	浅黄色	灰褐色	
32-18	A-4	深鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
32-19	C-6	深鉢		磨消鑑文	柔膜	にぶい褐色	にぶい褐色	
32-20	A-5	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	黄灰色	黑灰色	
32-21	A-4	深鉢		磨消鑑文	ケズリ	にぶい褐色	灰黄褐色	外面に煤付有
32-22	A-5	深鉢		磨消鑑文	ナデ	淡黄色	暗褐色	
32-23	A-4	深鉢		磨消鑑文	ナデ	褐色	にぶい褐色	内面に煤付有
32-24	A-3	深鉢		磨消鑑文	ナデ	淡褐色	暗灰色	
32-25	A-4	深鉢		磨消鑑文	ミガキ	黑褐色	にぶい褐色	
32-26	D-7	深鉢		磨消鑑文	ナデ	褐色	褐色	
32-27	D-5	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	外面に煤付有
32-28	A-4	深鉢		磨消鑑文	ミガキ	にぶい褐色	にぶい褐色	
32-29	A-4	深鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
32-30	A-5	浅鉢		磨消鑑文	ミガキ	灰黄褐色	灰黄褐色	
32-31	A-3	浅鉢		磨消鑑文	ミガキ、ナデ	黑灰色	灰褐色	
32-32	A-4	浅鉢		磨消鑑文	ミガキ	暗灰色	暗灰色	
33-1	A-4	浅鉢	20.4	酸消鑑文	ミガキ	明褐色	暗褐色	
33-2	A-4	浅鉢		磨消鑑文	ミガキ	淡黄色	灰褐色	
33-3	S-4	浅鉢	21.4	磨消鑑文	ミガキ	灰褐色	灰褐色	
33-4	A-4	浅鉢	31.6	磨消鑑文	ミガキ	黑褐色	黑褐色	
33-5	A-4	浅鉢		磨消鑑文	ミガキ	灰褐色	灰褐色	
33-6	A-3	深鉢		磨消鑑文	ナデ	黄灰色	黄灰色	
33-7	A-5	深鉢		磨消鑑文	ミガキ	淡褐色	淡褐色	
33-8	A-3	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	淡褐色	淡褐色	
33-9	A-3	深鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
33-10	B-6	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	浅黄褐色	淡黄褐色	
33-11	D-7	深鉢		磨消鑑文	ナデ	灰褐色	灰褐色	
33-12	D-6	浅鉢		磨消鑑文	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい褐色	
33-13	A-4	切削(?)	17.8	磨消鑑文	ナデ	淡黄色	淡黄色	
33-14	A-4	深鉢		磨消鑑文	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	外面に煤付有
33-15	B-5	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	淡黄色	灰褐色	
33-16	A-4	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	
33-17	C-7	深鉢		鑑文、沈線	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	外面に煤付有
33-18	D-5	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	灰褐色	淡黄色	
33-19	E-5	深鉢		剥突文、ミガキ	ミガキ	褐灰色	黑褐色	
33-20	A-3	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	灰褐色	黄灰色	
33-21	A-3	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄褐色	外面に煤付有
33-22	C-7	深鉢		剥突、鑑文、沈線、ナデ	ナデ	にぶい褐色	褐灰色	
33-23	A-3	深鉢		鑑文、沈線、ナデ	ナデ	黑褐色	灰褐色	
34-1	A-3	深鉢		ナデ	ナデ	淡黄褐色	淡黄褐色	外面に煤付有
34-2	A-3	深鉢		鑑文、沈線、ナデ	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	外面に煤付有
34-3	D-6	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
34-4		深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
34-5	B-5	深鉢		鑑文、沈線、ナデ	ナデ	黑褐色	灰褐色	
34-6	A-4	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	輪褐色	輪褐色	

機関番号	車台番号	機器種類	法規(AN)	調整の特徴		色調	備考
				外面	内面		
34-7	A-3	深鉢	36.6	純文、沈線、ナデ	ナデ	黒褐色	灰黃褐色
34-8	B-5	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	にぼい黄褐色	黒褐色
34-9	D-6	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	灰黃褐色	暗灰黃褐色
34-10	C-5	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	浅黃褐色	浅黃褐色
34-11	C-5	深鉢		純文、キザミ、ナデ	ナデ	にぼい黄褐色	浅黃褐色
34-12	C-6	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	浅黃褐色	黃褐色
34-13	C-6	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	にぼい橙色	にぼい橙色
34-14	C-7	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	灰黃褐色	にぼい黄色
34-15	D-5	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	にぼい褐色	外年に塗付着
34-16	A-3	深鉢	18.8	純文、沈線、ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色
34-17	D-6	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	にぼい黄褐色	褐色
35-18	D-6	深鉢		刺突、純文、沈線、ナデ	ナデ	浅黃褐色	にぼい褐色
35-1	D-5	深鉢	13.8	純文、沈線、ナデ	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色
35-2	A-3	深鉢		刺突、沈線、ナデ	ナデ	にぼい褐色	にぼい黄褐色
35-3	A-3	深鉢		無清潤文	ナデ	灰褐色	にぼい黄褐色
35-4	D-6	深鉢		清潤文	ミガキ	にぼい黄褐色	灰黃褐色
35-5	C-6	深鉢	25.2	純文、沈線、ハケメ	ナデ	明赤褐色	暗赤褐色
35-6	A-3	深鉢	15.2	刺突、沈線、キザミ、ナデ	ナデ	明褐色	明褐色
35-7	A-3	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	灰白色	灰白色
35-8	A-3	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	灰黃褐色	黃灰色
35-9	A-3	深鉢	20.8	純文、沈線、孔引、ナデ	ナデ	暗褐色	内外面に塗付着
35-10	A-5	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	淡黃褐色	黃灰色
35-11		深鉢		ナデ、キザミ	ナデ	灰黃褐色	黑褐色
35-12	A-5	深鉢	25.8	純文、沈線、ナデ	ナデ	褐灰色	褐灰色
35-13	E-5	深鉢		沈線、キザミ、ナデ	ナデ	褐色	外年に塗付着
35-14	A-4	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色
35-15	C-6	深鉢	24.0	純文、ミガキ	ミガキ	灰黃褐色	浅黃褐色
35-16	D-5	深鉢	16.2	純文、ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色
35-17	A-3	深鉢		純文、ナデ	ナデ	灰褐色	黒褐色
35-18	A-3	深鉢		純文、ミガキ、キザミ	ナデ	灰褐色	灰褐色
35-19	A-3	深鉢		純文、ナデ	ナデ	暗褐色	灰褐色
35-20	A-3	深鉢	17.6	純文、刺突、ミガキ	ナデ	灰褐色	灰褐色
35-21	A-3	深鉢		沈線、キザミ、ナデ	ナデ	にぼい褐色	にぼい褐色
35-22	A-5	深鉢		沈線、キザミ、ナデ	ケズリ	淡黃褐色	淡黃褐色
35-23	C-5	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	黒褐色	褐灰色
35-24	A-3	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色
35-25	D-6	深鉢		刺突、刺突、ナデ	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色
36-1	B-3	深鉢	30.7	純文、ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色
37-1	B-5	深鉢		沈線、キザミ、ナデ	ナデ	暗黑褐色	にぼい黄褐色
37-2	D-6	深鉢		沈線、刺突、ナデ	ナデ	にぼい黄褐色	にぼい黄褐色
37-3	C-5	深鉢		沈線、刺突、ナデ	ナデ	浅黃褐色	浅黃褐色
37-4	A-4	深鉢		沈線、キザミ、ナデ	ナデ	褐灰色	褐灰色
37-5	D-5	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	浅黃褐色	黒褐色
37-6	A-5	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	明灰黃色	明灰黃色
37-7	A-3	深鉢	20.7	純文、沈線、ナデ	ナデ	淡黃褐色	暗灰黃色
37-8	B-3	深鉢	20.6	羽状文、ナデ	ナデ	黃褐色	にぼい褐色
37-9	A-5	深鉢		羽状文、ナデ	ナデ	にぼい黃褐色	にぼい黃褐色
37-10	A-4	深鉢		羽状文、ナデ	ナデ	にぼい黃褐色	暗褐色
37-11	A-6	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	にぼい黃褐色	にぼい黃褐色
37-12	B-3	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	褐灰色	浅黃色
37-13	A-3	深鉢		純文、ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色
37-14	A-5	深鉢		純文、ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色
37-15	A-3	深鉢		純文、ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色
37-16	A-4	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	灰褐色	黃褐色
37-17	A-4	深鉢		清潤文	ナデ	にぼい黃褐色	にぼい黃褐色
37-18	A-4	深鉢	18.6	ナデ	ナデ	にぼい黃褐色	明褐色
37-19	A-3	深鉢	20.2	ナデ	ナデ	赤褐色	黒灰色
37-20	B-3	深鉢	18.8	純文、ミガキ	ミガキ	明褐色	明褐色
37-21	A-3	深鉢	30.0	条紋、ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色
37-22	A-3	深鉢	29.2	条紋	ナデ	にぼい橙色	にぼい橙色
38-1	A-3	深鉢	16.8	ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色
38-2	D-5	深鉢	48.2	沈線、ナデ	ナデ	にぼい褐色	にぼい黃褐色
38-3	A-3	深鉢		沈線、刺突、ナデ	ナデ	暗赤褐色	暗褐色
38-4	A-5	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色
38-5	A-4	深鉢		沈線、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色
38-6	A-6	深鉢		沈線、沈線、刺突、ナデ	ナデ	灰褐色	外年に塗付着
38-7	C-5	深鉢		沈線、沈線、ナデ	ナデ	にぼい黃褐色	黒褐色
38-8	A-3	深鉢		ナデ、キザミ	ナデ	褐色	褐色
38-9	D-5	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色
38-10	A-3	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色
38-11	A-3	深鉢		純文、沈線、ナデ	ナデ	にぼい褐色	外年に塗付着

測定番号	出上地点	器種	法量(cm) 口直 径高	同 種 の 特 徴		色 調		備考
				外 面	内 面	外 面	内 面	
38-12	A 5	深鉢	圓文、沈縁、ケズリ	ナデ	暗褐色	黄褐色		
38-13	B 5	深鉢	圓文、任窓、キザミ	ミガキ	黄褐色	褐色		
38-14	A - 3	深鉢	粗いナデ	粗いナデ	にぶい褐色	褐色		
38-15	A - 3	浅鉢	圓文、ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色		
38-16	E - 5	浅鉢	ナデ	沈縁、ナデ	褐色	褐色		
38-17	A - 4	突起(?)	沈縁、ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色		
38-18	A - 4	突起(?)	沈縁、ナデ	ナデ	暗灰黃褐色	浅黄褐色	外面に煤付有	
38-19	A - 5	浅鉢	沈縁、ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		
38-20	A - 1	突起(?)	刺突、沈縁、ナデ		にぶい褐色			
38-21	D - 5	突起(?)	沈縁、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色		
38-22	A - 4	突起(?)	沈縁、ナデ	ナデ	浅黄色	浅黄色		
38-23	D - 5	突起(?)	沈縁、ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色		
38-24	A - 1	突起(?)	圓文、沈縁、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色		
38-25	A - 3	深鉢	圓文、沈縲	ナデ	淡黄色	淡黄色		
38-26	A - 3	深鉢	沈縲	ナデ	灰褐色	灰褐色		
38-27	A - 3	深鉢	圓文、茎狀、ナデ	ナデ	灰黄色	灰黄色		
38-28	A - 3	深鉢	圓文、沈縲	ナデ	浅黄色	浅黄色		
38-29	A - 3	深鉢	圓文、沈縲	ナデ	浅黄色	浅黄色		
39-1	A - 3	深鉢	圓文、ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		
39-2	A - 3	深鉢	圓文	ナデ	暗黄色	暗黄色		
39-3	A - 3	深鉢	圓文、ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色		
39-4	A - 4	深鉢	圓文、ナデ	ナデ	灰褐色	にぶい黄褐色	外面に煤付有	
39-5	A - 4	深鉢	圓文、ナデ	ナデ	暗火黄色	暗灰黄色	外面に煤付有	
39-6	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	淡黄色	暗黄褐色		
39-7	A - 4	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色		
39-8	A - 5	深鉢	ナデ、キザミ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に煤付有	
39-9	F - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	淡黄色		
39-10	B - 4	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		
39-11		深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	美橙色	美橙色		
39-12	C - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	淡黄色	外面に煤付有	
39-13	A - 5	深鉢	ナデ、キザミ	ナデ	黄褐色	黄褐色		
39-14	A - 3	深鉢	ナデ、キザミ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
39-15	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	暗黄褐色	にぶい褐色	外面に煤付有	
39-16	A - 3	深鉢	ナデ	江慨、ナデ	暗褐色	暗褐色	外面に煤付有	
39-17	A - 4	深鉢	捨頭正窓、条痕、ナデ	条痕	灰色	黑色	外面に煤付有	
39-18	C - 5	深鉢	ナデ	庄俄、ナデ	にぶい褐色	褐色	外面に煤付有	
39-19	A - 3	深鉢	圓文	ミガキ	灰黄褐色			
39-20	A - 5	深鉢	ミガキ	ナデ	暗褐色	黄褐色		
40-1	A - 6	深鉢	ナデ	庄俄、ナデ	暗灰黄色	暗灰黄色	外面に煤付有	
40-2	A - 6	浅鉢	ナデ	ナデ	暗灰灰色	暗灰灰色		
40-3	A - 3	深鉢	18.6	圓文、ナデ	暗褐色	暗褐色	内外面に煤付有	
40-4	C - 5	深鉢	圓文、沈縲、ナデ	圓文、沈縲、ナデ	黑褐色	黑褐色		
40-5	A - 3	深鉢	圓文、ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色		
40-6	A - 4	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	褐色	暗赤色		
40-7	C - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	灰黄色	浅黄褐色		
40-8	D - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
40-9	C - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	暗灰黄色	明灰黄色	外面に煤付有	
40-10	A - 3	深鉢	圓文、ナデ	ナデ	黑灰色	黑褐色	内外面に炭化物付有	
40-11	C - 6	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色		
40-12	F - 5	深鉢	圓文、沈縲	ナデ	淡黄色	淡黄色		
40-13	A - 1	深鉢	廢消圓文	毫髪	灰褐色	灰褐色	内面に煤付有	
40-14	A - 3	深鉢	廢消圓文	条痕、ミガキ	淡火黄色	黄褐色	外面に煤付有	
40-15	D - 6	深鉢	廢消圓文	粗いナデ	暗灰褐色	暗黄褐色	内面に煤付有	
40-16	A - 3	深鉢	沈縲	ミガキ	暗褐色	暗褐色	内面に煤付有	
40-17	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ、ミガキ	ナデ	灰黄色	暗褐色	内面に煤付有	
40-18	D - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	内面に煤付有	
40-19	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
40-20	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	外面に煤付有	
40-21	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	外面に煤付有	
40-22	A - 3	深鉢	沈縲、ミガキ	ミガキ	单火黄色	暗灰黄色		
40-23	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に煤付有	
40-24	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色		
40-25	A - 3	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色		
40-26	A - 5	浅鉢	圓文、沈縲、刺突	ナデ	暗褐色	暗褐色		
40-27	C - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	褐色	黑褐色		
40-28	A - 5	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	内面に煤付有	
40-29		深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい褐色		
40-30	A - 4	深鉢	ナデ、キザミ	ナデ	にぶい褐色	黄褐色		
40-31	A - 4	深鉢	沈縲、ナデ	ナデ	浅黄褐色	暗黄褐色		
40-32	A - 4	深鉢	ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色		
40-33	A - 4	深鉢	粗いミガキ、キザミ	粗いミガキ、ナデ	明褐色	黄褐色	内外面に煤付有	

機関番号	出力馬力	器種	消費量(kw)	調整の特徴		色調		備考	
				外 面 口括 内 面 括高	外 面 ミガキ 内 面 ミガキ	外 面 黒褐色 成黄色	内 面 黒褐色 成黄色		
40-34	B-6	浅鉢		ミガキ、キザミ	ミガキ	黒褐色	黒褐色		
40-35	A-4	浅鉢		ナデ、キザミ	ナデ	成黄色	成黄色	内外面に塗付着	
41-1	A-3	浅鉢	33.5	ナデ、キザミ	ナデ	暗灰褐色	暗黄色	外面に塗付着	
41-2	A-3	浅鉢		ナデ、キザミ	ナデ	暗褐色	暗褐色		
41-3	A-3	浅鉢	31.4	鷺文、ナデ、キザミ	ナデ	灰黄褐色	灰褐色		
41-4	A-4	浅鉢		ナデ、キザミ	ナデ	明黄褐色	灰褐色	外面に塗付着	
41-5	A-3	浅鉢	22.8	鷺文、キザミ	ミガキ	暗黄褐色	暗褐色		
41-6	A-3	浅鉢	16.4	ナデ、キザミ	ナデ	灰黄褐色	に赤い緑色	外面に塗付着	
41-7	C-5	浅鉢	48.6	鷺文、キザミ、ミガキ	ミガキ	明赤褐色	明赤褐色		
41-8	A-4	浅鉢	22.4	沈鉢、キザミ、ミガキ	ミガキ	明赤褐色	明赤褐色		
41-9	A-3	鉢	16.2	粗いナデ	粗いナデ	明赤褐色	明赤褐色		
41-10	A-4	鉢	15.8	ナデ	ナデ	灰黄色	灰黄褐色		
41-11	C-5	鉢	12.0	粗いナデ	ケズリ、粗いナデ	明赤褐色	明赤褐色	内外面に塗付着	
41-12	A-3	鉢	18.8	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	外面に塗付着	
41-13	A-4	鉢		鷺文、沈鉢	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色		
42-1	A-5	深鉢		沈鉢、粗いナデ	粗いナデ	に赤い緑色	に赤い緑色		
42-2	A-5	深鉢		沈鉢、粗いナデ	粗いナデ	褐色	成黄色	外面に塗付着	
42-3	B-5	深鉢		沈鉢、ミガキ	指運底座、ナデ	灰褐色	赤褐色		
42-4	A-3	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	黒褐色	黒褐色		
42-5	C-6	深鉢		沈鉢、ミガキ	ミガキ	黒褐色	黒褐色		
42-6	A-4	深鉢	13.8	鷺文、沈鉢	ナデ	灰黄色	灰黄色		
42-7	D-5	深鉢		磨削鷺文	ナデ	橙色	明黄褐色		
42-8	B-6	深鉢		磨削鷺文	ナデ	灰褐色	に赤い緑色		
42-9	B-3	深鉢		鷺文、ミガキ	ミガキ	に赤い緑色	褐灰色		
42-10	A-3	深鉢		ミガキ	ナデ	橙褐色	橙褐色		
42-11	D-5	深鉢		沈鉢、ミガキ	ミガキ	灰黄色	灰黄色	内外面に塗付着	
42-12	C-7	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色		
42-13	A-3	深鉢		鷺文、ナデ	ナデ	に赤い緑色	浅黃褐色		
42-14	C-5	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	に赤い赤褐色	に赤い赤褐色		
42-15	D-5	深鉢		鷺文、ミガキ	ミガキ	灰黄色	黄灰色		
42-16	C-6	深鉢		磨削鷺文	ナデ	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色		
42-17	C-5	深鉢		磨削鷺文	ナデ	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色		
42-18	A-4	深鉢		竹管文(?)、沈鉢	ナデ	成黄色	成黄色		
42-19	D-5	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	淡黄色	に赤い緑色		
42-20	C-5	深鉢	25.8	沈鉢、ミガキ	ミガキ	浅黄色	浅黄色		
42-21	C-5	深鉢		沈鉢、ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	内部に塗付着	
42-22	A-5	深鉢		キザミ、ミガキ	ミガキ	浅黃褐色	黒褐色		
42-23	C-10	深鉢	17.5	沈鉢、ミガキ	ミガキ	黒褐色	に赤い黄褐色		
42-24	A-4	深鉢		沈鉢、刺突、ナデ	ナデ	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	外面に塗付着	
42-25	A-5	深鉢		キザミ、ミガキ	ミガキ	に赤い緑色	灰黄色		
42-26	A-3	深鉢		竹管文(?)、ナデ	ナデ	浅黃褐色	褐灰色		
43-1	A-4	深鉢	33.6	条痕	ナデ	淡黃褐色	淡黃褐色		
43-2	A-4	深鉢	36.5	条痕	焦痕	栗灰褐色	栗灰褐色	外面に塗付着	
43-3	A-6	深鉢	14.8	17.7	月絞条痕	貝殻条痕	栗褐色	栗褐色	内外面に塗付着
43-4	A-1	深鉢		条痕	条痕	栗褐色	栗褐色		
43-5	A-4	深鉢		条痕	条痕、ナデ	明赤褐色	黑褐色		
43-6	A-4	深鉢	20.0	条痕	条痕	栗褐色	栗褐色		
43-7	A-4	深鉢		条痕	条痕	栗褐色	栗褐色	外面に塗付着	
43-8	A-4	深鉢		条痕	条痕	灰褐色	黑褐色		
44-1	A-4	深鉢		条痕	条痕	淡黃褐色	淡黃褐色	内部に塗付着	
44-2	A-4	深鉢		条痕	条痕	に赤い赤褐色	灰褐色	内部に塗付着	
44-3	A-5	深鉢		二枚目条痕	二枚目条痕	栗褐色	栗褐色		
44-4	A-4	深鉢		条痕、ナデ	条痕	栗褐色	栗褐色		
44-5	A-5	深鉢	22.6	二枚目条痕	二枚目条痕	明褐色	灰褐色		
44-6		深鉢		条痕	条痕	淡黃褐色	淡黃褐色	内部に塗付着	
44-7		深鉢		二枚目条痕	二枚目条痕	灰褐色	灰褐色		
44-8	A-5	深鉢		二枚目条痕	二枚目条痕	灰褐色	灰褐色		
44-9	A-4	深鉢	17.6	二枚目条痕	二枚目条痕	栗褐色	栗褐色		
44-10	A-3	深鉢		条痕	条痕、指運底座	明灰色	明灰色		
45-1	A-3	深鉢		条痕	条痕	栗褐色	栗褐色		
45-2	B-3	深鉢	16.0	条痕	条痕、ナデ	栗褐色	栗褐色		
45-3	A-4	深鉢		条痕	条痕	灰褐色	灰褐色	外面に塗付着	
45-4	A-3	深鉢		条痕、ナデ	条痕、ナデ	栗褐色	栗褐色		
45-5	A-5	深鉢		条痕	条痕	黑灰褐色	黑灰褐色		
45-6	A-3	深鉢	14.0	ナデのちミガキ	条痕	黄褐色	黄褐色		
45-7	A-4	深鉢		二枚目条痕	二枚目条痕	灰褐色	灰褐色		
45-8	A-5	深鉢		二枚目条痕	二枚目条痕	栗褐色	栗褐色		
45-9	A-4	深鉢	22.0	条痕	条痕	栗褐色	明灰色		
45-10	A-3	深鉢	22.0	条痕、ナデ	条痕	栗褐色	明栗褐色		
45-11	A-3	深鉢	29.6	条痕、指運底座	条痕	明栗褐色	明栗褐色		
45-12	A-3	深鉢		条痕	条痕、指運底座	栗褐色	明栗褐色		

調査番号	出上地点	岩種	法量(m) ロ径 横高	調査の特徴		色		備考
				外面	内面	外面	内面	
45-13 A-4	深鉢			条痕	条痕	明褐色	暗黃灰色	内面に煤付有
45-14 A-4	深鉢			条痕、ナデ	条痕	灰黃褐色	暗黃褐色	内面に煤付有
45-15 A-4	深鉢			ナデ	条痕	暗褐色	明灰褐色	
45-16 A-4	深鉢			条痕	条痕	明褐色	暗褐色	
45-17 A-5	深鉢			条痕	ナデ	暗灰褐色	ぶい褐色	内面に煤付有
46-1 A-5	深鉢			ナデ		灰褐色	灰褐色	
46-2 A-4	深鉢		24.8	ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	
46-3 A-5	深鉢		27.8	難いミガキ	ナデ	暗褐色	暗褐色	
46-4 A-5	深鉢		17.2	ナデ	ナデ	黄褐色	淡黃灰色	
46-5 A-5	深鉢		25.0	ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	外外面に煤付有
46-6 A-5	深鉢			ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	外面上に煤付有
46-7 A-3	深鉢			ナデ		淡黄色	暗褐色	内面に煤付有
46-8 A-5	深鉢		33.4	ナデ	ナデ	黃灰色	黃灰色	
46-9 A-5	深鉢		28.4	ナデ	ナデ	黃灰色	黃灰色	
46-10 A-4	深鉢		14.6	ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	
47-1 A-5	深鉢		28.2	ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	外外面に煤付有
47-2 A-5	深鉢		26.4	難いナデ	難いナデ	暗深褐色	灰黄色	
47-3 A-4	深鉢		12.6	ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	
47-4 A-5	深鉢		25.8	ナデ	ナデ	暗褐色	淡黄色	
47-5 A-5	深鉢		27.0	ナデ	ナデ	黃褐色	明褐色	
47-6 A-4	深鉢		21.4	ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	
47-7 A-5	深鉢		23.0	ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	
47-8 A-5	深鉢		14.0	ナデ	ナデ	暗褐色	明灰色	
47-9 A-5	浅鉢			ミガキ	ミガキ	淡黄色	淡黄色	
47-10 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	暗灰色	
47-11 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	明灰黄色	暗灰黄色	
47-12 A-5	深鉢			ナデ		暗黄色	暗黄色	
47-13 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	暗灰色	
47-14 D-5	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	暗灰褐色	
48-1 A-3	深鉢			条痕、粗いナデ	ナデ	灰黄色	ぶい黃褐色	
48-2 C-5	深鉢			ナデ	ナデ	棕色	棕色	
48-3 B-3	深鉢			ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	
48-4 A-4	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	
48-5 A-4	深鉢			ナデ	ケズリ	明褐色	暗灰褐色	
48-6 A-3	深鉢			指頭压痕、ナデ	ナデ	黃灰色	黃灰色	
48-7 A-3	浅鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	灰黄色	
48-8 A-5	深鉢			把頭压痕、ナデ	ナデ	黃灰色	黃灰色	
48-9 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	
48-10 A-5	深鉢			ナデ	ナデ	灰黄色	灰黄色	
48-11 A-5	深鉢			ナデ	一枚目条痕、ナデ	暗褐色	暗褐色	
48-12 A-5	深鉢			ナデ	ナデ	暗灰褐色	暗灰褐色	
48-13 A-3	深鉢			ナデ		淡黄色	黑灰色	
48-14 A-6	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	暗褐色	
48-15 A-5	深鉢			二枚目条痕、ナデ	ナデ	明褐色	淡黄色	外斜一面に割れ具合有り
48-16 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	暗褐色	淡黄色	
48-17 A-3	浅鉢			ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	
48-18 A-6	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	
48-19 A-4	深鉢			ナデ	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	
48-20 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	
48-21 A-3	深鉢			ナデ	ケズリのちナデ	暗褐色	灰黄色	内面に煤付有
48-22 A-4	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	暗灰色	
48-23 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	内面に煤付有
48-24 B-3	浅鉢			ナデ	ナデ	黑褐色	黑褐色	
48-25 A-5	深鉢			ナデ、ミガキ	ナデ	暗褐色	暗褐色	
48-26 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	暗褐色	
48-27 A-3	深鉢			指頭压痕、ナデ	ナデ	黃褐色	暗褐色	
48-28 A-3	深鉢			ミガキ	ミガキ	淡黄色	灰黄色	
48-29 A-6	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	
48-30 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	
48-31 A-4	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	内面に墨色剥離有り
48-32 A-3	深鉢			ナデ	ケズリ	赤褐色	赤褐色	内面に煤付有
48-33 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	暗褐色	
48-34 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	灰黄色	灰黄色	
48-35 A-6	不明			ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	
48-36 A-6	深鉢			ナデ	ナデ	黃褐色	棕色	
48-37 A-4	浅鉢			ナデ	指頭压痕、ナデ	淡黄色	淡黄色	
48-38 A-4	深鉢			ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	
48-39 A-4	深鉢			ナデ	ナデ	灰褐色	淡黄色	
48-40 A-5	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	
48-41 A-6	深鉢			ナデ	ナデ	暗灰褐色	暗灰褐色	
48-42 A-3	深鉢			ナデ	ナデ	灰褐色	黃褐色	
48-43 A-4	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	

標印番号	出土地点	器種	法規(cm)	調整の特徴		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
48-44 A - 5	浅鉢		口径 番高	ナデ	ナデ	暗灰褐色	暗灰褐色	
48-45 A - 3	深鉢			ミガキ	ミガキ	灰青色	暗灰褐色	
48-46 A - 5	深鉢			ナデ	ナデ	淡黄色	淡黄色	
48-47 A - 4	深鉢			ナデ	ケズリ	にぼい黄褐色	にぼい黄褐色	外面に媒付着
48-48 A - 4		条痕、ナデ		軽いミガキ、ナデ		灰褐色	黑褐色	
48-49 A - 5	浅鉢			ナデ	ナデ	棕褐色	暗黄褐色	
48-50 A - 3	浅鉢			ナデ	ナデ	黄色	黄褐色	内背面に赤色斑点使用
48-51 A - 5	深鉢			ナデ	ナデ	灰褐色	黑褐色	

第6表 出土石器観察表

件名番号	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
49 - 3 A - 3	磨製石斧		15.1	4.6	2.8	313.8	写真図版 43
49 - 4 A - 3	磨製石斧		13.6	4.5	2.9	339.8	写真図版 43
49 - 5 A - 3	打製石斧		10.3	5.6	2.3	187.7	写真図版 43
49 - 6 A - 4	磨製石斧		11.3	5.8	3.4	328.6	写真図版 43
49 - 7 A - 1	磨製石斧(?)		13.1	7.8	4.8	645.6	写真図版 43
49 - 8 A - 5	磨製石斧		11.2	5.9	4.3	426.8	写真図版 43
49 - 9 C - 7	磨製石斧		8.7	4.7	2.8	183.0	写真図版 44
50 - 1 D - 3	磨製石斧(?)		6.1	4.9	3.6	172.0	写真図版 44
50 - 2 E - 5	磨製石斧		10.5	4.1	2.9	244.6	写真図版 44
50 - 3	磨製石斧		8.2	4.0	1.3	86.9	写真図版 44
- A - 3	磨製石斧		10.2	4.6	3.5	273.7	遺物番号 44-1-5
- A - 3	磨製石斧		5.6	5.2	2.4	110.9	遺物番号 44-1-6
- A - 3	磨製石斧		10.0	4.4	3.1	195.9	遺物番号 44-1-7
- A - 3	磨製石斧		8.2	4.1	10.4	80.5	遺物番号 44-1-8
- A - 4	磨製石斧		8.8	5.7	3.2	246.3	遺物番号 44-2-1
- I A - 4	磨製石斧		11.9	6.9	4.5	590.0	遺物番号 44-2-2
- A - 4	磨製石斧		9.8	5.0	3.1	219.7	遺物番号 44-2-3
- A - 5	磨製石斧	(6.7)	(5.7)	(3.8)	(158.0)	遺物番号 44-2-4	
- B - 3	磨製石斧		9.2	5.4	30.4	266.3	遺物番号 44-2-5
- B - 5	磨製石斧		8.9	3.5	10.3	77.4	遺物番号 44-2-6
- C - 5	磨製石斧		10.7	6.8	3.1	341.2	遺物番号 44-2-7
- C - 6	磨製石斧		9.4	5.1	3.3	248.2	遺物番号 44-2-8
- D - 5	磨製石斧		12.5	6.5	4.3	568.7	遺物番号 44-2-9
- D - 5	磨製石斧		6.4	(5.1)	(1.9)	(77.4)	遺物番号 44-2-10
50 - 4	石鍬		7.2	5.1	5.1	256.4	写真図版 44 第1 黒色土削出土
50 - 6 SHO11	石鍬		6.9	7.0	1.3	115.1	写真図版 44
50 - 7 SHO11	石鍬		6.6	6.5	2.0	129.4	写真図版 44
50 - 8 SK01	磨石		11.0	9.5	4.5	656.9	写真図版 47
50 - 9 A - 3	石鍬		7.8	5.6	1.7	132.8	写真図版 44
50 - 10 A - 3	石鍬		5.1	4.1	1.4	48.1	写真図版 44
50 - 11 A - 4	石鍬		9.1	5.2	3.1	214.1	写真図版 44
50 - 12 E - 5	石鍬		6.1	4.8	2.4	92.4	写真図版 44
-	石鍬		10.5	6.5	2.0	181.6	遺物番号 44-3-9
- B - 3	石鍬		9.7	5.8	2.8	244.4	遺物番号 44-3-10
- A - 3	石鍬		8.9	7.6	2.8	206.4	遺物番号 44-3-11
- A - 3	石鍬		7.3	6.7	2.8	192.8	遺物番号 44-3-12
- B - 3	石鍬		9.6	5.0	2.4	157.1	遺物番号 45-1-1
- A - 3	石鍬		7.4	6.7	1.8	142.0	遺物番号 45-1-2
- C - 6	石鍬		8.5	6.1	2.5	202.1	遺物番号 45-1-3
- A - 5	石鍬		8.3	6.0	2.2	147.0	遺物番号 45-1-4
E - 5	石鍬		7.8	6.5	2.9	235.4	遺物番号 45-1-5
-	石鍬		7.4	6.8	2.5	186.7	遺物番号 45-1-6
- A - 5	石鍬		7.5	7.5	1.5	128.4	遺物番号 45-1-7
- A - 3	石鍬		8.5	6.7	2.4	194.2	遺物番号 45-1-8
- A - 3	石鍬		7.5	6.8	2.9	207.3	遺物番号 45-1-9
-	石鍬		7.4	6.5	1.7	120.7	遺物番号 45-1-10
-	石鍬		8.1	5.4	1.9	141.7	遺物番号 45-1-11
C - 7	石鍬		7.3	6.2	2.6	160.4	遺物番号 45-1-12
-	石鍬		6.9	5.8	2.5	148.6	遺物番号 45-2-1
B - 6	石鍬		7.9	5.6	2.6	147.2	遺物番号 45-2-2
- A - 3	石鍬		6.6	5.4	2.7	160.3	遺物番号 45-2-3
- C - 7	石鍬		6.5	6.0	2.5	123.6	遺物番号 45-2-4
-	石鍬		5.0	4.7	1.8	130.7	遺物番号 45-2-5
- A - 3	石鍬		6.7	6.6	3.0	159.6	遺物番号 45-2-6
C - 6	石鍬		7.0	6.2	2.1	124.2	遺物番号 45-2-7
B - 3	石鍬		8.0	4.8	2.5	132.4	遺物番号 45-2-8
- A - 3	石鍬		6.6	6.5	2.0	97.4	遺物番号 45-2-9
C - 7	石鍬		7.0	5.6	1.7	111.0	遺物番号 45-2-10
A - 3	石鍬		7.4	5.2	1.8	111.4	遺物番号 45-2-11
B - 3	石鍬		6.8	6.6	2.1	134.1	遺物番号 45-2-12
D - 5	石鍬		5.8	5.0	2.3	107.9	遺物番号 45-3-1
B - 6	石鍬		6.6	5.3	1.6	89.4	遺物番号 45-3-2
A - 5	石鍬		7.4	5.3	2.4	145.6	遺物番号 45-3-3
-	石鍬		6.9	4.9	1.8	95.3	遺物番号 45-3-4
- B - 7	石鍬		6.7	5.5	2.0	109.6	遺物番号 45-3-5

標本番号	出土場所	種 別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
B 4	石縫		7.5	4.0	1.9	82.7	遺物番号 45-3-6
- A - 3	石縫		7.5	6.1	1.6	116.5	遺物番号 45-3-7
- B - 3	石縫		6.9	5.5	2.3	109.9	遺物番号 45-3-8
- C - 6	石縫		7.9	4.9	1.8	111.0	遺物番号 45-3-9
- A - 4	石縫		7.6	5.0	2.4	162.6	遺物番号 45-3-10
- B - 7	石縫		7.2	5.8	2.3	131.5	遺物番号 45-3-11
- D - 5	石縫		7.8	5.7	2.2	119.0	遺物番号 45-3-12
- D - 5	石縫		7.6	6.0	2.0	139.1	遺物番号 45-3-13
- D - 5	石縫		6.8	4.9	2.3	122.3	遺物番号 45-3-14
- E - 5	石縫		7.9	6.3	2.0	145.6	遺物番号 45-3-15
-	石縫		7.4	5.2	2.1	120.5	遺物番号 46-1-1
-	石縫		7.0	5.3	2.4	121.5	遺物番号 46-1-2
- A - 3	石縫		7.2	5.5	2.3	125.7	遺物番号 46-1-3
- C - 7	石縫		7.5	5.0	2.5	127.6	遺物番号 46-1-4
- B - 3	石縫		8.2	5.2	1.4	95.9	遺物番号 46-1-5
- A - 3	石縫		6.2	5.0	2.4	119.6	遺物番号 46-1-6
- E - 5	石縫		6.1	3.8	1.6	60.7	遺物番号 46-1-7
- A - 3	石縫		6.2	5.0	1.9	96.4	遺物番号 46-1-8
- A - 3	石縫		5.2	4.3	1.3	48.0	遺物番号 46-1-9
- A - 5	石縫		5.7	4.6	2.2	76.6	遺物番号 46-1-10
A 3	石縫		5.0	4.6	1.5	56.2	遺物番号 46-1-11
E - 5	石縫		5.9	5.1	1.3	62.2	遺物番号 46-1-12
- D - 5	石縫		5.6	4.5	2.1	86.5	遺物番号 46-1-13
-	石縫		5.9	5.2	1.8	96.6	遺物番号 46-1-14
- A - 5	石縫		6.6	5.6	2.0	87.2	遺物番号 46-1-15
- A - 4	石縫		6.1	4.1	1.4	55.2	遺物番号 46-2-1
A 5	石縫		6.6	4.6	1.7	84.9	遺物番号 46-2-2
- A - 3	石縫		5.9	4.7	1.6	72.8	遺物番号 46-2-3
- B - 6	石縫		5.4	4.2	1.6	59.2	遺物番号 46-2-4
- B - 7	石縫		6.8	4.3	1.3	57.1	遺物番号 46-2-5
- A - 5	石縫		6.0	5.2	2.3	110.0	遺物番号 46-2-6
D 5	石縫		5.6	4.7	1.6	54.9	遺物番号 46-2-7
- A - 3	石縫		6.3	5.3	1.3	69.7	遺物番号 46-2-8
- B - 5	石縫		5.3	4.0	1.5	43.7	遺物番号 46-2-9
- A 3	石縫		5.5	4.1	1.6	49.3	遺物番号 46-2-10
D - 5	石縫		5.9	4.6	1.9	66.7	遺物番号 46-2-11
C - 7	石縫		3.6	2.7	2.2	29.6	遺物番号 46-2-12
- A 5	石縫		5.2	3.7	2.5	73.2	遺物番号 46-2-13
- A - 5	石縫		6.0	5.4	1.6	60.6	遺物番号 46-2-14
- D - 5	石縫		6.2	5.7	1.6	90.2	遺物番号 46-2-15
- E - 5	石縫		6.2	5.2	2.2	102.0	遺物番号 46-2-16
- A - 3	石縫		6.0	5.4	2.5	116.9	遺物番号 46-2-17
- A - 3	石縫		6.7	4.5	1.7	65.2	遺物番号 46-2-18
C 7	石縫		5.9	5.8	1.6	69.0	遺物番号 46-3-1
- B - 6	石縫		6.3	5.4	1.7	78.0	遺物番号 46-3-2
- A - 3	石縫		5.6	5.5	2.5	115.4	遺物番号 46-3-3
- A 5	石縫		6.4	4.6	2.2	96.0	遺物番号 46-3-4
- B - 3	石縫		5.8	4.6	2.4	117.6	遺物番号 46-3-5
- D - 4	石縫		6.0	5.4	1.7	86.9	遺物番号 46-3-6
- D 5	石縫		5.5	4.5	1.6	63.5	遺物番号 46-3-7
- B - 7	石縫		6.7	5.8	1.6	96.6	遺物番号 46-3-8
- A - 3	石縫		6.2	5.2	1.6	71.9	遺物番号 46-3-9
- A 5	石縫		5.3	4.3	1.4	50.1	遺物番号 46-3-10
-	石縫		6.4	5.8	1.8	103.6	遺物番号 46-3-11
D - 5	石縫		5.8	5.7	1.6	77.1	遺物番号 46-3-12
- B 3	石縫		5.7	5.5	1.8	94.9	遺物番号 46-3-13
C - 6	石縫		6.2	5.3	1.8	70.9	遺物番号 46-3-14
- E - 5	石縫		6.4	4.7	2.1	76.7	遺物番号 46-3-15
- B 3	石縫		5.8	4.0	1.4	44.1	遺物番号 47-1-1
- A 3	石縫		6.3	5.3	1.8	89.0	遺物番号 47-1-2
- A - 5	石縫		6.5	5.3	2.4	119.7	遺物番号 47-1-3
-	石縫		6.4	5.5	2.3	92.1	遺物番号 47-1-4
C - 5	石縫		6.0	5.1	1.7	77.4	遺物番号 47-1-5
- D - 5	石縫		4.8	4.6	1.7	48.8	遺物番号 47-1-6
- A 3	石縫		4.6	3.9	1.9	54.3	遺物番号 47-1-7
- A - 4	石縫		3.1	2.5	1.2	13.8	遺物番号 47-1-8
- A - 3	石縫		2.1	1.2	0.3	0.5	黒曜石 遺物番号 47-3-1
A 4	石縫		1.6	1.3	0.2	0.3	黒曜石 遺物番号 47-3-2
- A - 4	石縫		1.3	1.1	0.2	0.2	安山岩 遺物番号 47-3-3
- C - 5	石縫		1.4	1.3	0.2	0.3	黒曜石 遺物番号 47-3-4
- D - 5	石縫	(1.8)	1.5	0.4	(0.8)	黒曜石 遺物番号 47-3-5	
- D - 5	石縫	2.1	1.3	0.2	0.6	安山岩 遺物番号 47-3-6	
- D - 5	石縫	1.5	1.2	0.4	0.5	黒曜石 遺物番号 47-3-7	
- D - 5	石縫	1.7	(1.0)	0.3	(0.3)	黒曜石 遺物番号 47-3-8	
E 5	石縫	1.3	1.3	0.3	0.3	安山岩 遺物番号 47-3-9	
- C - 5	スクレイパー		13.0	4.6	1.4	34.5	黒曜石 遺物番号 47-3-10



# 写 真 図 版





貝谷遺跡遠景 西から

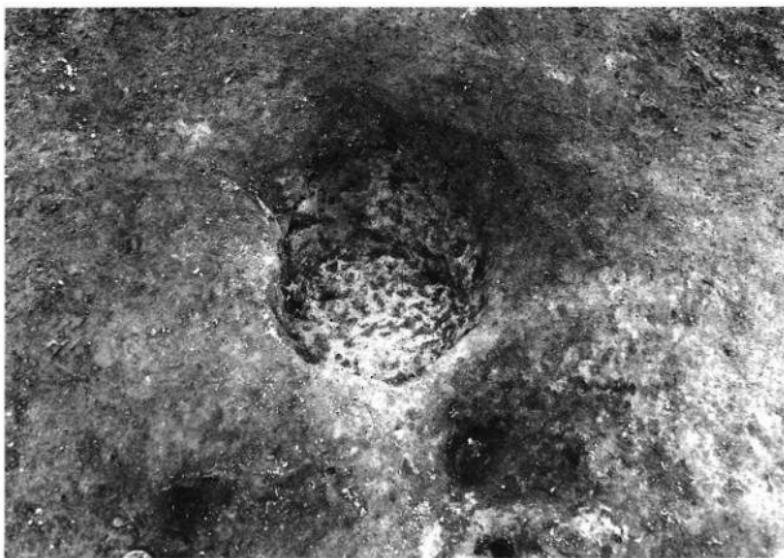


1号竪穴住居跡検出状況

图版 2



1号竖穴住居跡完掘状況



SK-1 3 完掘状況



SK-1 4 完掘状況



SK-1 5 完掘状況

图版 4



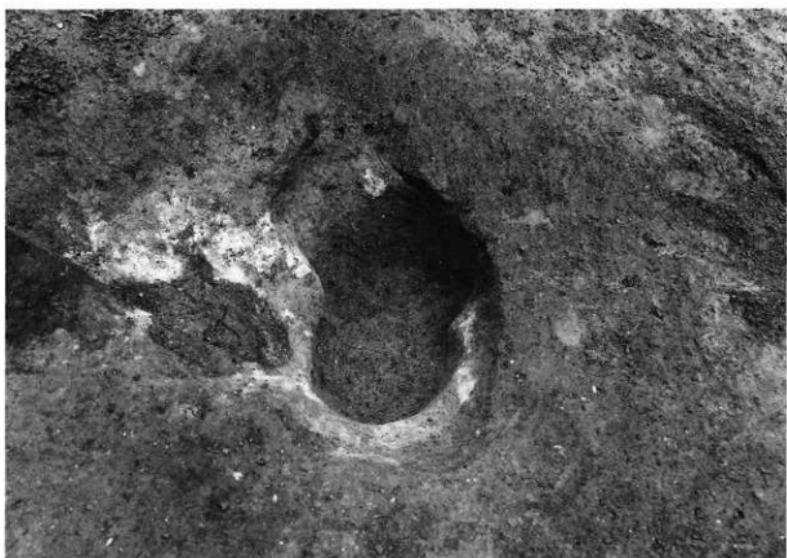
SK-16 完掘状况



SK-17 完掘状况



SK-18 完掘状況



SK-19 完掘状況

圖版 6



2号竖穴住居跡完掘状況



1号焼土面検出状況



3号焼土面検出状況



11号焼土面検出状況



3号竖穴住居跡検出状況



3号竖穴住居跡完掘状況



異形石製品検出状況



同 上

図版10



SK-04断面



SK-04完掘状況



SK-10 完掘状況



4号焼土面検出状況

図版12



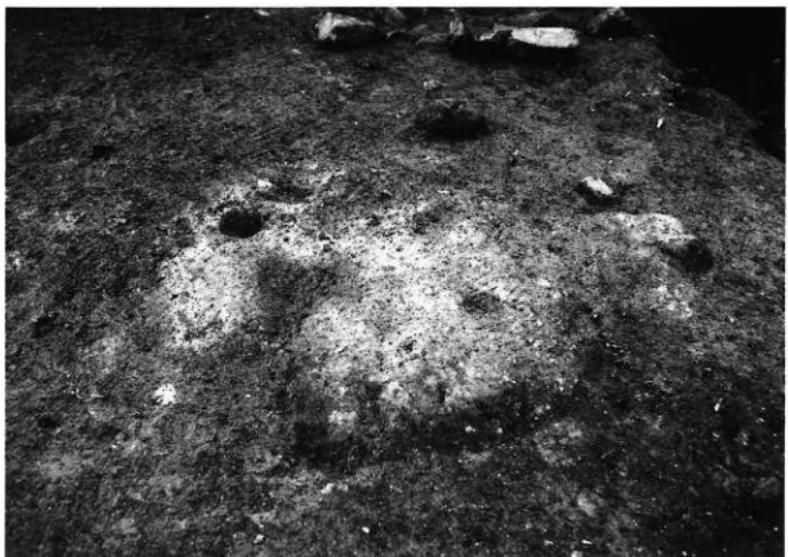
SK-05 調査状況



SK-05 完掘状況



SK-03 完掘状況



10号焼土面検出状況



10号烧土面断面



SK-13 检出状况



SK-01断面



SK-01完掘状况

図版16



SK-02 検出状況



SK-02 完掘状況



SK-0 6 完掘状況



SK-0 8 完掘状況

圖版18



S K - 1 2 完掘状况



2号烧土面断面

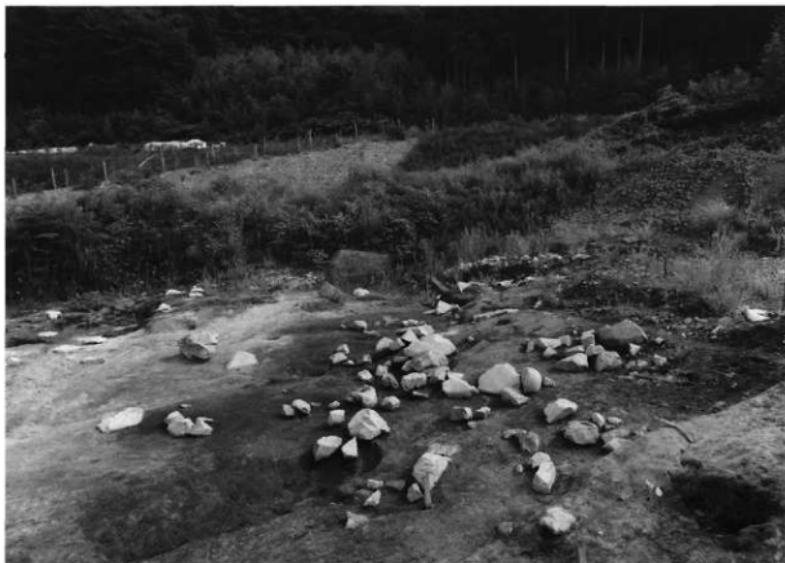


7号焼土面検出状況



8号焼土面検出状況

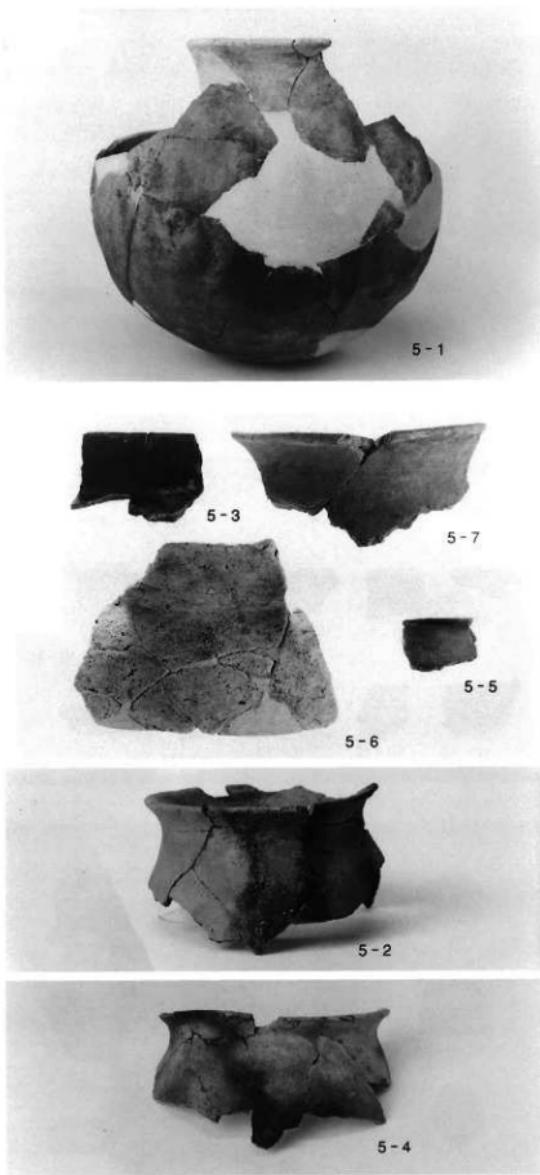
図版20



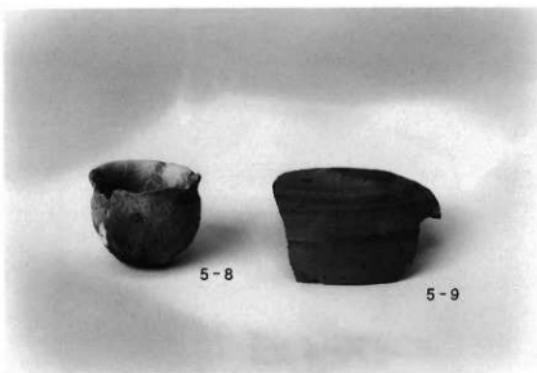
集石遺構検出状況



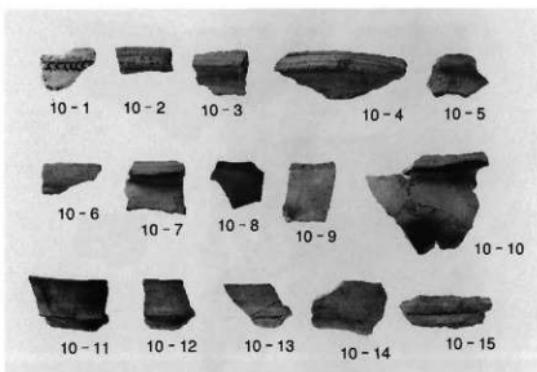
貝谷遺跡調査風景



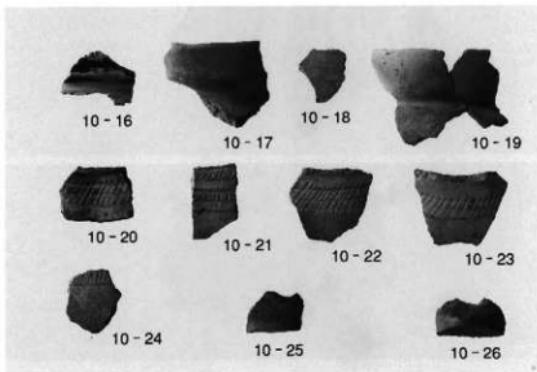
1号竖穴住居跡出土土器



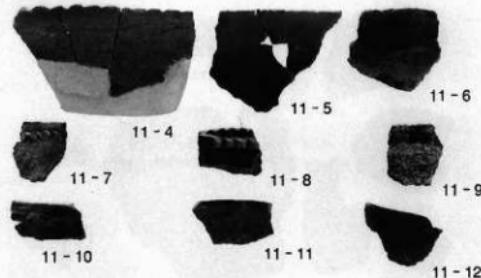
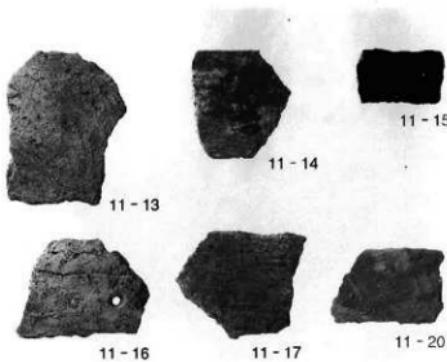
1号竪穴住居跡出土土器



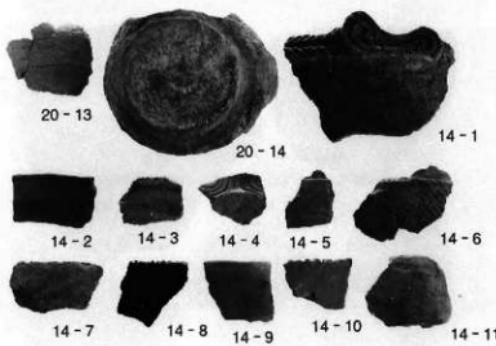
第1黒色土層出土弥生土器



第1 黒色土層出土縄文土器

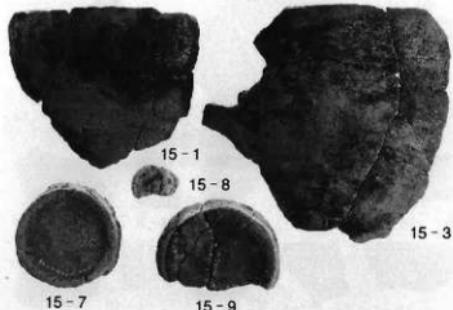
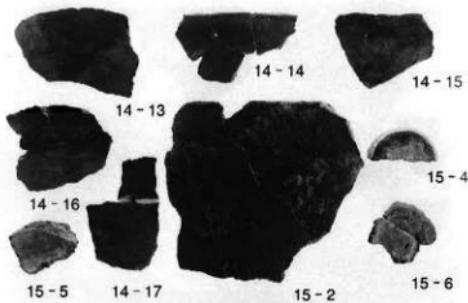


2号整穴住居跡出土縄文土器

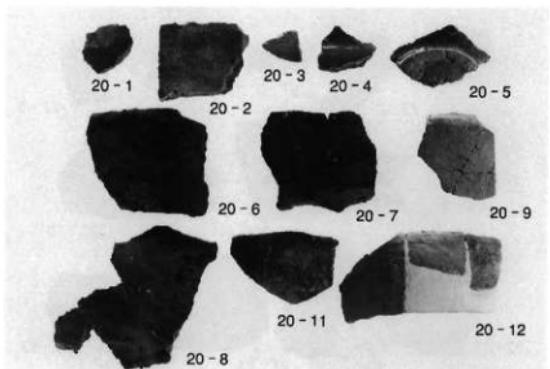




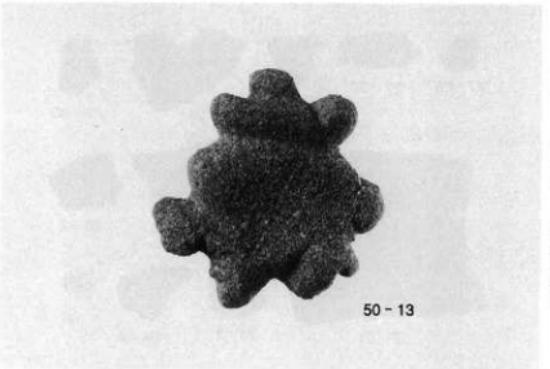
14-12



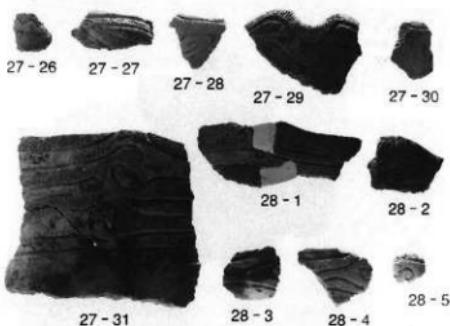
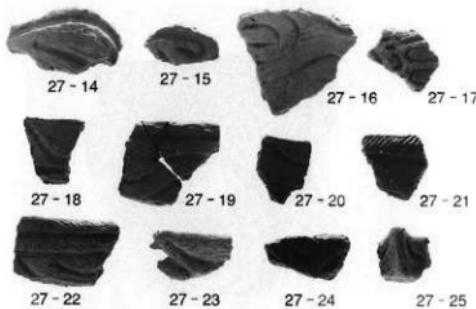
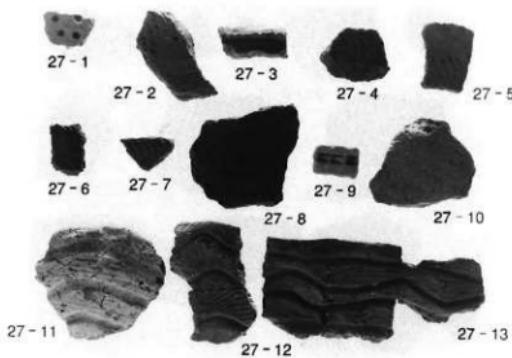
2号竖穴住居跡出土绳文土器



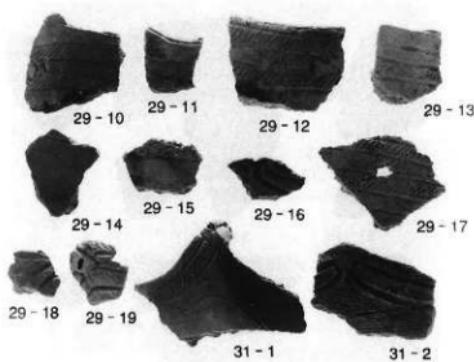
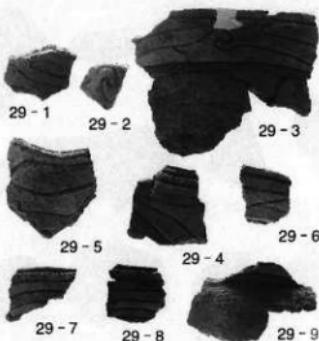
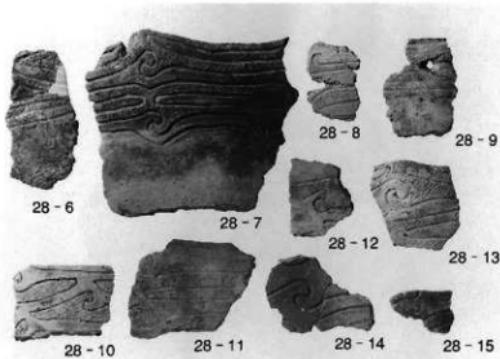
3号竪穴住居跡出土繩文土器



3号竪穴住居跡出土異形石製品



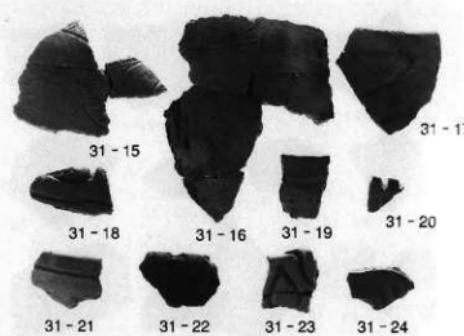
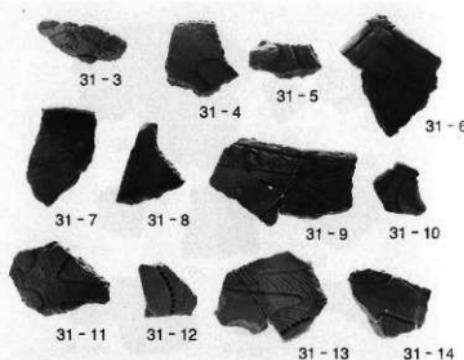
第2 黒色土層出土縄文土器



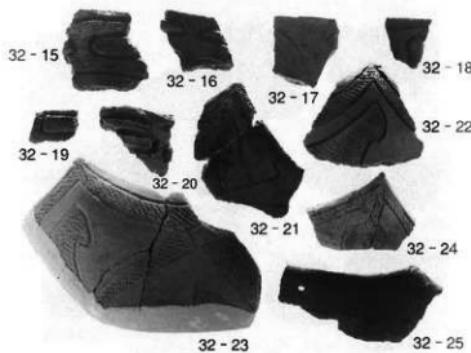
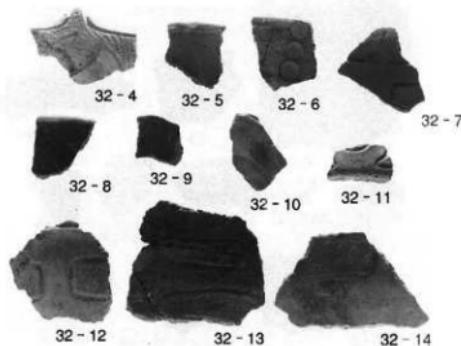
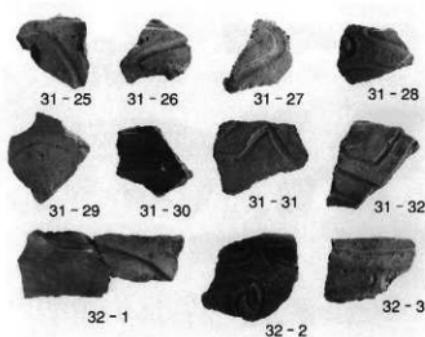
第2 黒色土層出土縄文土器



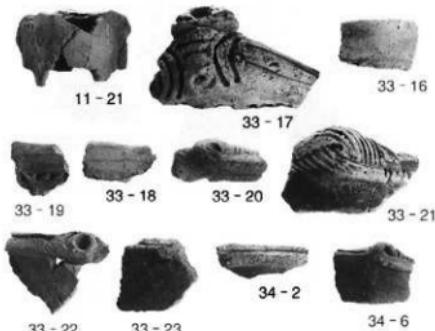
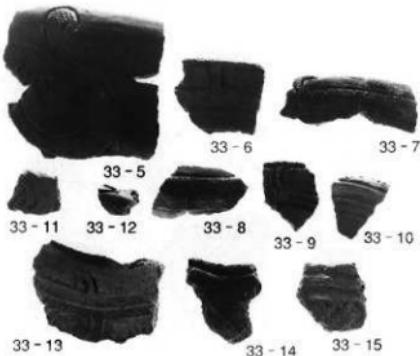
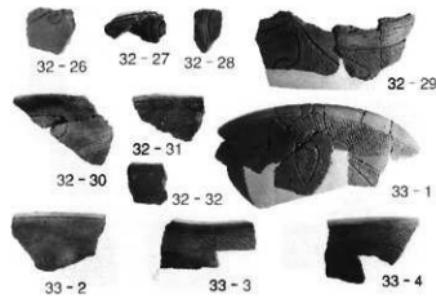
30



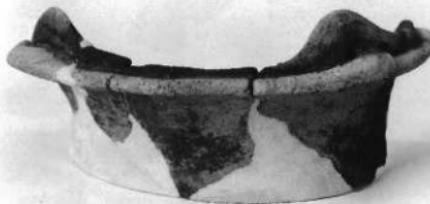
第2 黒色土層出土繩文土器



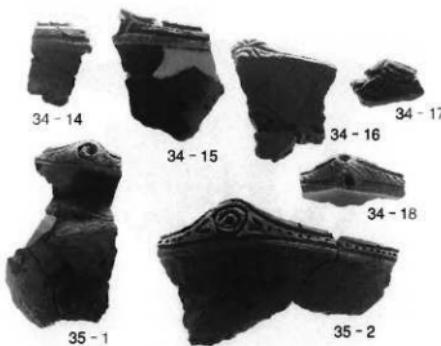
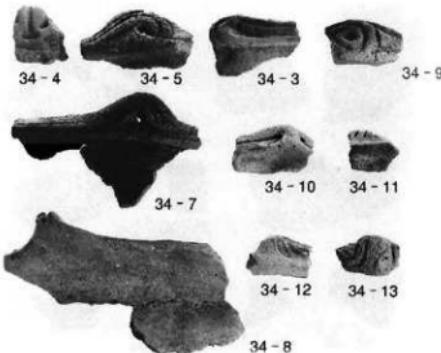
第2 黒色土層出土埴文土器



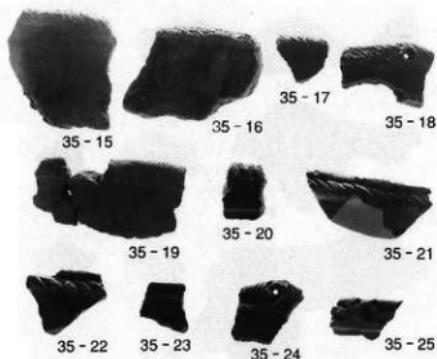
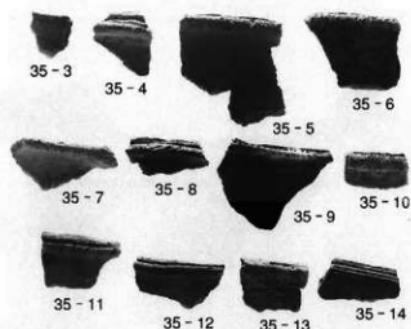
第2 黒色土層出土縄文土器

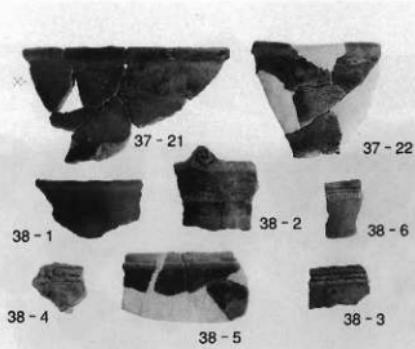
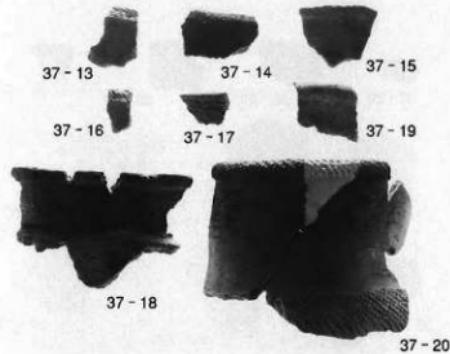
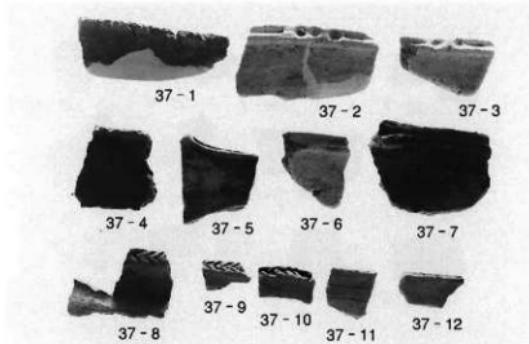


34-1



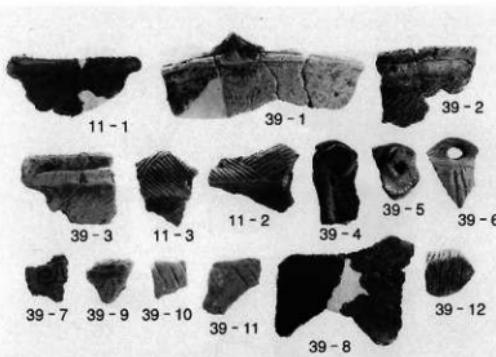
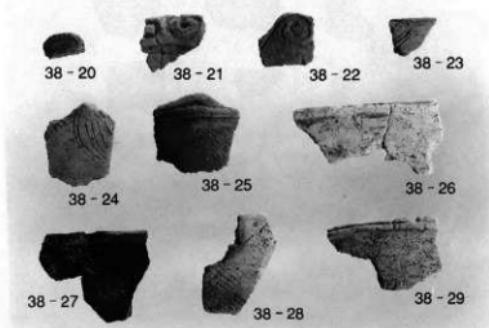
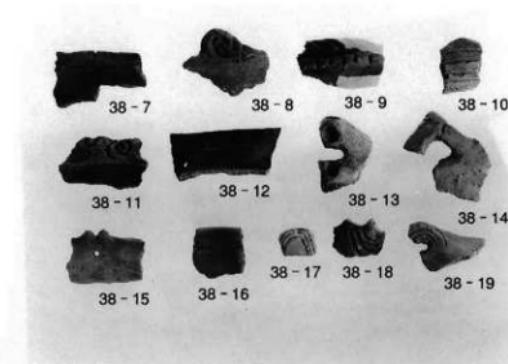
第2 黒色土層出土純文土器



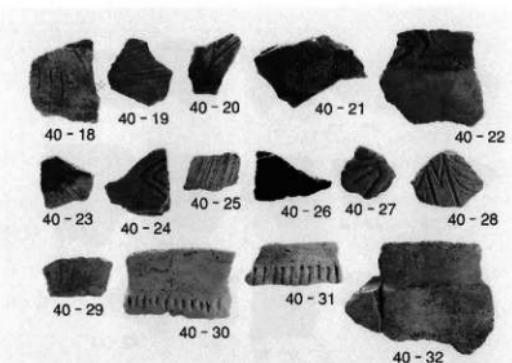
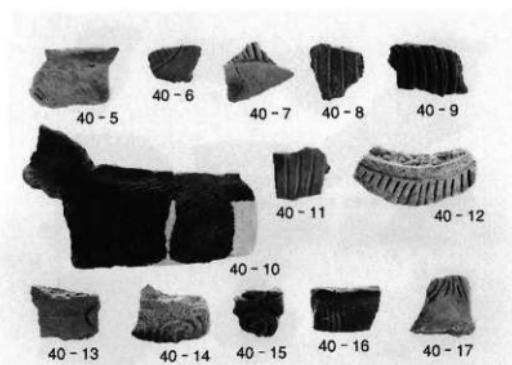
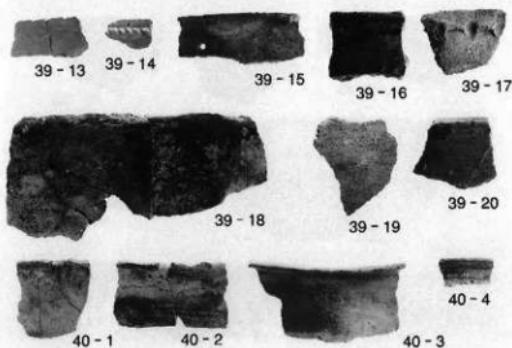


第2 黒色土層出土縄文土器

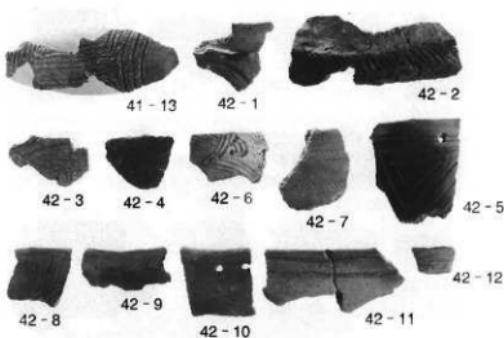
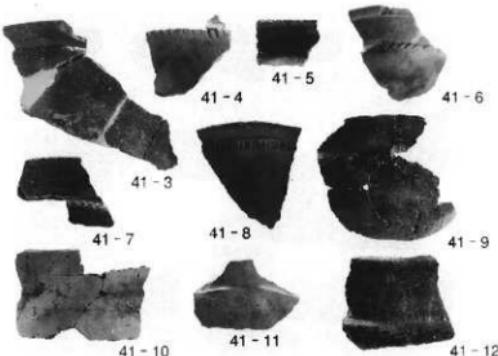
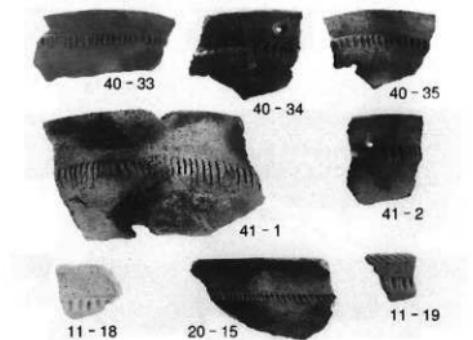
図版34



第2 黒色土層出土縄文土器



第2 黒色土層出土縄文土器



第2 黒色土層出土繩文土器